

建築と社会 Architecture and Society

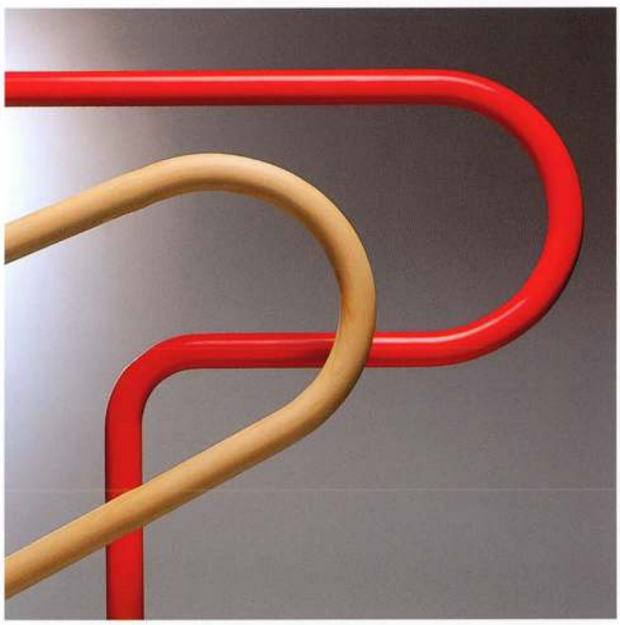
特集
大阪市住宅局－魅力ある大都市居住の実現に向けて－

日本建築協会

01
2004

YM-Beautiful

21世紀は環境共生の時代、地球に優しい、
人に優しい快適・美空間創造を目指して、
建築空間をBeautiful
地球や人にBeautiful



新製品

可視光線に反応!

光触媒入り手すり

自然光や蛍光灯の光で汚れ、悪臭成分を分解する
「光触媒入り手すり」を当社独自の技術で新開発。
高品質で従来品と同価格という経済性も実現!!
医療福祉施設、学校、共同住宅など、
環境に配慮した製品として注目を集めています。
基準色は全29色あります。

光触媒入り
健康塗料 水性

空快
KU-KAI

ホルムアルデヒドを吸着/分解/消臭

近年被害が急増している化学物質過敏症(シックハウス症候群)は
様々な体の不調を引き起こします。
中でも主な原因は
ホルムアルデヒドを代表とする揮発性有機化合物(VOC)であるとされています。
「空快」はこのようなVOCを効果的に
吸着・分解する画期的な
室内用天井/壁面塗料です。

「空快」は2003.7.1から施行された改正建築基準法(シックハウス対策)の基準をクリアしています。



ワイエム工業株式会社
〒547-0005 大阪市平野区加美西1丁目9番7号 TEL(06)6795-5353 FAX(06)6792-1695
札幌 TEL(011)711-8411 / 旭川 TEL(0166)38-6161 / 仙台 TEL(022)238-7782 / 盛岡 TEL(019)665-1751
東京 TEL(03)3634-6632 / 横浜 TEL(045)439-2191 / 名古屋 TEL(052)622-8278 / 京都 TEL(075)611-6159
大阪 TEL(06)6792-1350 / 広島 TEL(082)291-1323 / 松山 TEL(089)917-5505 / 福岡 TEL(092)622-1436
鹿児島 TEL(0995)43-1578
http://www.ym-k.co.jp
お問い合わせ・カタログのご請求は上記まで

2004年を迎えて

社団法人 日本建築協会 会長 佐野吉彦

新年あけましておめでとうございます。
今年が会員の皆様にとって輝かしい年となることをお祈りいたします。

日本経済もそうでしたが、建築界にとってもここ数年は次のステージに向けての必死の模索が続きました。景気には薄日が差しかけていると見る向きもありますが、われわれを取り巻く社会は引き続いての大きな転換の途上にあります。地域社会にも、国際的な関係性にも日々ダイナミックな変化が感じられます。ＮＰＯによるまちづくり、国際的な分業、ネットが生み出す新しい市場、既存建築のコンバージョンなど、少し前では考えられなかった試みも現れてきました。こうした時代に向きあうとき、建築の専門家には、いまどういう知恵や技術を提供すべきなのか、良い建築をつくるしくみはいかにあるべきなのかなどの根本的な議論・追究が必要になってきているように思います。

日本建築協会は、建築にかかわる多様な職域が切磋琢磨しあい、相互に協力しあうことで活動を持続してきました。一方では、それらの蓄積の上に、これから先の建築界や社会のあるべき姿を正しく提言してゆかなければなりません。そのために、本年は本誌「建築と社会」とホームページが担う情報発信機能の一層の充実を図ります。編集・事業・教育・出版・建材の各常設委員会についてはそれぞれの担当事業の内容を掘り下げつつ、協調しながら事業を進めてまいります。さらに、関係諸団体・隣接分野との連携をも積極化することによって、地域社会・市民の求めるものに応えてゆきたいとも考えております。

豊富な人材に支えられた日本建築協会ではありますが、本年はその基盤を今一度しっかりと固める年でもあります。ぜひとも会員諸兄の積極的な活動参加・会務運営へのご協力をよろしくお願いいたします。
皆様方が多方面に、健やかかつエネルギッシュにご活躍されることをお祈り申し上げ、年頭の辞といたします。

日本建築協会・常設委員会

本年の抱負

編集委員会

いま、「建築と社会」の誌面を見なおして

編集委員長
設楽　貞樹

昨年は当協会の青年技術者顕彰が始まって50周年を記念し、過去の顕彰者の方々のなかで各世代から十数名の方に記念の寄稿をお願いしたところ、大変示唆に富んだ、貴重なお言葉を頂戴できました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。それぞれのお言葉は世代と時代を超え、建築を目指す若者だけでなく、現在建築に従事している人たちに向けての熱いメッセージになりました。その一つひとつを読むにつけ、協会の長く厚みのある歴史を感じざるをえません。
さて、建築界を取り巻く状況はあいかわらずの荒天で、曙光をみいだすまでには至っていないのが現状です。本誌「建築と社会」もその影響を受けて財政的にも厳しいものがありますが、たとえ厚みは薄くとも内容は充実した密度の濃いものにしていきたいとの決意のもと、本年は誌面の見なおしを行っていく所存です。会誌としての「建築と社会」の伝統を守りつつ、厳選した記事で構成することを目指します。さらに事業・出版・教育の各事業とも有機的に連携して、会員の皆様の活動がいきいきと伝わってくるページづくりが目標です。会員各位のご指導ご鞭撻を頂戴したいと願っております。
新しい年がみなさまにとって輝かしいものになりますよう、心よりお祈り申し上げます。

出版委員会

能ある鷹よ、爪を出せ！

出版委員長
上原　正行

昨年、関西は阪神タイガースのリーグ優勝で沸きに沸きました。多くの人が「元気」をもらい、関連事業の売り上げ増のうれしいニュースも聞いたのです。しかし建設世界と同様、出版業界、各書店のジリ貧は続いています。だが、読み手の減少にもかかわらず、書店に200冊の新刊書が毎日増えるという現象が見られます。今の世の中、歌う、演奏する、書くといった能動的自己表現を目指す人が増えている証なのでしょう。政治の世界で「マニュフェスト」論議が盛んですが、「有言実行」であってほしいものです。国公立大学も、法人化に向けて活性化の兆しがあります。日頃やっていること、考えていることを、「わかってもらう、知ってもらう」努力をするようになってきました。
さて、いままで研鑽を積まれて得たあなたのノウハウを周囲に発信されませんか？　自費出版では費用もかさむでしょう。委員会のメンバーになっていただき、出版企画をしてください。お待ちしてます。

教育委員会

ひととひととのつながりから得られるもの

教育委員長
片倉　健雄

昨年の後半は、施設に関係のある大きな事故がとりわけ目立った。生産施設の構内のものはさておき、公共施設や身近な事故には関心を持たざるをえない。地震によるものだが釧路空港の大規模な天井落下、新潟の朱鷺（とき）メッセ連絡通路の自然崩落、JR東日本の高架切り替え工事に伴う信号系統の工事ミス、ごみ固形燃料（RDF）発電所の爆発事故とその後のスーパーマーケットでの関連事故、などなど。
技術が進んだからいったん実現したものでありながら、一品生産であることや、規模が大きいこと、複雑な仕組みを伴っていることなどが関係していると思われる。これは技術基準やマニュアルで解決できる問題ではないだろう。
建築工事実務講習会の受講者のアンケートで“講師の体験や考えをもっと知りたい”という意見があった。工高生のデザインコンクールの表彰式の後の茶話会で、先生と生徒のふれ合いがよい作品を生み出していることを聞く。この二つの共通点が建築の本質にあると思う。

事業委員会

歴史の重圧に負けない行動を！

事業委員長
川村　眞次

昨年の越玄の暦に書いてあった解説は結構当たっていたことから、今年も同じ暦を見てみると、「60年前の『甲申の年』は太平洋戦争のリーダー東条英機が年央に自壊し、以降10年間の苦悩を国民に与えた」「向こう10年の国の形を決める年である。言うならば、回天の年になる。『揺れ動く年』根底が揺さぶられる」「役割を終えた老樹に拘り、飽くなき欲望を正当化して、この過程を力で制するなら、向こう10年は暗澹たる時代になるであろう」と予想している。この予想をわれわれの協会に当てはめてみても、その前兆が表れているような気がする。ただ、救いは「上手く人間の知恵で『甲』の種を育て上げれば、向こう10年は豊かな命をもたらせてくれるだろう」とあること。
事業委員会においても、今年は垣根を越えて知恵を出し合い、歴史の重圧に負けない行動を取るべきだと考える。ご協力をお願いいたします。

建材委員会

独自の情報発信の道をさぐる

建材委員長
和田　克朗

建材委員会では、もっぱら商社を含む建材メーカーからの新しい建築材料の紹介と委員による意見交換の結果等を、当委員会の評価を加え、「建築と社会」の誌面を通じて紹介している。
シックハウス問題が社会問題視されだして７年余、平成14年７月、建築基準法が改正され「居室内における化学物質の発散に対する衛生上の処置」の規定が追加され、内装材の制限、機械換気設備の設置などの対策が必要になった。これが新しい建材開発の誘引になるかと思えたが、ようやく景気回復の気配が伝えられるものの、建材開発の活発化にまでは及ばず、この数年当委員会に寄せられる情報は依然として少ない。このため委員会活動も低調となっている。当面は従来の方針を踏襲することとするが、今後建材メーカーからの情報に頼らない当委員会独自の情報発信や、他の事業委員会との連携・統合など、運営方法の変更も検討している。

臨時理事会議決のお知らせ

平成15年12月25日に開催しました平成15年度第３回臨時理事会において、下記議案が承認（書面表決）されましたので報告します。

記

議案　副会長の一部交替について
辞任　與謝野　久（日建設計）　平成15年12月31日付
就任　中井　　進（日建設計）　平成16年１月１日付
副会長の任期は平成16年６月まで（中井進理事の任期と同じ）。
なお、與謝野　久氏は理事として引き続き留任。

国立国際美術館見学会

エントランスゲート



提供:シーザー・ペリ＆アソシエーツ

日　時　2004年2月3日(火)
14:00―16:30
集　合　現地
大阪市北区中之島4-2-1～4
定　員　50人＊申込者多数の場合は抽選
参加費　会員 1,000円、一般 2,000円
学生半額　＊税込
申　込　１月26日(月)までに
①催し名：国立国際美術館見学会
②氏名
③会員・一般の種別
④職場名または学校名
⑤参加証郵送先及び郵便番号
⑥連絡先電話番号
をお知らせ願います。
＊参加証は１月27日(火)に発送します。
申込先　(社)日本建築協会編集事業課
大阪市北区梅田1-1-3-2100
大阪駅前第３ビル21階
〒530-0001
TEL.06-6348-0633
FAX.06-6348-0634
e-mail : jigyoka@aaj.or.jp
主　催　(社)日本建築協会
事業委員会見学会小委員会
担当主査　小林一成／鴻池組

北ー南断面

提供:シーザー・ペリ＆アソシエーツ



敷地は、大阪の新たな芸術・文化の中心地区として開発が予定されている大阪市立近代美術館（仮称）、舞台芸術センター（仮称）、民間施設そして既存の市立科学館、国立国際美術館が集まる中之島４丁目地区に位置しています。計画にあたっては、これらの施設とともに、街区全体の将来像を見据えながら、土佐堀川・堂島川にはさまれた中之島としての敷地の特徴を生かし、中央広場、既存科学館前広場との関係に配慮した設計となっています。本施設は入り口以外の部分をすべて地下に設けた、日本初の完全地下型美術館です。地上部のステンレス製のエントランスゲートは、地下の各ゾーンと地上との連続性を生み出し、文字通り美術館の入り口となると同時に、街区全体のゲートウェイとなるようにデザインされています。

人と美術との交流を生み出し、市民が親しみやすい現代美術館として地下１階までを無料のパブリックゾーンとして充実させ、展示空間も多様な現代美術作品の展示に配慮してフレキシビリティーを重視しています。同時に、阪神・淡路大震災の経験にかんがみ、地震・水害・防水対策、避難計画に万全の方法を講じています。

1995年に公募型プロポーザルにて設計者（シーザーペリ&アソシエーツ）が選定され、1998年着工、2004年３月竣工、同年11月オープンの予定です。

高原浩之／シーザー・ペリ アンド アソシエーツ ジャパン(株)

■国立国際美術館

設 計 者　Cesar Pelli & Associates Inc. Architects
シーザー・ペリ アンド アソシエーツ ジャパン株式会社
設計監修　国土交通省近畿地方整備局営繕部
監　　理　国土交通省近畿地方整備局営繕部　営繕監督室
シーザー・ペリ アンド アソシエーツ ジャパン株式会社
施　　工　錢高・鴻池・大本　特定建設工事協同企業体

所 在 地　大阪市北区中之島4丁目2-1～4
施工期間　平成10年11月～平成16年3月(予定)
敷地面積　16,085.75㎡
建築面積　4,289.2㎡(延床面積13,487.0㎡)
階　　数　地下3階、地上1階
構　　造　RC造(一部SRC造)
エントランスゲートステンレス:210ton

『民間(旧四会)連合協定工事請負契約約款』頒布場所のお知らせ

本約款を下記場所で頒布しております。広くご利用いただきますようお知らせいたします。

●(社)日本建築協会事務局
〒530-0001
大阪市北区梅田1-1-3-2100
大阪駅前第3ビル・21階
TEL.06-6348-0635

●(社)日本建築協会京都支部
〒604-0944
京都市中京区押小路通柳馬場東入橘町641
京都建設会館別館内
TEL.075-211-2857

●(社)日本建築協会和歌山支部
〒640-8045
和歌山市ト半町38　建築士会館
TEL.073-423-2562

●大阪府庁別館諸用紙販売
〒540-8570
大阪市中央区大手前2-1-22
TEL.06-6941-4741

※販売価格　1部230円（A4判）
（工事請負契約約款、工事請負契約書、仲裁合意書、契約書使用上の留意事項、建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律第13条及び省令第4条に基づく書面）

平成15年度
建築工事実務講習会

主催
(社)日本建築協会東海支部

と　き　平成16年1月29日(木)
　　午前9時30分～午後5時
ところ　昭和ビル・9階ホール
　　(名古屋市中区栄4丁目3-26)
定　員　100名
受講料　15,000円（含テキスト代）
　　＊消費税を含む。
　　＊テキストは、当日配布させていただきます。

■趣旨と内容

- 官公庁・設計事務所・建設業をはじめ、設備・営繕など幅広い分野の有能な技術者を養成する目的をもって講習会を開催します。
- とくに取りつきにくい施工計画と仮設見積、現場実務の基礎である積算業務に重点をおき、講義します。
- また、都市環境の変化に伴う法令・規準の改正なども加え、技術の進歩に即応した知識の習得をはかります。
- 「積算業務」では、建築数量積算基準にのっとり、また「仮設見積」では具体例により、その着工準備から完成に至るまでをわかりやすく解説します。

■申込要領

下記受講申込書に必要事項をご記入のうえ受講料を添えて東海支部までお申し込み下さい。引き替えに受講券を発行致します。
なお、FAXによる申込みは、現金書留にて送金して下さい。

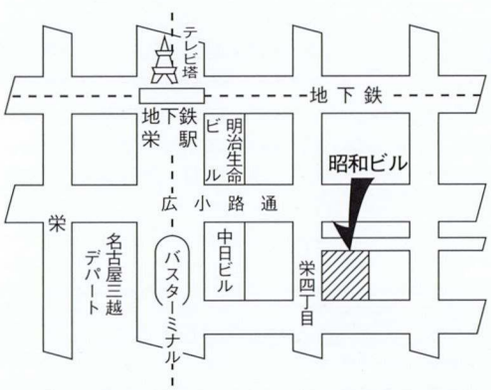
■申込先

(株)日本建築協会 東海支部
〒460-0008　名古屋市中区栄4-3-26
（昭和ビル　愛知建築士会内）
TEL（052）261-1451
FAX（052）261-0251

■申込締切日

平成16年1月9日(金)
※但し、定員に達し次第締め切ります。

- 受付時間
  午前9時～午後5時
  但し土・日・祝日を除く。
- 詳細は、事務局へお問い合わせください。



昭和ビル
(名古屋市中区栄4丁目3-26)
付近見取図

■科目・講師

一歩踏み込んだ先手の計画!!

施工計画

森　良次氏
清水建設(株)名古屋支店建築技術部
品質環境グループ長
＊
適切な施工計画の立案できることが、建築現場技術者の必須条件です。安全で、経済的な施工計画を解説します。

計画と一致した仮設費を!!

仮設見積

堀　政広氏
(株)大林組名古屋支店建築工事部
建築生産技術グループ長
＊
仮設工事費は、一般には非常に把握しにくい面があって、ついつい単位面積当たり、あるいは請負金比率のみで処理されがちです。施工計画に基づいた合理的で迅速な見積方法を解説します。

迅速かつ合理的な積算!!

積算業務

佐野洋治氏
(株)竹中工務店名古屋支店見積部見積担当課長
＊
見積業務のなかで、基本となるのは数量積算です。この手順、基準を基本により合理的で正確な積算業務を解説します。

きりとり線

平成15年度建築工事実務講習会 東海開催受講申込書

No.＿＿＿＿

社団法人　日本建築協会東海支部　御中

平成　　年　　月　　日

郵便番号	受講者氏名	年齢
住所		
事業所名（または氏名）		
担当責任者		
電話番号		
受講料支払方法　•現金書留　•事前申込時持参		

建築と社会 01 2004
Architecture and Society
JOURNAL OF THE ARCHITECTURAL ASSOCIATION OF JAPAN

1917年創刊　第85集／通巻982号

今月の表紙

企画／高野直樹
企画と写真／伊藤　彰
表紙デザイン／窓田衣里

●さて、これはなんでしょう？
今年の表紙は“まちの発見シリーズ”です。
普段、見過ごしてしまっている身近な風景をフレームに切り取ると、はっとするような美しい形態がクローズアップされます。写真家の伊藤彰氏の鋭い観察眼によって、今まで見過ごされていた美しいまちの形態が私たちに感動と驚きを与えてくれます。
今回のロケ地はフェスティバルホール南側にかかる錦橋です。
どうですか、一度見にいきませんか。
急ぎ足をちょっと休めて、まちをみつめてみましょう。そこには、いままで気がつかなかった美しい形態がきっとあなたを待ってます。　（高野直樹）

■特集予告
2月号／都市緑化
3月号／東海支部会員作品
愛・地球博ー2005日本国際博覧会のめざすものー

編集委員会（平成15年度）
■副会長
井上　豊
奥謝野　久
■編集担当理事
上原　正行
岡田　聿之
佐藤友美子
◎設楽　貞樹
竹中　統一
畠山　祐治
広原　盛明
堀田　修二
松村　慶三
■特集小委員会
□計画分科会
★計画系
伊藤　憲幸
※鈴木　克彦
田中　直人
紅谷　昇平
細田　浩史
松田奈緒子
辻　武之
三宅　次郎
森　康郎
吉村　英祐
★建築計画系
荒木　宏之
江副　敏史
菅野　忠司
木多　彩子
楠　敦士
小林　優子
桜井　則雄
笹村　欽也
静　茂夫
所　千夏
※野田　隆史
三村　和生
★インテリア・住宅系
加藤　力
小梶　吉隆
佐藤　勝紀
田中　浩介
※高野　直樹
戸井賢一郎
西田　和子
ペリー史子
本山　仁
□構造分科会
稲田　竜也
大氏　正嗣
大住　和正
尾上　清治
木下　隆嗣
白髪　誠一
住田　隆二
田中　剛
※田渕　勝道
松村　和夫
向井　洋一
山本　健二
吉川　真次
□設備分科会
※梶井　宏修
河井　康人
河津　隆之
近藤　国夫
近藤　正一
多賀　浩三
田ノ畑好幸
桝井　貴廣
松浦　肇
丸山　和夫
村上幸三郎
□施工材料分科会
植田　実
竹中　秀文
太刀川丈爾
野島　昭博
平田　茂良
※平野　剛
吉田　正友
□法令分科会
岡本　哲夫
坂中　信隆
田村　俊郎
※鶴田　和幸
溝上　省二
山根　正利
■作品作風小委員会
赤木　隆
石塚なぎさ
居内　章夫
井上　雅祐
池上　明
川上比奈子
△倉澤奈千子
寺岡　宏治
鞆野　淳司
中村　文紀
林　孝司
前川　治彦
増田　敬彦
山田　俊紀
■会員企画小委員会
稲木　裕子
大谷由紀子
河崎　敦子
清水　麗子
△髙岡　伸一
髙田　光雄
辰巳　清一
塚口　明洋
辻川ひとみ
福田　瑞穂
■広告企画小委員会
荒本　俊明
池田　孝夫
石塚　俊明
小山　昭
斉藤　治久
竹内　健介
古畑　健一
前田　衛
横田　和生
△渡邊　浩文
◎委員長　△副委員長　※幹事

印　刷　2003年12月25日
発　行　2004年1月1日
発行人　社団法人日本建築協会
発行所　社団法人日本建築協会
大阪市北区梅田1-1-3-2100
電　話　06-6348-0635
振替口座　00910-9-39975
印刷所　青葉印刷株式会社
日本データネット株式会社
定　価　1200円〔税込〕

CONTENTS

特集●　大阪市住宅局 ―魅力ある大都市居住の実現に向けて―

［巻頭の言葉］
市民が誇りに思い、ゆとりと豊かさを実感できる都市の実現をめざして●岸野和雄 ―― 15
［建築作品］
大阪市中央公会堂／大阪歴史博物館／湊町リバープレイス／大阪産業創造館／舞洲工場／中央卸売市場市場棟／扇町プール／住まい情報センター・住まいのミュージアム「大阪くらしの今昔館」／古市東住宅／高見住宅57号館／浪速区役所・浪速保健福祉センター／平野区役所・平野保健福祉センター／十三市民病院／クラフトパーク／阿倍野区民センター・阿倍野図書館・葬祭場（やすらぎ天空館）・阿倍野駅自転車駐車場／男女共同参画センター中央館（クレオ大阪中央）／天王寺動物園キリン舎・草食動物舎・サイ舎・カバ舎 ―― 16
［プロジェクト紹介］
●あべのフォルサ（防災中枢拠点複合施設） ―― 36
大規模災害時への対応をより確かにする施設の整備
●（仮称）浪速スポーツセンター・温水プール・アイススケート場、（仮称）浪速区在宅サービスセンター ―― 38
子どもから老人まで気軽に利用できる生涯スポーツ拠点と浪速区在宅サービスセンターの複合施設
●阿倍野A1地区第2種市街地再開発事業A3棟 ―― 40
阿倍野のランドマークとしてーあべのグラントゥールー
［寄稿］
大阪市の建築行政●三輪雅久 ―― 42
公共建築と環境●永村一雄 ―― 44
大阪市における住まいの変遷●谷　直樹／新谷昭夫 ―― 46
［事業紹介］
大阪市／HOPEゾーン事業ー「平野郷地区」「住吉大社周辺地区」ー ―― 48
密集住宅市街地整備について ―― 50
建築指導行政による良好な市街地の形成について ―― 52

年頭のことば　2004年を迎えて●佐野吉彦　1
本年の抱負　常設委員会●設楽貞樹・上原正行・片倉健雄・川村眞次・和田克朗　2
会告　臨時理事会議決のお知らせ．国立国際美術館見学会．『民間（旧四会）連合協定工事請負契約約款』頒布場所のお知らせ．平成15年度建築工事実務講習会ー東海支部ー　3

作品作風　JR東日本アートセンター 四季劇場［自由］　6
ウェルブ六甲道１番街　8

gallery　光と闇の意匠（田村利夫）●山田俊紀　10
建築の眼　女性と年金と住まい●楡谷美恵子　12
起承転結●荒木　敏
保存・再生●太田隆信
「まち」と「ひと」●江口　崇
法令コーナー　大阪市狭あい道路拡張促進整備事業●坂中信隆　54
構造の頁　緒方町統合中学校の構造設計●金田興照／白髪誠一　55
設備の頁　関西電力の蓄熱受託制度と採用事例●中原達之　57
研究最前線を追う　建築をとりまく熱・空気・光・音●大阪市立大学工学研究科建築環境工学研究室　58
新建材の頁　保水セラミック環境材●岡平博明　59
information　「ジャン・ヌーベル展」．ふくやま美術館「日本を意匠した近代建築家たち」．「具体」回顧展～兵庫県立美術館～．第53回アイカ現代建築セミナー．第17回大阪市ハウジングデザイン賞の受賞作3点．第35回中部建築賞表彰作品が決まる　60
月間の動き　平成15年11月分　62
デザインコンクール　第49回工高生デザインコンクールー設計課題：学校に建つ メディアセンター　63



エントランスロビー



客席

作品風

企画設計■
劇団四季

設計・監理■
建築設計・監理：JR東日本東京支社建築課＋JRE設計
株式会社大林組本店一級建築士事務所
設備設計・監理：清水建設株式会社一級建築士事務所

施工■
清水建設・大林組建設共同企業体
サッシ工事　：不二サッシ
タイル・レンガ工事　：八木惣
サイン・ディスプレイ工事：エイチ・エス・エイ
装飾金物　：B・プレイス
座席工事　：岡村製作所
照明工事　：オーデリック

JR東日本アートセンター 四季劇場［自由］

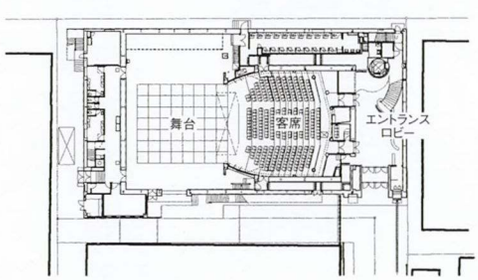
JR東日本アートセンター四季劇場［自由］は、ミュージカルの殿堂として名高い四季劇場「春」「秋」に隣接して建設されたストレートプレイ（歌や踊りがなく台詞中心の芝居）専用の小劇場である。劇場の名称［自由］はわが国初の新劇の劇団「自由劇場」を、また葡萄のシンボルは1920年代に後の新劇運動の基礎を創った「築地小劇場」のロゴマークを由来としている。劇団四季は、自由劇場から築地小劇場へと続く新劇運動を今後も継承するための基点として、劇団創立50周年の2003年に竣工すべくこの劇場を建設した。

外観は、メインアプローチのレンガ敷やレンガ塀、エントランスの構えなど、築地小劇場が設立された1920年代をイメージさせる空間にした。

エントランスロビーはロートアイアン手摺や泡入りガラスのペンダント照明など手作り感のある素材を用い、客席部は１階席後方天井のＳ字曲線形状や客席を包み込む曲線の壁で柔らかさを表現し、暖かみがあるクラシックな空間にした。

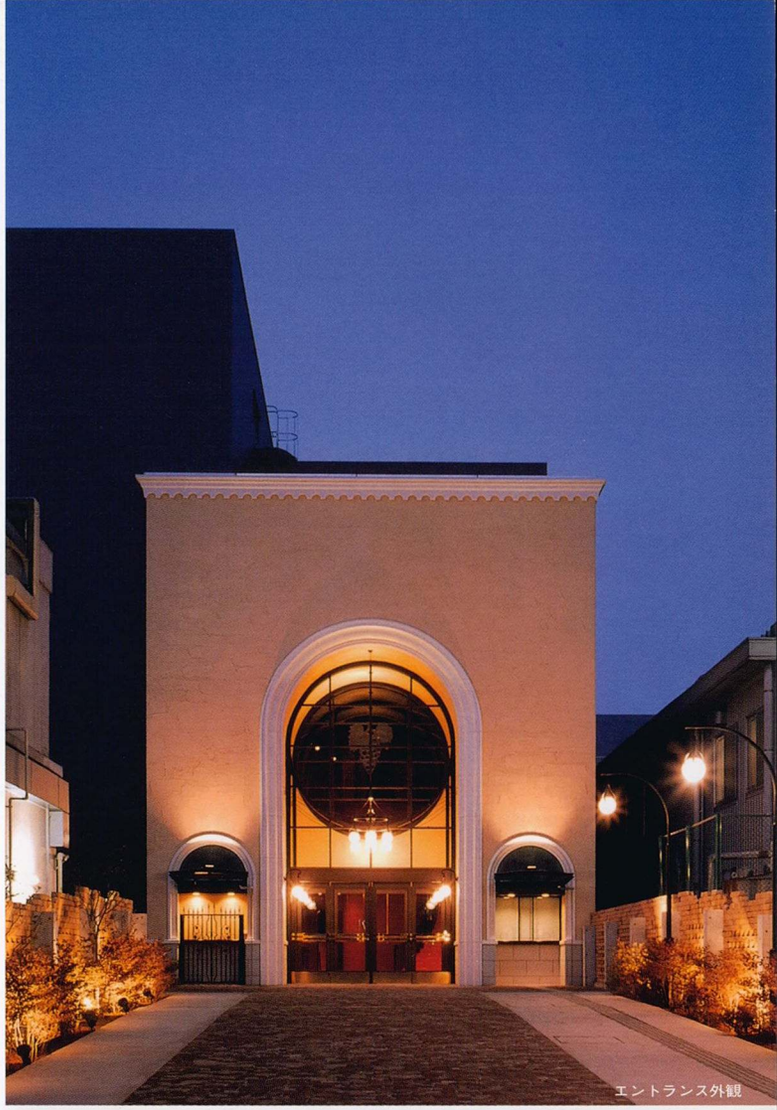
客席は役者の繊細な表現が伝わるよう舞台から１階席後方まで15mと距離を短くし、一方舞台はダイナミックな演出が可能な大型の舞台とした。また舞台には、80本の手引バトンを迅速自在に電動操作できるシステムを導入するなど、様々な演出に対応可能な機能を備えている。

自由劇場が観客・役者・スタッフに愛され、演劇文化発展に貢献することを心より願う。　（神道浩・横山和典・小西由彦／大林組）



1階平面図　1：1200

所 在 地 —— 東京都港区海岸1-22-1
敷地面積 —— 1,986.56㎡
建築面積 —— 1,416.88㎡
延床面積 —— 2,999.16㎡
構造規模 —— S造、B1、4F
工　　期 —— 2003年１月～2003年10月
最 寄 駅 —— JR山手線浜松町駅
撮　　影 —— 鹿毛洋三


エントランス外観


エントランスロビー




Food Store
BELLFA

作品
作風

設計・監理■
神戸市都市計画総局
安井建築設計事務所

施工■
大林、前田、新井、東亜特定建設工事共同企業体

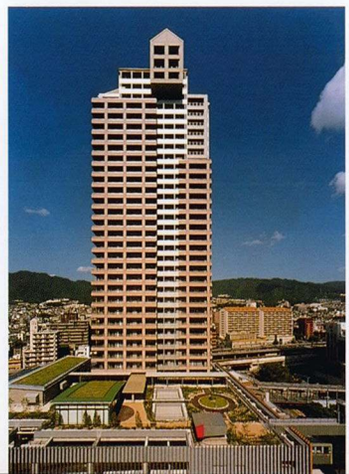
ウェルブ六甲道1番街

本計画は阪神大震災によって甚大な被害を受けた市街地の復興と、副都心にふさわしい整備を図るため、神戸市により施工中の市街地再開発事業の一街区の計画です。
約1haの公園を囲んだ6つの街区の設計を行うにあたり、地域として統一感を持ちながらも、それぞれが個性をもった楽しい街となるように、地元の方々、神戸市の指導のもと、各街区の設計者が集まり、この地区の歴史、自然、生活、震災などについて話し合い、この街のデザインキーワードをつくり、設計を進めました。
当街区の特徴としては、先に完成した2番街とともにツインタワーとして、遠景よりのシンボルとなる超高層住宅であることと、地域の商業活性化のために大型店を誘致する計画であることでした。高層部は2番館のメタリックな表情を受け継ぎながら、六甲地区の街並みを印象付ける「さび御影石」の暖かい色合のタイルのバルコニー部分を加え、いくつかの建物が重なったように分節させて、周囲を威圧しない表情をつくりました。大きく単調な壁面となりがちな大型店と駐車場からなる低層部は、スクラッチタイルにフラットタイルをストライプ状に組合せ、光のあたり方や見る角度で見え方が変わる壁面と、焼物の自然な風合いと軽やかなリズム感を持ったテラカッタのルーバーによって、街並にやさしい表情をつくりました。
また、南西部には、シースルーエレベーターや、階段をモニュメンタルに配置した広場空間をもうけ、北側JR六甲道駅から、将来できる南側公園へと広がる構成としました。様々なイベントなどに利用され、街のにぎわいの創出に寄与できることを期待しています。

（設楽貞樹・畑　正俊・戸川勝之／安井建築設計事務所）

所 在 地 —— 兵庫県神戸市灘区深田・備後町5丁目
敷地面積 ——　7,008.52㎡
建築面積 ——　5,924.71㎡
延床面積 —— 45,935.06㎡
構造規模 —— 高層部SRC、低層部SRC、S
工　　期 —— 2000年9月～2003年8月
最 寄 駅 —— JR六甲道駅
撮　　影 —— 名執一雄











gallery

光と闇の意匠

照明デザイナー
田村利夫

瞬間の光

相国寺八塔におけるピアノとクラリネットの
コンサートを照明した

照明器具の材料は竹のみ

屋外照明の光源はろうそくのみ

露地の照明はコンサート開始時には点灯せず
コンサート閉幕と同時に点灯した

青竹にろうそくの光を挿入すると
竹は、不思議に赤く光る

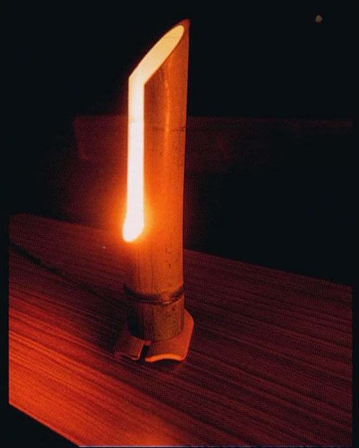
寺院の素晴らしい音響効果を余韻として
楽しんでもらうための仕掛けである





相国寺様の御協力により実現したプロジェクトです。
御協力に感謝いたします。





田村利夫　たむらとしお
1950年生まれ
1988年AZU設計工房設立

撮　　影　荒木義久
企画編集　山田俊紀（作品作風小委員会）

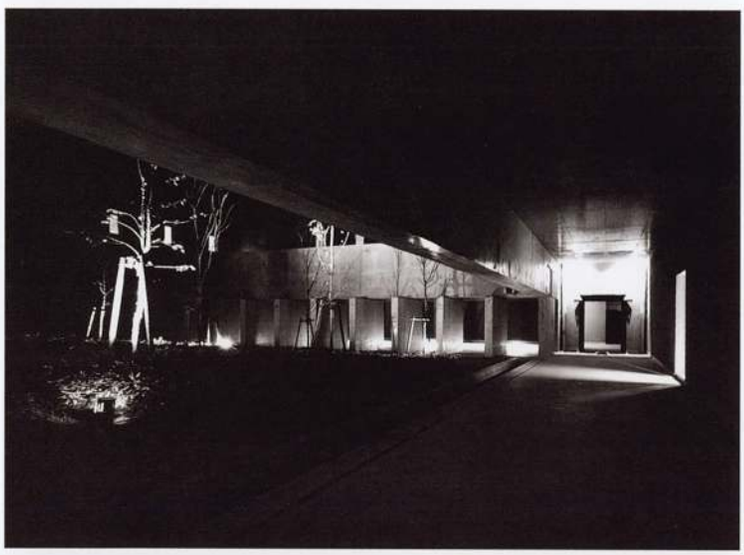
恒久の闇

闇を明るく照らすのが照明とは考えない

闇を最大限に生かせる照明を考えている

我々人間は、もともと自然のサイクルの中で生きていることを再認識すると同時に、闇もたんに制するのではなく、楽しむことも大切である

神戸改革派神学校（神戸市）　　甲南大学甲友会館（神戸市）
兵庫大学健康科学部４号館（神戸市）　阪神百貨店外壁リニューアル（大阪市）









建築の眼

女性と年金と住まい

団塊の世代が高齢化する2015年頃には、現在の高齢化比率を大きく上回る超高齢社会がやってくる。そこを見据えて、今から持続可能な年金制度を設計しておくことが、焦眉の急となっている。老後の生活設計を左右する年金制度のあり方は、住まいの問題にもつながっていく。例えば、女性と年金。自立に必要な経済基盤さえ整えば、夫の面倒をみる生活からは解放されたいと考えている中高年の女性は少なくないと思われる。このためか、巷ではサラリーマンの妻となっている専業主婦が、離婚しても第３号被保険者として年金を受給できるようになると、熟年離婚に弾みがつくだろうと言われている。そうなれば、世帯分離による新たな住宅需要が生まれる。住まいへのニーズも変わるかもしれない。５年ほど前、女性を対象にしたアンケート調査で、コレクティブハウスのような協同居住への関心を尋ねたところ、郊外の１戸建て住宅に住み、安定した生活を送っているかにみえる50歳台の女性が、意外にも協同居住に肯定的であった。子育てがおわってからの長い人生をどう生きるかと考えたとき、「気のおけない仲間と一緒に暮らす」住まいのほうが、家族を単位としたこれまでの住まいよりも魅力的に思われたようである。年金制度や介護保険制度は、高齢期に、誰と、どこで、どのように暮らすのかをめぐる選択肢の実現可能性を左右する。これからの住まいのあり方を考えるうえで、看過できない問題である。

檜谷　美恵子　大阪市立大学大学院生活科学研究科助教授

起承転結

起：高度経済成長の真只中、公害が大きな社会問題としてクローズアップされていた頃、専攻したという地域計画論をぶら下げ、その力を発揮すべき場はここにありと、胸を躍らせながら、行政マンの仲間入り。思考と現実の乖離は大きい、一般社会はややこしい。初めての挫折感を味わう。

承：行政業務も一通り経験し、あたかも自分一人で身に付けたごとく、後輩の指導という名のもとに、見栄をはりつつ、いっぱしの評論家然として、建築技術の行政における役割とは何か、今後、どうあるべきか、と論陣を張りながら、連夜のごとく酒を酌み交わす。家に帰ればお父さんですよ。早く帰れ。

転：机の向きが90度回転した部下と呼ばれる人達を横に見ながら、中間管理職としての役割とは何か、と自問自答。自分の業務をこなしながら、目配り、気配りで職員の健康管理までやれと言う。自分の事で精一杯なのです、公私にわたって忙しいのです。

結：そろそろ第二の人生設計を考えねばならないのに、そうした時間のゆとりもないままに、今時の若い子は……とこぼしながら、自分では出来なかったことを中間管理職に押しつける。一方、上からは脅迫まがいの締め付けで悪戦苦闘の毎日。これまで歩んできた道のりを振り返る時、我が人生に悔いはなし、と誇らしげに言える自分を見たいものだ。

荒木　敏　京都府土木建築部住宅課長

保存・再生

あけましておめでとうございます。早いもので、大阪市中央公会堂も保存・再生工事竣工から３年目の春を迎えました。15カ月たって少しく距離をおいたところから、保存・再生のことども３回に分けていろいろのテーマで論じさせていただきます。

1918年竣工のこのホールは、1998年の使用停止までの80年間ずーっと公会堂として人々に愛され活用されてきました。これは本当に大変なことでギネスブックものといっていいでしょう。そうはいうものの晩年は少しくたぴれてきて、大規模な改修を望む声もありました。その一方、これだけの建築だから重要文化財の指定を受けて保存してゆこうと市民各位の熱い思いがありました。

この２つを両立させることは、普通に考えると難しい。それぞれの立場から議論を始めると、船山に登るなんてことにもなりかねない。そこのところをスパッと「そんなにすばらしい建物なら、是非とも重要文化財に指定してもらいなはれ。ほんで、これまで以上に皆様に活用されるようにやってみなはれ。うまくいくのとちがいまっか」と、このしなやかな発想で、これまで、文化財を中心に育まれてきた保存の作法と、市井の建物でしたたかに培われてきた作法が合体し今回の保存・再生工事に実りました。このことは、都心部の明治・大正・昭和の近代建築のこれからを考える上で、大阪ならではの貴重な第一歩と、誇らしい思いです。

太田　隆信　（株）坂倉建築研究所代表取締役

「まち」と「ひと」

ここ数年来、「都市再生」の社会的な必要性が認められ始め、我々建築業界に籍を置くものにとっては、大いにその動向が注目され、また期待も大きいのですが、その一方で「都市」と「再生の理念」については、もっと様々な視点、特に市民（住民）の側からの広範な論議と、街づくりへの関心・認知が更に必要になってきていると感じています。

改めて言うまでもなく、「ひと」が集り、住い賑う場が「まち」となり、街が生まれることで更に人が集い、建築と都市が創られるのですから、建築があるから街になる訳ではなく、「まち」が必要とされる故に「建築」更に「都市」が創られ、継続するものでしょう。

「ひと」を主役としたステージが「まち」であり、その背景が建築であり街路なのですから、主役不在の「まち」は、まるで遊園地のように、次々と面白おかしい施設や装置を造り続けるしか賑いは生まれず、「ひと」が集うことがなくなれば、街は廃れます。

今後の「都市再生」は画一的また短期的な視点だけではなく、将来・長期にわたる「自分たち」の街づくりを目指して、各地域それぞれの特性や環境に相応しい、時を超えて「住み続けられ、愛される街づくり」のグランドプランの策定が、今必要な時期であろうと思われます。その為の、住民、行政、また建築界との緊密なコミュニケーションが今後一層重要であり、「フランクな議論の場」づくりが、まず必要となります。

江口　崇　（株）フジタ大阪支店企画営業部長

特集

大阪市住宅局

—魅力ある大都市居住の実現に向けて—



巻頭の言葉

市民が誇りに思い、ゆとりと豊かさを実感できる都市の実現をめざして

岸野和雄

◇

建築作品

大阪市中央公会堂

大阪歴史博物館

湊町リバープレイス／大阪産業創造館

舞洲工場／中央卸売市場 市場棟

扇町プール／住まい情報センター・住まいのミュージアム「大阪くらしの今昔館」

古市東住宅／高見住宅57号館

浪速区役所・浪速保健福祉センター／平野区役所・平野保健福祉センター

十三市民病院／クラフトパーク

阿倍野区民センター・阿倍野図書館・葬祭場(やすらぎ天空館)・阿倍野駅自転車駐車場

／男女共同参画センター中央館（クレオ大阪中央）

天王寺動物園 キリン舎・草食動物舎・サイ舎・カバ舎

◇

プロジェクト紹介

あべのフォルサ（防災中枢拠点複合施設）

（仮称）浪速スポーツセンター・温水プール・アイススケート場・（仮称）浪速区在宅サービスセンター

あべのグラントゥール

◇

寄稿

大阪市の建築行政

三輪雅久

公共建築と環境

永村一雄

大阪における住まいの変遷

谷　直樹・新谷昭夫

◇

事業紹介

HOPEゾーン事業

密集住宅市街地整備について

建築指導行政による良好な市街地の形成について



生野区役所他



（仮称）都島温水プール



（仮称）市立大学総合教育棟



（仮称）鶴見区民センター他



（仮称）西温水プール



淀川消防署



西淀川区役所他

市民が誇りに思い、ゆとりと豊かさを
実感できる都市の実現をめざして

平素は住宅局の事業推進に格別のご支援ご協力を賜り、厚くお礼申しあげます。

21世紀を迎え、少子・高齢化の一層の進行、国際化・情報化の進展、地球環境問題への関心の高まりなど社会経済情勢が変化するとともに、都市が成長から成熟の時代へと変わりつつあるなか、大阪市では活力と魅力にあふれる「持続可能な」都市として、さらに発展を遂げていくための取り組みを進めています。

とりわけ住宅局におきましては、「魅力ある大都市居住の実現」に向けて、地域の特性を活かしながら、一般営繕施設、学校や市営住宅等の市設建築物の建設をはじめ、個性豊かな居住地整備や、老朽住宅密集市街地の更新事業を進めるとともに、住まいに関する情報提供・相談サービス、建築指導行政等の業務を通じて、誰もが安心して快適に暮らせる魅力あるまちづくりを進めています。また、市設建築物設計指針（環境編）、屋上緑化設計指針や建設リサイクル実施要領等にもとづき、良好な都市環境の保全に積極的に取り組んでいるところです。

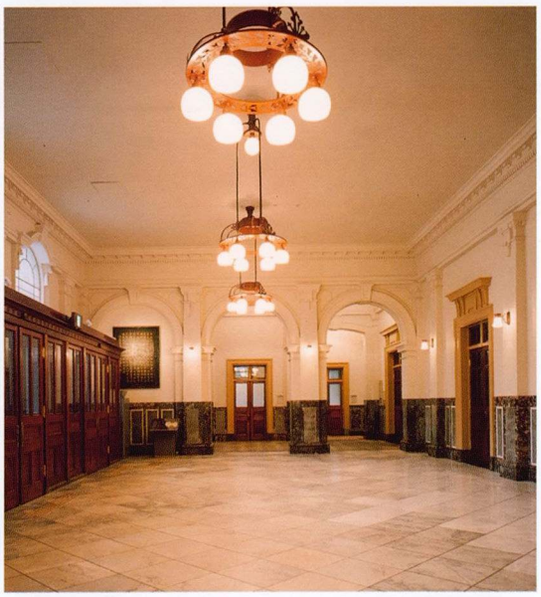
昨今の厳しい財政状況のなか、コスト縮減のより一層の推進といった課題もございますが、今後とも市民が誇りに思い、ゆとりと豊かさを実感できる「21世紀のモデル都市大阪」の実現をめざして一層の努力を続けてまいりますので、皆様方の一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申しあげます。

平成16年１月

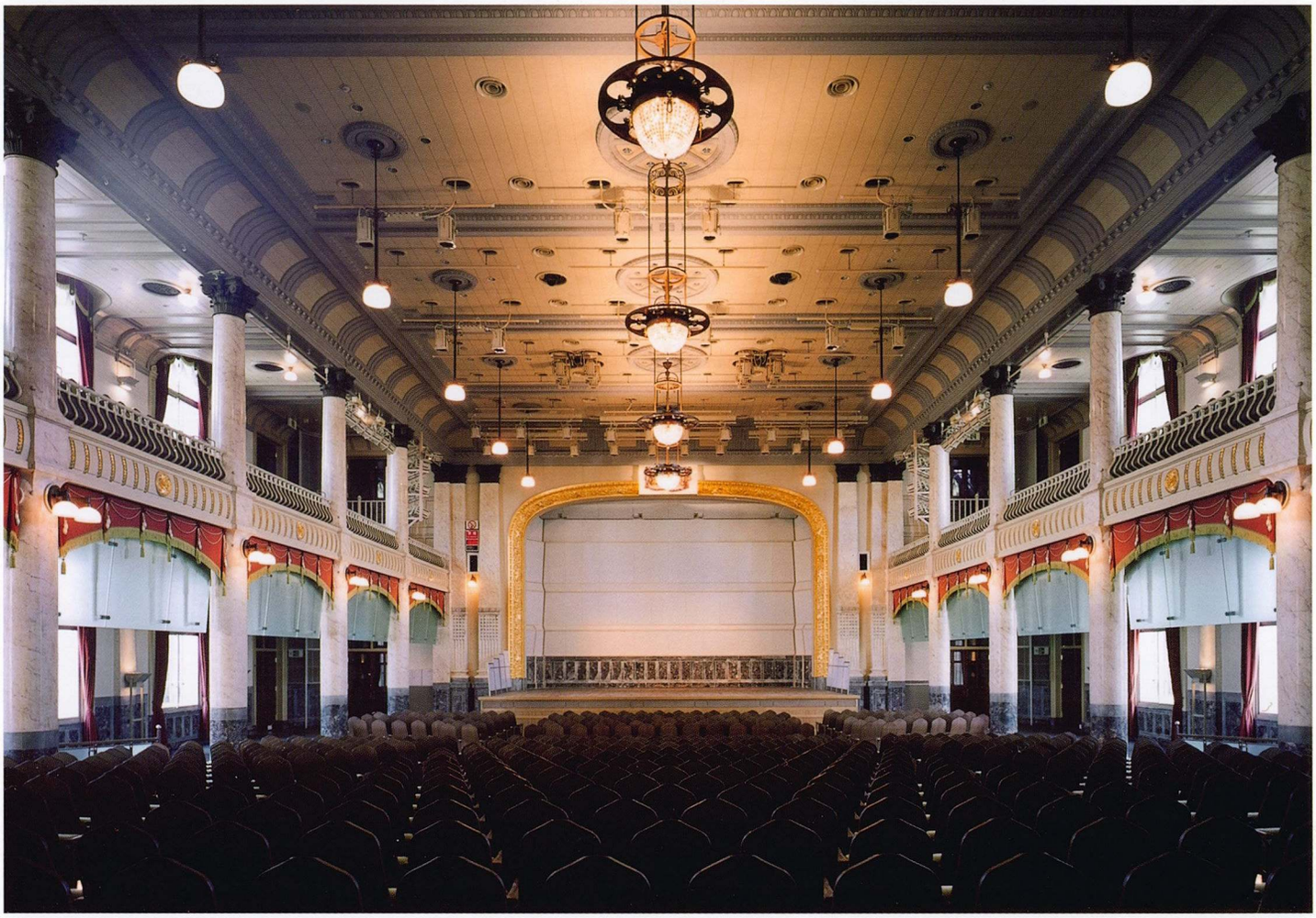
大阪市住宅局長　岸野　和雄

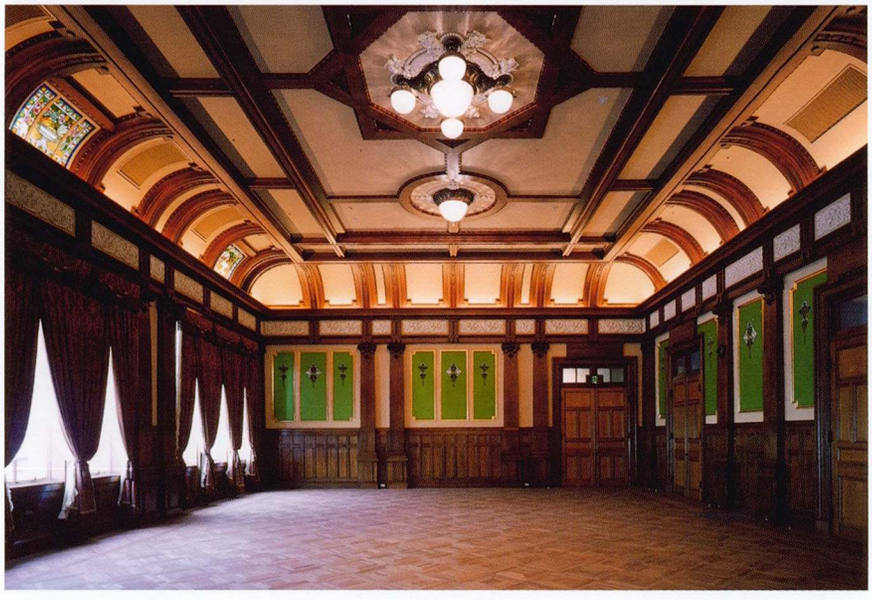


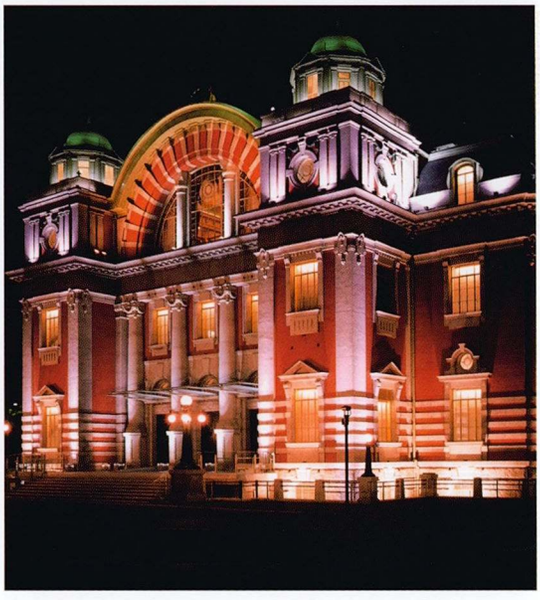




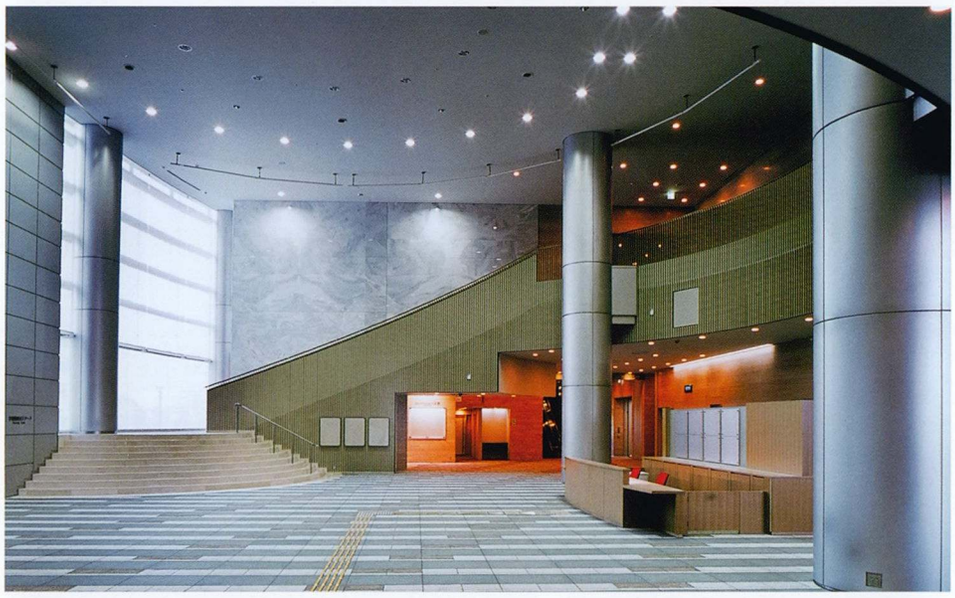
大阪市中央公会堂

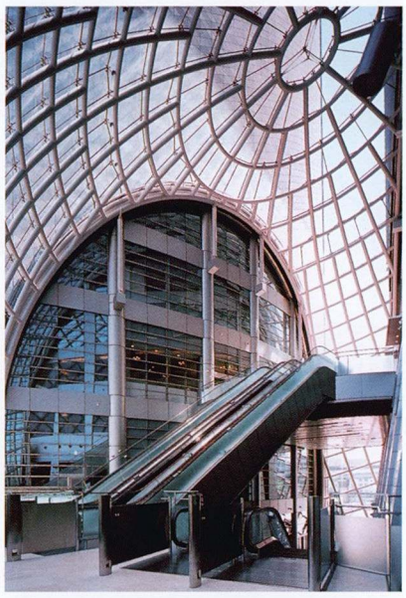






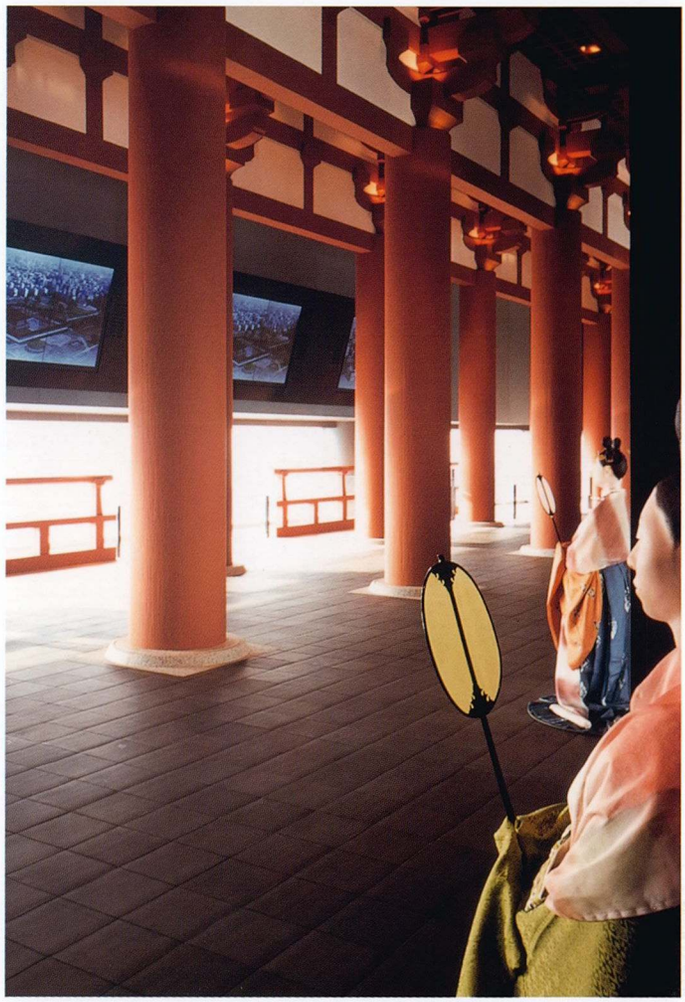






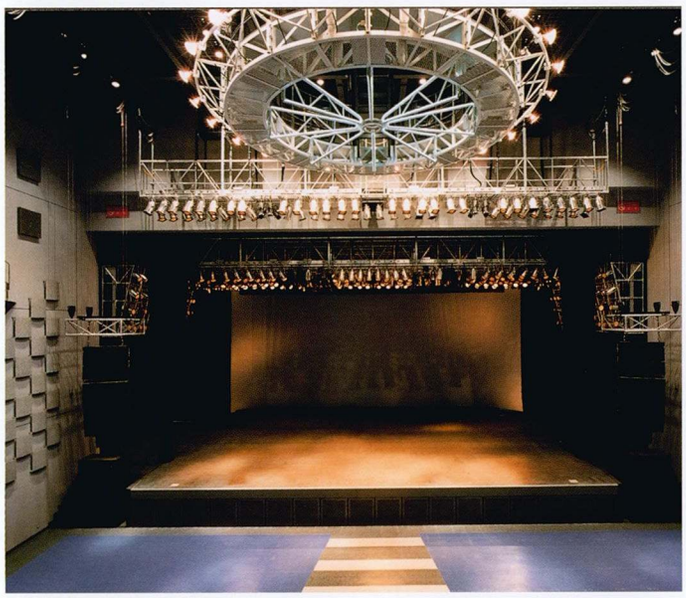
大阪歴史博物館













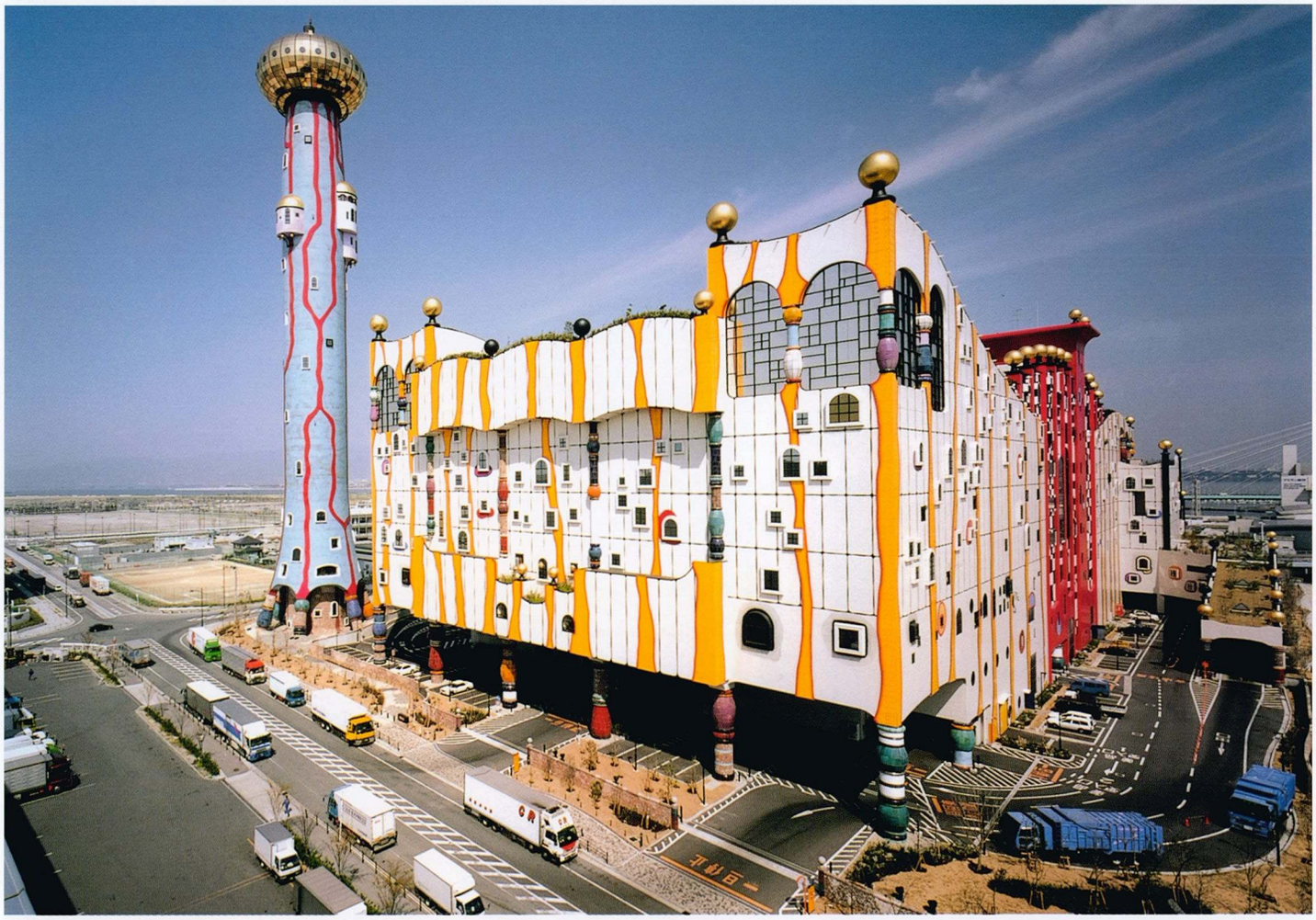
湊町リバープレイス

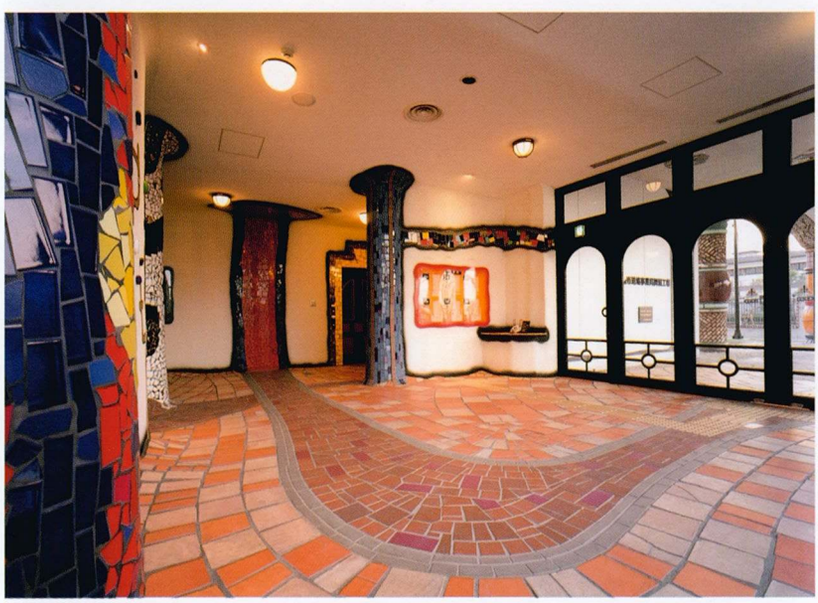






大阪産業創造館







舞洲工場

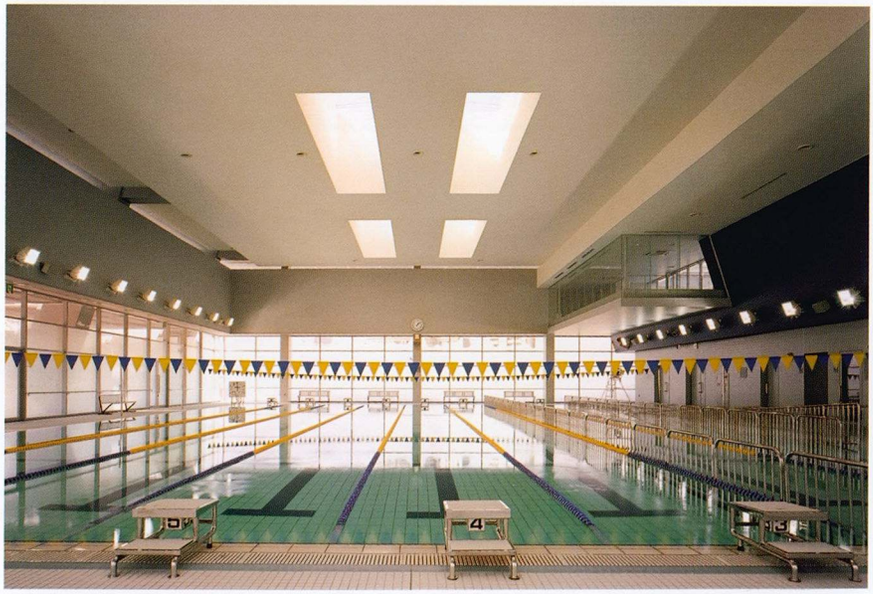


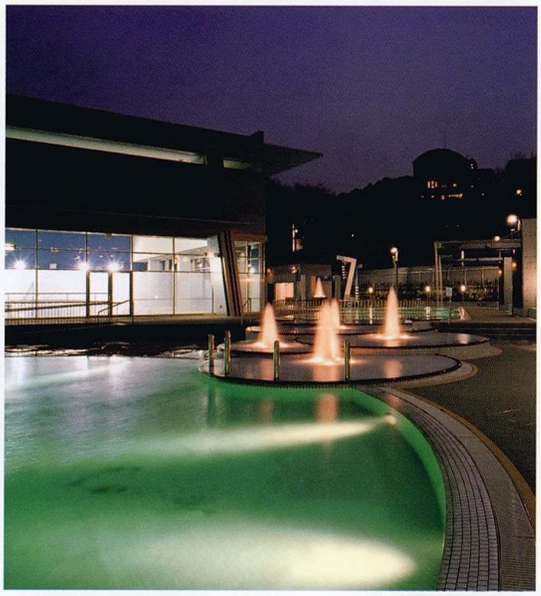




中央卸売市場 市場棟







扇町プール









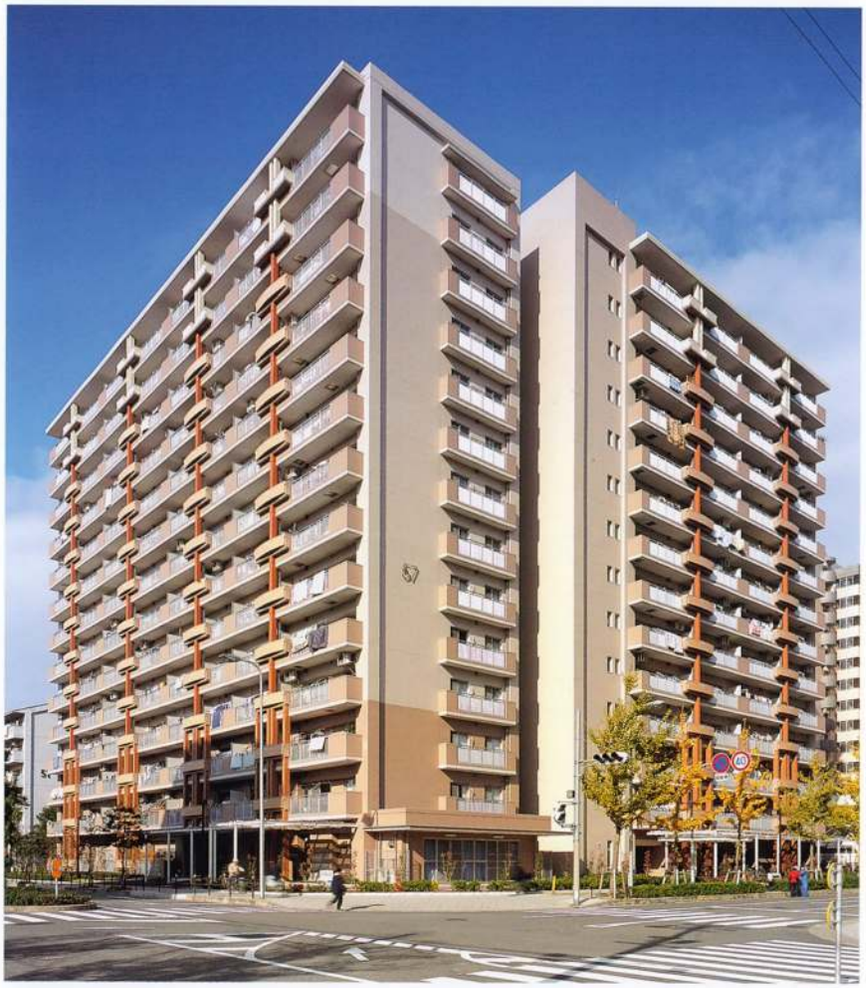
住まい情報センター・住まいのミュージアム「大阪くらしの今昔館」







古市東住宅





高見住宅57号館









浪速区役所・浪速保健福祉センター







平野区役所・平野保健福祉センター







十三市民病院

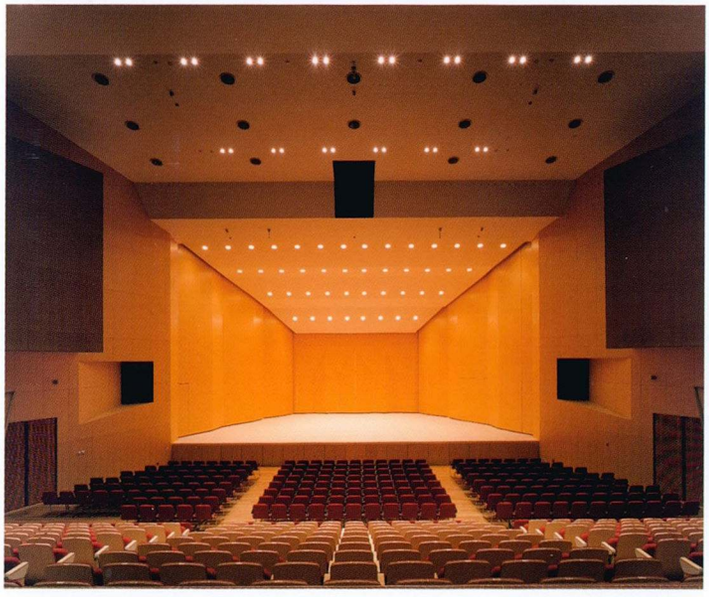






クラフトパーク







阿倍野区民センター・阿倍野図書館・葬祭場（やすらぎ天空館）・阿倍野駅自転車駐車場

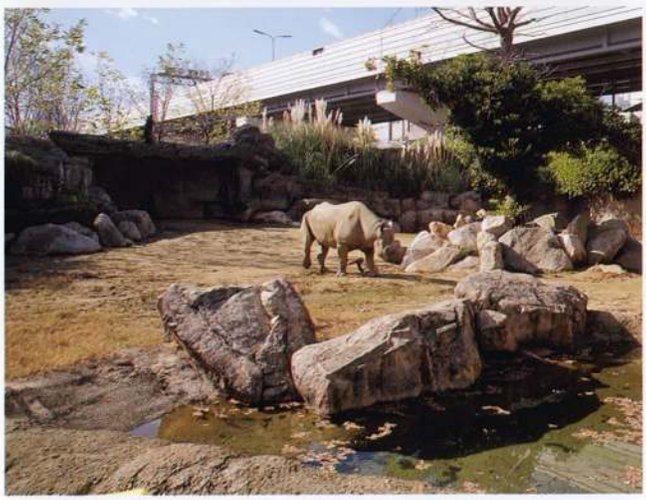


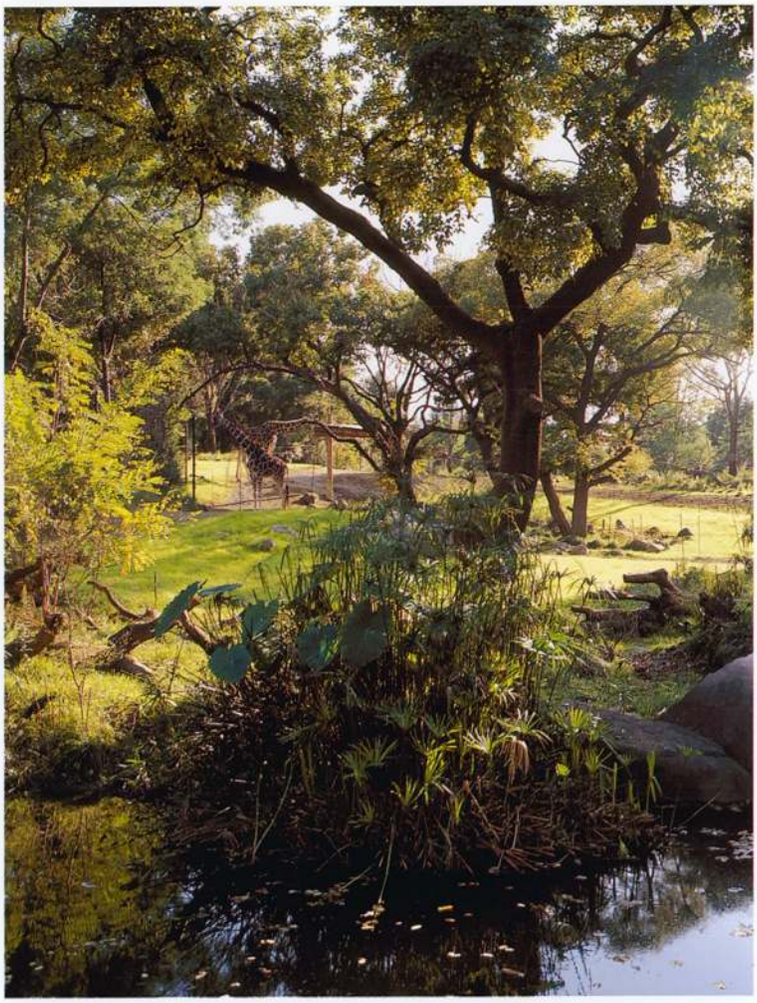




男女共同参画センター中央館（クレオ大阪中央）











天王寺動物園 キリン舎・草食動物舎・サイ舎・カバ舎

建築概要

大阪市中央公会堂
所 在 地　北区中之島1-1-27
構　　造　鉄骨煉瓦造（屋根鉄骨造）増築部鉄筋コンクリート造
階　　数　改修部 地上3階、地下1階　増築部 地上1階、地下2階
建築面積　2,330㎡
延べ面積　9,886㎡
工　　期　平成11年3月～平成14年9月

大阪産業創造館
所 在 地　中央区本町1-4-5
構　　造　鉄骨鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）
階　　数　地上18階、地下3階（塔屋1階）
建築面積　1,456㎡
延べ面積　23,828㎡
工　　期　平成9年3月～平成12年9月

扇町プール
所 在 地　北区扇町1　扇町公園内
構　　造　鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）
階　　数　地上2階、地下1階
建築面積　2,746㎡
延べ面積　4,356㎡
工　　期　平成10年3月～平成12年10月

高見住宅57号館
所 在 地　此花区高見1-4-57
構　　造　鉄骨鉄筋コンクリート造
階　　数　地上14階
建築面積　2,408㎡
延べ面積　13,023㎡
工　　期　平成13年3月～平成15年5月

十三市民病院
所 在 地　淀川区野中北2-12
構　　造　鉄筋コンクリート造
階　　数　地上9階、地下1階（塔屋1階）
建築面積　3,542㎡
延べ面積　19,597㎡
工　　期　平成11年3月～平成13年9月

男女共同参画センター中央館（クレオ大阪中央）
所 在 地　天王寺区上汐5-6-21
構　　造　鉄骨鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）
階　　数　地上4階、地下3階（塔屋付）
建築面積　1,757㎡
延べ面積　7,667㎡
工　　期　平成11年3月～平成13年8月

天王寺動物園 カバ舎
所 在 地　天王寺区茶臼山6-74（天王寺動物園内）
構　　造　鉄筋コンクリート造（一部木造）
階　　数　地上1階、地下1階
建築面積　693㎡
延べ面積　695㎡
工　　期　平成8年4月～平成9年7月

（仮称）市立大学総合教育棟
所 在 地　住吉区杉本3-3-138
構　　造　鉄筋コンクリート造
階　　数　地上5階、地下1階
建築面積　4,536㎡
延べ面積　12,485㎡
工　　期　平成13年9月～平成16年9月

淀川消防署
所 在 地　淀川区木川東4-10-14
構　　造　鉄骨鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）
階　　数　地上5階、地下1階（塔屋1階）
建築面積　900㎡
延べ面積　3,538㎡
工　　期　平成15年3月～平成16年12月

大阪歴史博物館
所 在 地　中央区大手前4-1-32
構　　造　鉄骨鉄筋コンクリート造
階　　数　地上13階、地下3階（塔屋1階、博物館部分）
建築面積　7,480㎡
延べ面積　90,026㎡（博物館専有部分:23,607㎡、共有部分:18,989㎡）
工　　期　平成9年12月～平成13年4月

舞洲工場
所 在 地　此花区北港白津1-1-1
構　　造　鉄骨鉄筋コンクリート造（一部鉄筋コンクリート造、鉄骨造）
階　　数　地上7階、地下2階
建築面積　16,548㎡
延べ面積　55,839㎡
工　　期　平成9年3月～平成13年1月

住まい情報センター・住まいのミュージアム「大阪くらしの今昔館」
所 在 地　北区天神橋6-4-20
構　　造　鉄骨鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）
階　　数　地上10階、地下1階（塔屋1階）
建築面積　2,582㎡
延べ面積　19,560㎡
工　　期　平成8年9月～平成11年6月

浪速区役所・浪速保健福祉センター
所 在 地　浪速区敷津東1-4
構　　造　鉄骨鉄筋コンクリート造（一部鉄筋コンクリート造）
階　　数　地上7階、地下2階（塔屋1階）
建築面積　1,324㎡
延べ面積　9,745㎡
工　　期　平成11年9月～平成14年3月

クラフトパーク
所 在 地　平野区長吉六反1-8-44
構　　造　鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）
階　　数　地上2階
建築面積　3,175㎡
延べ面積　4,449㎡
工　　期　平成10年3月～平成11年6月

天王寺動物園 キリン舎・草食動物舎
所 在 地　天王寺区茶臼山6-74（天王寺動物園内）
構　　造　キリン舎 鉄筋コンクリート造（一部コンクリートブロック造）
　　草食動物舎 鉄筋コンクリート造
階　　数　キリン舎 地上2階　　草食動物舎 地上1階
建築面積　キリン舎 380㎡　　草食動物舎 201㎡
延べ面積　キリン舎 416㎡　　草食動物舎 201㎡
工　　期　平成10年9月～平成12年2月

生野区役所・生野保健センター・水道局今里営業所生野サービスステーション
所 在 地　生野区勝山南3-1-19
構　　造　鉄骨鉄筋コンクリート造（一部鉄筋コンクリート造、鉄骨造）
階　　数　地上7階、地下1階
建築面積　2,190㎡
延べ面積　12,812㎡
工　　期　平成14年9月～平成16年11月

（仮称）鶴見区民センター・鶴見図書館・横堤駅自転車駐車場
所 在 地　鶴見区横堤5-3
構　　造　鉄骨鉄筋コンクリート造
階　　数　地上8階、地下1階（塔屋1階）
建築面積　2,825㎡
延べ面積　10,025㎡
工　　期　平成14年9月～平成17年2月

西淀川区役所・西淀川保健センター・西淀川図書館・水道局野田営業所敬島サービスステーション・西淀川備蓄倉庫
所 在 地　西淀川区御幣島1-2-10
構　　造　鉄骨鉄筋コンクリート造
階　　数　地上6階、地下2階
建築面積　2,225㎡
延べ面積　12,782㎡
工　　期　平成14年9月～平成17年1月

湊町リバープレイス
所 在 地　浪速区湊町1-3-1
構　　造　鉄骨鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造、鉄筋コンクリート造）
階　　数　地上7階、地下2階（塔屋1階）
建築面積　10,849㎡
延べ面積　21,240㎡
工　　期　平成11年3月～平成14年3月

中央卸売市場 市場棟
所 在 地　福島区野田1
構　　造　鉄骨鉄筋コンクリート造
階　　数　地上5階、地下1階
建築面積　59,350㎡
延べ面積　174,359㎡
工　　期　平成5年3月～平成15年7月

古市東住宅
所 在 地　城東区古市2
構　　造　鉄骨鉄筋コンクリート造（一部鉄筋コンクリート造）
階　　数　地上14階（一部7階）
建築面積　1,291㎡
延べ面積　9,289㎡
工　　期　平成13年3月～平成15年4月

平野区役所・平野保健福祉センター
所 在 地　平野区背戸口3-8-5
構　　造　鉄骨鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）
階　　数　地上5階、地下1階（塔屋1階）
建築面積　2,826㎡
延べ面積　12,099㎡
工　　期　平成11年3月～平成13年6月

阿倍野区民センター・阿倍野図書館・葬祭場（やすらぎ天空館）・阿倍野駅自転車駐車場
所 在 地　阿倍野区阿倍野筋4-19-120
構　　造　鉄骨鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造、鉄筋コンクリート造）
階　　数　地上12階、地下1階（塔屋1階）
建築面積　5,427㎡
延べ面積　19,566㎡
工　　期　平成11年3月～平成13年10月

天王寺動物園 サイ舎
所 在 地　天王寺区茶臼山6-74（天王寺動物園内）
構　　造　鉄筋コンクリート造
階　　数　地上1階
建築面積　280㎡
延べ面積　266㎡
工　　期　平成9年10月～平成10年3月

（仮称）都島温水プール
所 在 地　都島区都島本通4-12
構　　造　鉄筋コンクリート造
階　　数　地上3階、地下1階
建築面積　1,466㎡
延べ面積　3,019㎡
工　　期　平成15年3月～平成16年11月

（仮称）西温水プール
所 在 地　西区本田1（松島公園内）
構　　造　鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）
階　　数　地上3階、地下1階
建築面積　1,223㎡
延べ面積　3,042㎡
工　　期　平成13年11月～平成15年12月

写真撮影（順不同・敬称略）

稲住写真工房
川澄建築写真事務所
河合止揚
京極　寛
多比良誠
エスエス大阪
伸和

大規模災害時への対応をより確かにする施設の整備

はじめに

大規模な地震が発生したとき、市民の生命・財産の保護を図るため、地震発生直後の情報収集や意思決定機能を、迅速・的確に立ち上げることが、災害応急活動にとって最も重要である。

平成16年１月の竣工をめざし、平成13年秋から工事を進めているあべのフォルサ（防災中枢拠点複合施設）は、阪神・淡路大震災のような大規模な災害に際し、市庁舎が被災して「災害対策本部」が設置できない場合に、本部機能を代替し、災害対策において最も重要な市全体の初動活動を円滑に実施する施設として計画されている。また、市庁舎が機能する場合には、応援要員などの活動拠点機能、市民からの問い合わせ対応などを分担し、「災害対策本部」を補完することを主な目的・機能としている。

愛称のフォルサ（FORSA）はイタリア語で「力強い」という意味で、阿倍野再開発イメージ計画委員会において決定された。

施設の概要と機能

災害対策本部として利用される職員研修所を含めて、平常時は市民防災学習施設や温水プール、南方面隊施設、備蓄倉庫からなる複合施設として活用される計画である。

職員研修所は、既存施設の狭隘化に伴う移転整備で、研修用の教室とOA教室、講堂などにより構成されており、災害時には通信機器室と連携したOA教室に災害対策本部を設置し、各教室は災害対策支援のための連絡・調整、要員の控室等の役割を想定している。

市民防災学習施設は、市民を対象とした防災に関する教育や疑似体験による意識の啓発を行う機能と、地域防災リーダーや企業の防災担当者等の防災のエキスパートを対象とした研修・訓練を行う機能で構成されており、擬似体験設備には災害体験シアターや地震の揺れを体験できる起震装置などを計画している。

温水プールは、各区に整備されている市民の健康増進施設で、25Mの温水プールと幼児プール、リラクゼーションプール、トレーニングジム、スタジオなどで構成されている。

南方面隊施設は、大阪市内を４区分した１つの区域を担当し消防活動の支援を行う南方面隊の出動拠点である。

備蓄倉庫は、水缶詰や非常用食料、毛布や日用品セットなどを備蓄し、災害時に小・中学校をはじめとする収容避難所に迅速に搬送する中枢・地区備蓄拠点の機能を担っている。

免震構造の採用と施設構成

大規模な災害の発生直後に、災害対策の迅速な初動を行うためには、拠点となる建物が被災後に機能停止することなく利用できる耐震安全性を確保する必要がある。

当施設では、構造計画の合理性、経済性、及び平常時の施設の利用を含めた総合的な検討により、被災後の機能保持が最優先される職員研修所、南方面隊施設、市民防災学習施設の一部及びその機能を保持するための設備機械室を含む建物西側部分（西棟）に免震構造（SRC造）を採用した。東側部分（東棟）は、免震構造とするには条件的に不利な、温水プールや起震装置を備えた市民防災学習施設の一部、及び備蓄倉庫を配置し、大地震においても構造体に大きな損傷のない耐震構造（SRC造）とした。

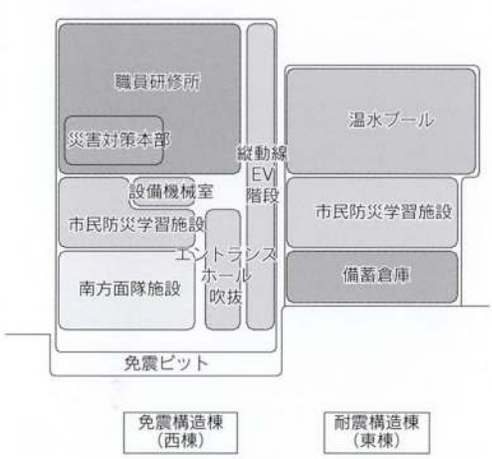
免震構造棟（東棟）は、１階床下ピット部分に免震部材（鉛プラグ入り積層ゴム、天然ゴム系積層ゴム）を設置することにより、地震動によるエネルギーを免震部材に大部分吸収させて、上部構造への地震動入力の低減を図っている。

部分的な免震構造の採用により、全体を免震構造とする場合より、免震ピットのための地盤の掘削と残土処分などのイニシャル費用、免震部材のメンテナンス費用などのランニング費用の両面でコストダウンが図られ、加えて工期の短縮も可能となり、合理的な建築計画、施工計画へとつながった。

被災時の機能保持に不可欠な電気室、自家発電機室、受水槽、及び熱源機械室などの設備機械諸室を、安全性と効率性に配慮して７階建ての免震構造棟の４階に計画している。



外観パース



断面構成図

防災、災害、事故停電等のバックアップのため、72時間の連続運転が可能な発電機と、約30,000リットルの地中埋設オイルタンクを設置しており、災害時においては、災害対策の拠点となるエリアの電灯・コンセント、空調電源、専用電源等の70%以上の保安負荷を見込んでいる。

内部空間の計画

平常時の各施設の利用に対し、効率を重視した縦動線の共有とゾーニングの明確化に配慮して全体の構成を行っている。

北側道路に面してコンパクトな共用のエントランスホールを配置して、エレベーターホールにゆるやかな曲面の壁で導入し、3台の乗用エレベーターと1台の人荷物用エレベーター、及び階段で構成された縦動線により、職員研修所（5～7階）、温水プール・トレーニングジム（5、6階）、市民防災学習施設（3階）にアクセスし、各施設の独立性を確保している。

南方面隊施設と備蓄倉庫は、エントランスホールに面しないで、独立した運営が可能な計画とし、平常時の市民利用部分と交錯しないように配慮している。

エントランスホールは、3層吹抜の空間で、耐久性の高いアルミパネルを中心とした仕上げとし、防災中枢拠点としての堅牢で、未来的なメカニックなイメージで構成している。3階市民防災学習施設入口付近まで同様のイメージとし、体験ゾーンの来訪者に対する雰囲気づくりを行っている。

1階共用部分には、オストメイト対応の多目的便所を設け、各専用部分の多目的便所も電動車椅子対応とするなど、障害者も弱者も不便を感じることなく利用できる、ユニバーサルデザインを追及した施設を目指している。

外観の意匠計画

防災中枢拠点、市民利用の複合施設、再開発地区の立地に視点を置き、「防災中枢拠点として安心感・安定感を与えるデザイン」、「複合施設として市民に親しまれるデザイン」、「再開発地域の発展を予感させる印象的なデザイン」の3つコンセプトをもとに、外観の意匠計画を行った。

シンメトリーを基調とした立面構成で建物全体に安定感を与え、低層部分を質感のあるアースカラーのタイル貼りの外装として、堅固な塊が大地にしっかりと根差したような安心感を与える外観をめざした。

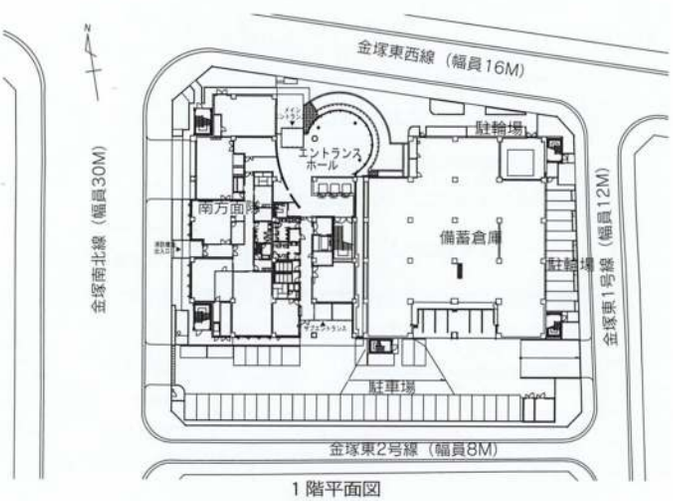
高層部に向けて、ガラスやアルミパネルによるシャープでソリッドなイメージに変化し、堅固な土台（タイル）に強固な金属（アルミパネル）と開口部（サッシュ・ガラス）が取り付く表情が、力強い（フォルサ）信頼感、安心感の増幅をもたらす外観意匠を意図している。

おわりに

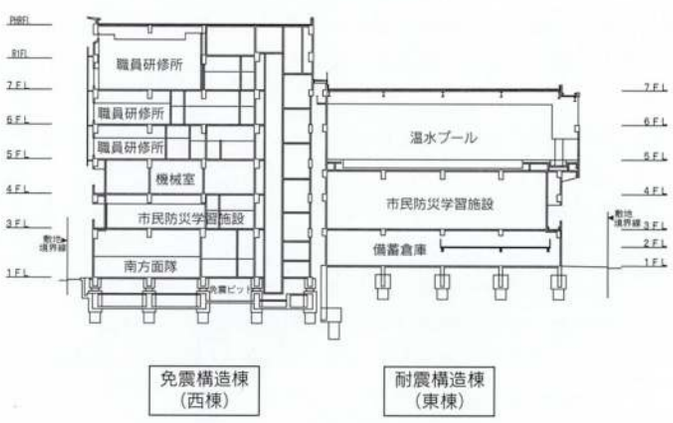
阿倍野再開発地区の整備事業も佳境にはいり、そのほぼ中央部に建設されている当施設は、周辺をとりまく中高層住宅と異なった表情で、地区の未来、市の未来を背負うために、平成16年1月の竣工をめざして工事を進めている。平常時・災害時の利用、力強さと親しみやすさなど、いろいろな意味での二面性を担った、特殊なプログラムの施設である。

今後大規模な災害が発生しないことが最も望まれることではあるが、日常における防災への意識、災害に対する備えを怠らないことで、ひとたび災害にみまわれた際に、犠牲者や被害を最小限に食い止めることが可能であると考えられる。当施設はその重要な役割を担いながら、平常の生活のなかで、市民に利用され、愛される施設であり続けることが望まれる。

（大阪市住宅局営繕部／㈱日本設計）



1階平面図



断面図

（仮称）浪速スポーツセンター・温水プール・アイススケート場
（仮称）浪速区在宅サービスセンター

子どもから老人まで気軽に利用できる生涯スポーツ拠点と浪速区在宅サービスセンターの複合施設

平成17年6月の竣工を目指して現在工事が進められている（仮称）浪速スポーツセンター・温水プール・アイススケート場と（仮称）浪速区在宅サービスセンターは、大阪市が整備を進める生涯スポーツ施設と浪速区在宅サービスセンターの複合施設である。平成13年度に実施した（仮称）浪速複合施設公開設計競技を経て設計者を選定し、平成14年度当初からの基本・実施設計を経て平成14年12月に工事着手した。

施設概要と計画の基本方針

本施設は市民がスポーツに親しみ、健康増進と体力づくりが出来る生涯スポーツ施設と高齢者の各種保健福祉サービスの総合的調整の拠点となる区在宅サービスセンターの複合施設であることから、幅広い区民の利用に対する利便性を高め、多世代の交流が生まれる複合コミュニティ施設として期待されている。

スポーツセンターは、バレーボールやバトミントン、柔剣道まで幅広い活動が出来る第1,2体育場からなり、健康づくりのひとつとして市民ニーズの高い温水プールについては、本格的な体力づくりにも活用できるマシンジム、エアロビクス、ストレッチやダンスなど多彩なプログラム展開ができるスタジオで構成される。また、市民から強い期待を集めていた通年利用型アイススケート場を併設している。

社会福祉法人大阪市浪速区社会福祉協議会が設置運営する区在宅サービスセンターは、大阪市が整備を進める地域型在宅サービスステーションとして、通所により入浴、食事、機能訓練などのサービスを提供するデイサービスセンターと、高齢者とその家族在宅介護等に関する総合的な相談に応じる在宅介護支援センターで構成されており、また、区内の地域在宅サービスステーションを統括・指導する拠点機能を併せもつ施設である。

本施設の基本設計では、これらの複合的機能を市民が施設運営の区分を意識することなく一体的に活用できるように建築計画面で配慮し、地域のシンボルとして親しまれ、今後のまちづくりを先導するデザインを提示しながら、新しい時代の公共施設が満足すべき五つの基本性能を定めて実施設計を進めた。

① 施設安全面や防災安全面に配慮し、市民が安全に利用できる施設とする。
② 施設運用にともなう周辺地域に対する影響を最小限にとどめ、環境面で地域に寄与できる施設とする。
③ 施設の建設から運営・維持管理まで一貫した省エネルギー・省資源を進め、地球環境面にも配慮した施設とする。
④ 市民の財産として良質なストックを形成する、施設・運営両面で長寿命の施設とする。
⑤ 施設の建設から運用までトータルコストを抑制できる施設とする。

建築計画

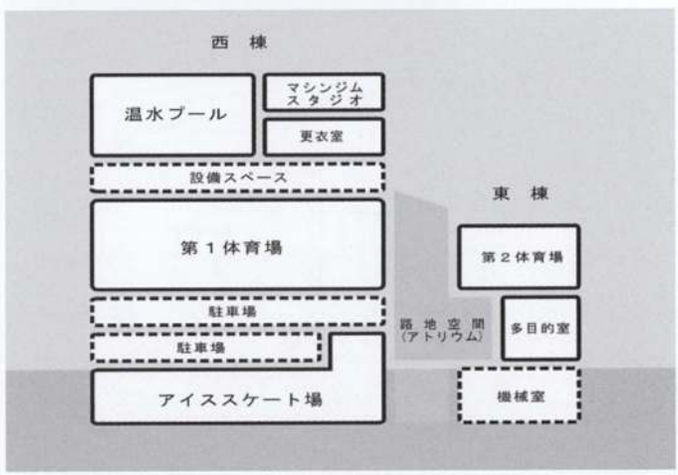
計画敷地：計画敷地は南海電鉄難波駅の南西400ｍに位置する旧難波小学校跡地であり、大阪府立体育館が北側に隣接するほか、南隣地に新川公園、周辺に浪速区役所、浪速税務署（建設中）等の公共施設が立地し、平成15年10月にはなんばパークスがオープンするなど、市民生活の上でも新しい注目スポットになりつつある。

配置計画：主要な動線となる南北エントランスをつなぐ路地空間（アトリウム）を挟むように東西に施設を配置している。この路地空間は館内各施設への導入空間であるだけでなく、地域の交流空間として活発に利用されることが期待され、多目的室などを隣接させたほか、アイススケート場の様子が見えるように工夫するなど、全館の活気が感じられる空間としてデザインしている。

断面計画：多彩な施設内容に比して狭隘な敷地を有効に活用すべく施設の重層化は避けられない。温水プールやアイススケート場、バスケットコート2面対応の体育場など、重装備かつ大空間の施設を効率的に配置するため、施設の主体となる西棟の地下1階に外部熱負荷を嫌うアイススケート場、1,2階に駐車場、3,4階に第1体育場、5階に温水プールと更衣室、6階にマシンジムとスタジオを配置している。また、東棟地下1階は機械室、1階には多目的室、2階に空調機械室、3,4階に第2体育場を配置している。区在宅



公開設計競技
最優秀作品パース



空間構成図

サービスセンターは公園に面し最も環境に恵まれた西棟南側１,２階に配置し、各階とも駐車場から直接アクセスできるように配慮している。

内外装計画：外装はメンテナンス抑制を優先課題とし、西棟外壁は防汚処理を施した磁器タイルを打ち込んだＰＣカーテンウォールを主な仕上材とし、屋根はフッ素樹脂塗装の耐候性鋼板葺を採用している。東棟外壁は表面処理アルミパネルを主な仕上材としている。ガラスカーテンウォールはペアガラスを大幅に採用し、南面には直射日光を軽減するルーバーを採用することで、外部熱負荷の低減を図っている。陸屋根部分は屋上緑化を積極的に採用し、熱負荷低減とヒートアイランド抑制に配慮している。

内装材料の選択もメンテナンス性を重視し、スポーツ施設として機能性を求められる床仕上材はゴム製床材や木製床材を主体にしている。

バリアフリー：区在宅サービスセンター部分だけでなく施設全体を「大阪市ひとにやさしいまちづくり要綱」の基準に適合させている。

構造計画

地下部分はＳＲＣ一体構造とし、地上部分は東西２棟に分離して各棟の空間特性に最適な構造形式を採用している。

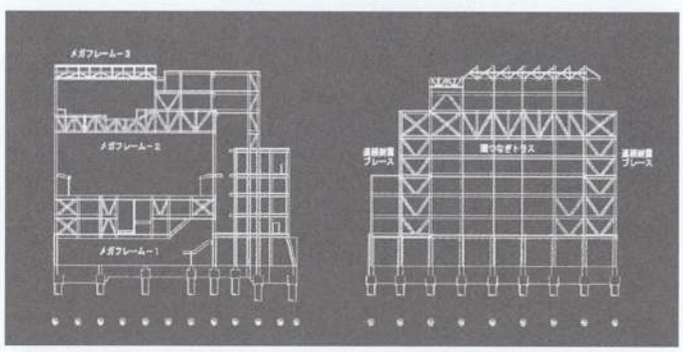
東棟は比較的低層で小空間の諸室で構成されることから、剛性の高いＳＲＣ構造とし、６階まで独立して伸びるエレベーター塔は鉄骨造としている。

西棟は東西40ｍ、南北56ｍの無柱空間が積層する特異な構造を実現するため、Ｘ軸方向は１,２階の駐車場、５階床下の設備スペース、６階屋根に層としての「メガフレーム」を構成して大スパン架構を実現し、外周部はＸ,Ｙ軸方向とも頭つなぎ梁と連続耐震ブレースによる強固な門型を形成して水平剛性を高めている。

建築設備計画

複合施設の複雑な管理区分に関わらず防災設備･施設管理を一元的に管理出来るように、中央管理室を設け防災盤や放送設備、中央監視設備を集約し、安全性と利便性を高めている。

電気設備：ガスエンジンコージェネレーションシステムを採用して電力使用量を低減しながら、廃熱を温水プール昇温や給湯熱源として利用している。環境面では、高効率機器の採用や照明器具明滅の最適化、機器類のスケジュール運転による最適化、エコケーブル採用等を進めている。



空調設備：区在宅サービスセンターは空冷ヒートポンプパッケージ方式を採用し、個別空調としている。大空間中心のスポーツ施設はガス焚冷温水発生機と廃熱投入型の冷温水発生機を併用したセントラル方式を採用し、四季を通じた高効率運転としている。パッケージエアコンは新代替フロンを採用し、環境負荷を低減している。

衛生設備：上水と雑用水（雨水やプール排水、空調ドレンを原水）の２系統給水方式を採用し、１日の使用水量を削減する計画としている。プール循環ろ過設備は、四季を通じて快適な水環境を実現するため、水質、温度管理が行えるシステムとしている。

おわりに

本施設は平成17年秋の運用開始を目指して、建設工事を進めている。設計段階で議論された複合施設のメリットを十分に発揮し、より多くの市民が利用し、地区住民に愛される、難波地区の新しいシンボル施設になることを期待している。

（大阪市住宅局営繕部／㈱環境デザイン研究所）

工事概要

所 在 地：大阪市浪速区難波中３丁目８番
用　　途：運動施設・高齢者福祉施設
地域地区：商業地域・準防火地域　　敷地面積：4,662.01㎡
建築面積：3,747.94㎡　　延床面積：16,924.40㎡
構造規模：鉄骨造・鉄骨鉄筋コンクリート造　地上７階／地下１階
工事期間：平成14年12月～平成17年６月
設計監理：大阪市住宅局営繕部／㈱環境デザイン研究所
施　　工：
建　築　工　事：大林・三井住友・南海辰村特定建設工事共同企業体
電気設備工事：日本電設・八千代・大浪特定建設工事共同企業体
四電工・三宝電機・港振興業特定建設工事共同企業体
空調設備工事：日立プラント・オーク・スミテック特定建設工事共同企業体
東熱・毎日・柳生特定建設工事共同企業体
衛生設備工事：三晃・日本設備・城口特定建設工事共同企業体
ガス設備工事：大阪ガス㈱
昇降機設備工事：㈱フジテック

阿倍野Ａ１地区第２種市街地再開発事業Ａ３棟

阿倍野のランドマークとして

―あべのグラントゥール―

はじめに

大阪市南の玄関口、天王寺・阿倍野ターミナルに隣接して、阿倍野市街地再開発事業が進行中です。昭和51年大阪市が参画して以来、総面積約28ha、７地区に及ぶ範囲で順次整備を行ってきました。住宅、商業、オフィスなど都市の中心市街地として、暮らしやすくて楽しく、新しい街づくりをめざしている。現在その阿倍野地区の中で住宅の集大成として地上40階、総戸数401戸の超高層マンション「あべのグラントゥール」の建設を行っている。

地区のランドマーク

「あべのグラントゥール」は、天王寺・阿倍野ターミナル駅に近いことや、地区内のあべのルシアスなどの大型商業施設、市立大学附属病院が隣接し、生活利便性が高いことなどから、地区を代表する住宅として仕様、デザイン等のグレードを高レベルに設定している。多様で多種の住戸タイプを配置するとともに幅広いバルコニー、眺望重視のガラス手すり、快適性を高める天井高さ、機能重視のキッチンなど様々な点で快適なマンションライフが満喫できる仕様で、都心型の居住性を考慮した超高層住宅の計画とした。地上40階建、約140ｍの高さになる「あべのグラントゥール」は、外観に十分な配慮を行い、地区のランドマークにふさわしいデザインとなるよう心がけている。１辺約40ｍで伸びる本体のボリューム感を和らげるため縦方向にマリオンを配置するとともに適所でセットバックさせ、上層部にいくほど色彩のトーンを和らげ、最上部の半円の冠は空と一体となるスカイブルーとして、空に溶け込み、伸びていくイメージを強調している。また４辺を同じデザインとすることにより、どこから見ても同じ印象を与えるシンボリックな外観として阿倍野地区のランドマークとなるようデザインした。

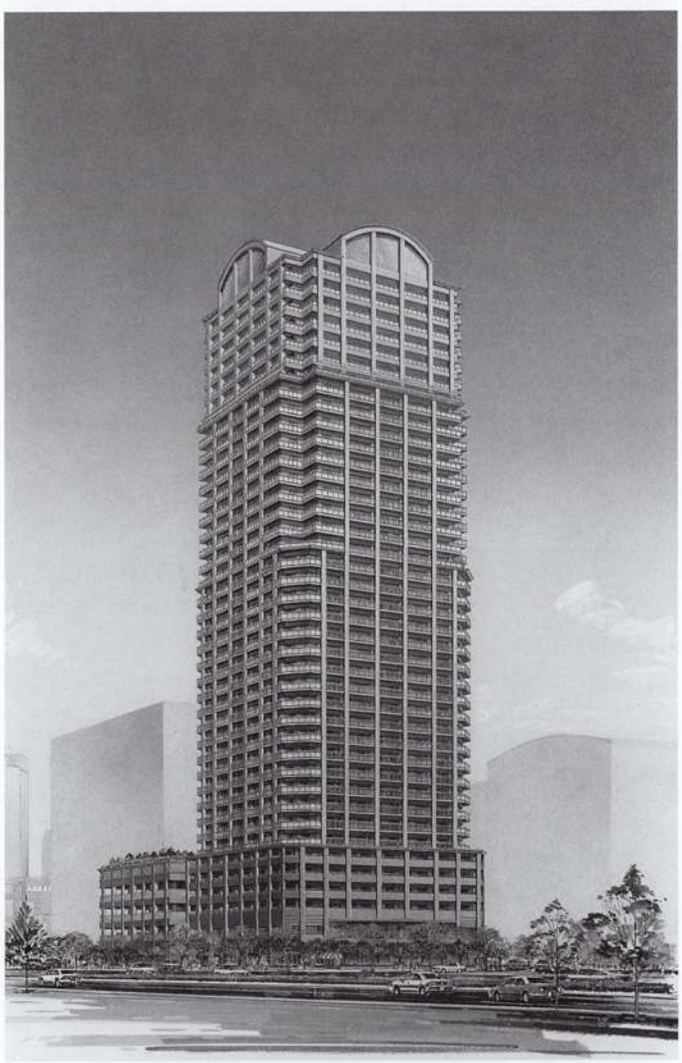
設計の概要

敷地の南側に超高層棟、北側に低層棟を配置している。超高層棟は住宅とその共用施設のみで構成しており、耐震仕様の高層ＲＣ造とし、低層棟は一部１階に店舗をもつＳ造の４階建ての住宅用の共用駐車場としている。

超高層棟の２階から40階は住宅専用部分がロの字型の吹き抜け空間を囲むように配置し、また避難の安全上からも全周バルコニーを配置し、廊下とバルコニー両方から特別避難階段にアクセスできるプランにしている。ＥＶも１ヶ所に集中させ１スパン全ての大きさのＥＶホールとし、北側を開放することから、住民方はどの階からでもマンションの北側の眺望が楽しめるよう配慮した。２階は全て共用施設として住民の暮らしをグレードアップする、キッズルームやＡＶルーム、和室など通常の集会施設だけでなく、特別な付加設備を備えた共用室を配置している。１階はマンションの顔としてのホールだけでなく、オートロック、24時間防災有人管理、昼間の１階サービスカウンターでの有人サービスなどによる高セキュリティを目指し、また宅配ボックス、クリーニングボックス、ロータリードラムによる24時間ゴミ投棄の可能化、屋内駐輪場などによる都市での利便性の高いマンションライフをサポートできる仕様としている。また、主に住宅の駐車場となる低層棟の屋上の一部を専用庭園とし、超高層棟の６階部分と連絡させて利用しやすくすることで、子どもや高齢者のみならず住民の方の都心の生活を癒し、緑が多い屋上庭園として提供している。

多様なライフスタイルに対応した住戸タイプ

住戸タイプは１ＬＤＫから４ＬＤＫ＋αまで約70タイプを設定した。多様な都市居住ニーズやライフスタイルに適応できるように考慮したもので、さらにこれに加えてメニュープランやカラーセレクトを採用して購入者のオリジナリティ化に応じている。大きな住戸の特徴としては、低層部（３階～６階）では、ガーデニング対応の出巾2.5ｍのバルコニーとスロップシンクを標準装備した。住戸内



あべのグラントゥール（パース）

部は床のフルフラット仕様、低ホルマリン仕様の壁紙、食器洗浄乾燥機、床暖房などを標準仕様として、一部では折戸を採用したユニバーサル対応住戸や展望風呂となっている住戸なども配置している。キッチンは使いやすい奥行き75cmでジャンボシンクタイプをベースとしている。

フレキシブルな構造形式

超高層棟の構造は地震に対して十分な耐震性能を確保した耐震設計をベースに、階高を3200mmとし、柱、梁、のメンバーも統一したうえで上階に行くほど柱、梁を少なくして住戸プランの自由度を高めた架構形式としている。コンクリートは最高60N／mm²の高強度コンクリートを使用し、また極力ＰＣ化を図ることでコンクリートの高品質管理を行っている。また水廻りのみのスラブを下げるのではなく、床下全体を200mmに設定し、二重床・二重天井の仕様としていることから、将来の間取り変更に対応しやすいＩＳ仕様の概念を取り入れた設計としている。

おわりに

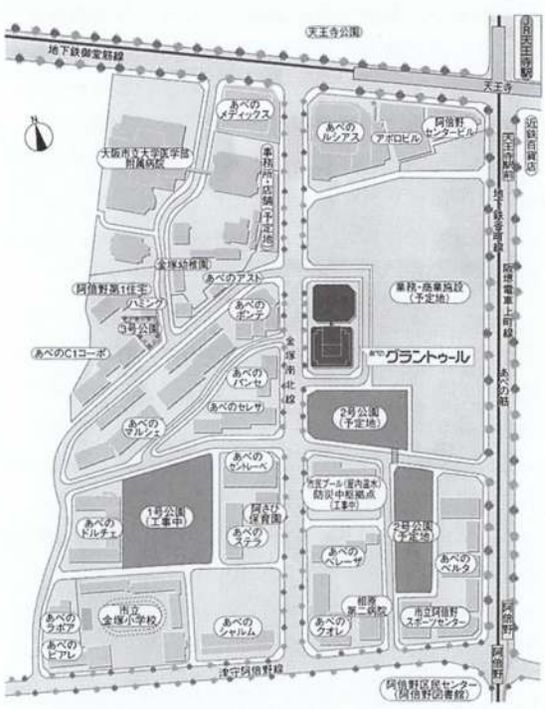
本住宅は、平成16年夏の竣工に向け整備を進めており、現在、超高層棟は上棟し、低層棟の工事も始まり、地区周辺からは40階建てのマンションの迫力ある姿や全体像が見え始めている。

「あべのグラントゥール」が完成すれば、グレードの高い超高層住宅は近年ますます高まる都心居住の多様なニーズに対応したモデルとなるとともに、阿倍野再開発地区のランドマークとして地区の魅力の一層の向上につながっていくものと考えており、周辺の住民や関係者の期待は一段と膨らんでいる。

（大阪市住宅局建設部／㈱安井建築設計事務所）

建築概要

工事名称	阿倍野Ａ１地区第２種市街地再開発事業　Ａ３棟建設工事
建築名称	あべのグラントゥール
計画地	大阪市阿倍野区阿倍野筋１丁目2000番 （阿倍野第二種市街地再開発事業区域　Ａ１地区内）
地域・地区	商業地域、防火地域、高度利用地区
主用途	共同住宅（401戸）、店舗（公衆浴場）、駐車場（住宅及店舗附属251台）
敷地面積	5,278.74㎡（1,596.81坪）
建築面積	3,977.45㎡　　建蔽率　75.4％（法定建蔽率　80％）
延べ面積	56,483.84㎡　　容積率　746.09％（法定容積　900％）
最高高さ	地上144m（ヘリポート面）
構造・規模	超高層棟　高層鉄筋コンクリート造、地上40階、地下１階、塔屋３階 低層棟　鉄骨造、地上４階（屋上利用：駐車場、庭園）



※上図は「阿倍野地区第二種市街地再開発事業」の計画について表したもので、現在事業計画されている公共・公益施設、住棟等の形状・規模・位置等について将来変更になる場合があります。



大阪市の建築行政

—横から眺めた50年—

三輪雅久

大阪市と50年

大阪とご縁の無かった筆者が大阪市立大学で教育・研究の仕事に就いたのは、1953年（昭28）からである。建築学科で中澤誠一郎教授の研究室所属となり、中井光次市長名の辞令をいただいて以来、50年の月日が経つ。大阪市大の建築学科と大阪市の建築部門とは制度上で直接にご縁があるわけでは無いが、筆者の専攻分野のこともあって、実際面では何かと近い関係にあって、側面から大阪市の建築部門のさまざまな活動を眺めることになった。市大の定年退職後も何かとご縁があり、これほど続くとは予想もしていなかった。前半はともかく、後半は各種委員会などで直接、間接にご縁ができ、役所側から見ても近からず遠からずの距離に置いていただいたのかなと思う。その経過で見てきた思い出や印象、これからのことなどを述べてみよう。

旧市庁舎の今林彦太郎氏

ちょうど大阪駅前の第一生命ビルが、広場に面して高さ45メートルの例外で建ち上った頃、中澤誠一郎教授のお伴をして、大阪駅前を振り出しに南へ御堂筋両側の実地検分をした。現第一生命ビルの前身である。ペントハウスの天端は49メートル余り。筆者にとっても建物で初めて体験した高さであった。南へ下って大阪市旧庁舎の鐘楼へも上った。高さも相当ながら、見下ろした御堂筋の眺めはなお脳裏に残る。さらに南下してガスビルの屋上。その折に大阪ガスに居られた今林彦太郎氏にお目にかかった。旧庁舎の建築を手掛けた大阪市の大先輩であったことは後になっての知識である。小柄な方で、そのお部屋には製図板があった。お元気な様子が思い出に残っている。

タウトと波江悌夫氏、あわせて海上静一氏

中澤教授の研究室にはよく先輩方の訪問があった。そのおひとりが波江悌夫氏である。わが国の古建築などが話題であって、筆者は横で先輩方のお話を承った。背の高い方であった。ここからは後の話。戦前、ドイツの建築家ブルーノ・タウトが来日後ほどなく、大阪市の建築部門を訪問した。1933年（昭８）市庁舎で波江悌夫建築課長、伊藤正文氏ほかと会い、あと現地視察で中央市場、日東町改良住宅、田辺小学校ほかを見たという記事である。（篠田英雄訳『日本——タウトの日記——1933年』６月23日の訪問記事）伊藤正文氏にはついにお目にかかっていないが、後に新制大阪市大の住居学科を立ち上げた方で、タウト訪問の翌年は室戸台風の災害で、市内の学校校舎などの復旧に当られている。

福島の中央市場は当時の大阪市がエネルギーを注ぎ込んだ営繕の作品であったろうし、不良地区改良の日東町住宅も、学校営繕も力を入れた事業であったろう。旧制大阪商大の杉本キャンパスの時計台校舎等も工事進行中であったはずである。時計台校舎の図面は私も引いたという話を伺ったのは、建築設計事務所時代の海上静一氏からである。市職員としてか設計スタッフとしてか定かではないが、海上氏とはある委員会でしばらくご一緒させていただいた。

ご自身がマグデブルク市の都市建築課長（篠田訳）を体験したブルーノ・タウトが日本へ来て、日本の都市では建築部門がどんな責任体制でどんな建物をつくっているのか、どんな人達なのか、という設問を抱きながらの大阪市訪問であったろうし、当時の営繕作品の建物を見た判断もあったろう。折にふれての建築の感想は彼の日記の中で各所に出てくるし、日記の別のところには、自らの役所勤めは辛抱だったと述懐している、ほほえましい記述もある。昭和８年、時の建築課長でタウトに対応なさったその波江氏に、どんなだったのかとお聞きできる機会は過ぎてしまった。今にして思えば残念である。

伊東・桐本・郡山・山本（晃）の各氏と住宅事情調査

1955年（昭30）を過ぎる頃、研究室も何回かの卒業生が出て大学院学生も在籍し、体制が整ってきた。当時の大阪市は、戦災復興諸事業の立ち上げ、六三制の教育改革、ジェーン台風の被災、市財政の基礎を変えたシャウプ勧告、公営住宅法・住宅金融公庫法等の制度改変を乗り越えようとしておいでであった。

その頃、建設省住宅局の全国的な調査の話があって、大阪市の分について筆者等の研究室がその一部をお手伝いすることになった。国勢調査時のような全数調査でなく、中間時点の抜き取り調査である。主題は住宅事情で、その後定期的に実施され現在に続く。国の住宅施策の裏付けになってゆく統計であって、これが初回であった。

国勢調査の調査区を無作為に抽出し、それぞれの調査区内の世帯の全数について面接調査を行なう。調査個票を手集計で作表するものであった。徒歩とソロバンと手書きの時代であった。この時、市側の窓口が山本晃氏で研究室側が筆者である。初夏にはじまり秋風が吹く頃まで、先方にも目一杯無理をしていただいたし、当方もせい一杯おつきあいした思いがある。山本晃氏とはそれ以来今に続くおつきあいであり、建築部門と筆者とのおつきあいの原点はこの調査であった。

当時、建築局でこの住宅事情調査にかかわったラインは、伊東五郎局長を長にいただく組織である。悠然と構えた局長は大先輩の趣で、ご挨拶以外に具体的なお話をした記憶は無い。住宅課長桐本楠雅氏（当時）は気さくなお人柄で、何かにつけ用務以外のお話も伺う機会が多かった。早口で次から次へと話題の出る方であった。市に入られて程なく担当されたのが改良住宅事業で、日東町の住宅について企画から現場にわたる苦労話やら、入居後の管理問題までお聞きした。身ぶり手ぶりと共に記憶に残っている。その次が郡山嘉彦氏である。モノにこだわらないお人柄で、今風にいえばグルメであられた。昼食時に本庁舎を出て、どの方面ならどこそこに何があるから、それを食べるのにどうするか、といったノウハウを身をもって教えてくださった。同氏は後に住宅公団に移られている。これらの方々を通して、当時の大阪市の住宅担当の姿や仕事の運び方の

一部を垣間見ることができたように思う。

この頃、古市団地が建設された。天六の住まいのミュージアムのなかにストーリー展開で展示されているのが本物である。ツートーンカラーの色彩と流れるような棟配置とは、その頃のわが国の公共住宅団地のはしりであった。全国でその後を追う団地がつくられている。

住宅審議会のことなど

1960年（昭35）頃から、筆者も各種委員会などのご縁が増えた。市営住宅使用者選考委員会もそのひとつであって、これは程なく住宅審議会に改組された。別にこの前後から大阪市に建築指導行政が移管され、現在の住宅局の守備範囲が出揃ってくる。住宅審議会のお手伝いは現在まで続き、制度の改廃や時代の変化に応じて大阪市の課題も推移しているが、その様子を住宅分野においてもつぶさに見せていただけることになった。市営住宅の家賃問題や管理サービスが話題となった時代は過ぎ、住宅施策もソフトの対応施策が大きな課題になってきた。今も事務方のスタッフとご一緒に、あるべき住宅施策は何かを追い求めている。

本庁舎デザイン構想と大阪ドーム

本庁舎が建て替わるまで実は長い経過があるようであるが、筆者の関係したのはその準備の最終段階である。1978年（昭53）にデザイン構想の指名コンペが行なわれた。計画の諸元がほぼ煮詰った後の、意匠が主題であり、あまり専門でない筆者も委員の末席に連った。事務方は北垣智造氏であり、その下に平塚哲朗氏がおいでであった。入選案に多少手が加えられて現本庁舎が建ち上った。担当の方々にとっては長い長い辛抱の年月であった。計画をまとめあげる最後の段階を見せていただいたわけである。竹腰健三、村野藤吾の大先輩を筆頭とする委員会で、いつもながらの足立孝阪大教授、それに神戸大堯天義久工学部長とご一緒という光栄であった。

大阪ドームは計画局から1990年（平２）にお話があり多目的ドーム構想のとりまとめから、別会社ができての事業コンペまでをお手伝いした。事務方の中には、安藤茂男、福原裕治の両氏がおいでで、よくおつきあいした。足立孝教授のご指導を全般にいただきながら、小委員ないし起草委員のような役廻りで、時間のとれるかぎりお手伝いした印象が残る。委員会の論議を受けて次の段取りをたて資料を用意し、プレスの説明あたりまでを事務方のスタッフと一緒に考えていくことの連続であった。この作業体験はありがたいことであった。

御堂筋と指導要綱

御堂筋の高さ規制の見直しの委員会が設けられたのは1992年（平４）である。担当の平林孝氏とのおつきあいであった。ワーキングの方々のお力も借り、起草委員会でくみたてを考えてもらったりした。全体の路線を敷いていただいたのは足立孝委員長であったが、ご不幸があり後段は筆者が跡を受けて遺漏のないよう努めたつもりである。総合設計を前提にして都市づくりのある局面を話し合いで進めようとする現実論が、この指導要綱の筋道であって、とりわけ大阪的な取り組みであろうと今も思っている。

歴史博物館のプロポーザル

法円坂の歴史博物館のプロポーザル審査のお手伝いをしたのは1995年（平７）である。隣接の放送会館と一体につながった建物で、このとき以来営繕分野の方々と仕事をする機会ができた。このときは外国企業の参入もありえたので、国際的に通用するだけの諸般の準備をしながらの、かなり細かな作業のお手伝いであった。

大阪市との長いおつきあいの中で、お世話になった方やご迷惑をおかけした方が他にもおいでになるが、ここでは主として時系列的にいくつかの接点になった出来事と、その時の主として建築ＯＢのお名前を掲げさせていただいた。失礼の点はご容赦いただきたい。

しごとへの姿勢――大阪市

以上のようにかなり長い間、大阪市の建築関係の方々とそのしごとへの取り組みを眺めてきて、こうではないかと感じている点が４項目ある。

第１は、名と実に分けてみて必ずしも名にこだわらず実を見事に見抜いている点である。名実伴えば申し分はないが、ミーティングの結着でも中味は何かの把握が的確であったり、論旨の見事さよりも結果の重視という場合もある。思考の柔軟さとか選択肢の多様性を素直に受け入れる世界であろうと筆者は考える。

第２に、役所のしごとでは個人の手柄を表に出さない点である。首長以外にスターをつくらない気風である。これは歴史であろうと思うけれども、○○氏の手になる建物といったことは、大阪市では無い。建築に関していえば他の都市と比べて顕著な特色である。

第３が、使命感としごとの質の高さである。技術職も行政職も含めて、いずれもわが国では他に例のないようなしごとをしようという緊張感をお持ちのようにお見受けする。それを支える「大阪市」という背骨が通っている、つまり使命感をお持ちだなと感じることがあり、滅多にそれを振りかざしたりはしないとお見受けする。

第４は、やや事務的ながら、人の入れ替えが起っても仕事の引き継ぎが正確に行なわれているように思う。人さまざまに性格が異なり、仕事のしかたは変るけれども、中味は次から次へと引き継がれるというのが筆者の体験である。

ソフト施策の充実でハコモノも

建築指導も住宅も学校も営繕もいずれも今後はソフト施策の充実という方向が要請されている。仕事のできる人材と組織を擁した、大阪市の建築部門の活躍を期待したい。その中で中味の濃いハコモノも生み出してもらいたい。

（みわ　まさひさ　大阪市立大学名誉教授）

公共建築と環境

—20XX年のある日、ＴＶ番組編集事務所にて—

永村一雄

「お孫さん、どうでした？裏の名前でいえば新帝大っていうんでしたっけ、建築、わずか10校にしか残ってませんから大変でしょ？」
「そや、建築もむかしと大きく様変りや」
「でもこのまえUIA（Union Internationale des Architects）のU.S.記事見てたんですけど、日本とおんなじですよ？EUもそんなもんらしいですし」
「いや、日本が変わったんや、数十年前に。少子化が本格化して大学の倒産も数増えてやなぁ。それに成熟しきった産業分野の学部学科はいらんいうて、大学組織の大幅見直しがあった。それでや」
「たしかに、いまの一部の大学は激烈な競争してますよね。かなり研究色つよいし」
「うん、色分けがハツキリした、いうことやな、大学も。種類でいうたら、競争型と資格型、それに開放型。学部学科の配置も、競争型の大学やと、かなり煎じ詰めての結果やから、ホンマに真実追求せなアカンとか、技術革新必要やとか、国家プロジェクトやとか…。あとの資格型や開放型は、教育と教養やから、顧客対応型とでも云うか・・・」
「ところで昨日、ネットTVの特集みてたんです、このまえ解禁になったJ.F.K.暗殺の真相ってヤツ。云われてみれば、そうだったんですねェ、当り前のことですけど」
「いや、委員会の調査記録がそうやいうだけで、真相は闇の中なのかもしれんわ。居てて云うのはあれやけど、マスコミいうメディアは、いちど流れがでけてしもたら、それもう止めること、でけへん。別の流れ、寄せつけんようになるやろ」
「ところで、今度の『プロジェクトＸＸ』は環境モノなんですけど、この前、都心で熱中症状の死者が多数出たでしょ。ヒートアイランドも、来るところまで来たって感じですね」
「うん。それに関して云やぁ、前世紀の末に大阪が名古屋を抜いて日本一暑い街になったんや。あんとき、大阪こそあぶないと予想したんやが…」
「そうなんですよ。いまじゃ昔話ですけど、COP3以降、都庁って、独自の環境評価で先駆してたし、屋上緑化も補助金使って、他の自治体よりかなり推進してましたよね。緑だって皇居も御苑もある。なんで大阪じゃなくて…」
「いや、緑被率やと大阪は今世紀に入ってから、ごっつう伸びとる。デフレが蔓延しとったころ、起爆剤と称して市が外資を積極的に導入してやなぁ、あの時代としては画期的な再開発をやった」
「バブルって云うんでしたっけ『失われた10年』。そのあとの、デフレとリストラに象徴されたニッポン衰退期のころですよね。
政党が、構造改革やっきになって叫んだり、マニフェストが流行語になったって、高校の歴史で習いました。都心でも『丸ビル』とか『六本木ヒルズ』が話題呼んで、オフィス街に需要を掘り起こしたんだって、深夜のアーカイブT.Ｖ.でやってましたけど、大阪もそうなんですか？」
「そう。失業率が全国水準をはるかに越えとった大阪やから、隣の芝生は青くみえたんやろ。低迷しとった大阪は、都心の動きに刺激されて、再開発に外資を狙ろうたんや。でもな、こんとき裏で動いた奴らがおるらしい。それまでのとは、ちゃう、真っ当な環境都市つくろちゅうてな。
あんとき、環境っちゅう言葉、ずいぶん流行(はや)っとったけど、たいていは言葉の上っ面、撫でとるだけやった。どこの自治体も東京の追随、金魚のフンや。緑いうたら市民の受けもええし。大学かて同罪やでえ。屋上緑化の効果すら、まっとうに評価出てへんかった」
「でも、屋上緑化って研究されてたんでしょ」
「研究で発表されたからいうて、アテにしてええ訳やない。そこんところが難しい。マスコミも不用意に屋上緑化ばっかし追っかけたし、ちょっとしたブームになりよってなあ。」
「…」
「それにな、屋上緑化は、識者のあいだでも評価がわかれとったらしい。たしかに緑といえば、イヤシの代表やから、緑が増えて困るはずはないんや。緑化条例なんちゅうのがあるくらいやからな。考えななならんのは、緑のウリを、ヒートアイランドだけに求めすぎとらんかっちゅうこっちゃ。欧米の都市みたいに北にあって夏が厳しぃないんやったら、妥当性もあったようやけど、亜熱帯になってしもうた大阪で、どや、いうたら…。おまけに潅水せなアカンとか、どうやって管理するねんいうのも、考えたらややこしいやろし」

「じゃあ、ヒートアイランド、どうやって止めたんですか、大阪は」
「そやから、ホンマもんの環境都市めざしたんやて、官も民も。もともと大阪をクソ暑うした元締めは三つやそうや。道路と冷房と建物。道路やと土木で、残りは建築の範疇やろ」
「なるほど、建築の責任はかなり重い訳ですね」
「そや。それに建築のんは、やればでける話や。そやから選択を間違えんかったっちゅうことやろ。屋上にこだわっとったら、いまごろ、えらい騒ぎになっとったんちゃうか。

落ちるとこまで経済が落ちたさかい、でけたんやろ思うけどな、大阪は。再開発とかいうたら、昔やと利権も絡むしエゴも出てくる。民間同士でもそやろし、行政のなかかて縦割りやから、下手すりゃ縄張争いになっとったやろ。

きっかけは死者が出たことやった。たまたまフランスで異常気象が続いてやなあ、熱波で年ごとに千人単位の死者が出た。温暖化もここまできたかと。あのころ、大阪も熱帯夜の連続記録が更新されて、そろそろヤバかったんや」
「瀕死者が出始めたんですね？」
「少々の緑化じゃアカンのは、一部では知られとった。死者がぎょうさん出てからやと、さすがにマズい。そやから、本気でヒートアイランドを退治しょと」
「重い腰をあげた、と」
「そう。政治家も行政マンも。そんでもちろん市民も。きちんと緑地とってやな、建物も全部改修や。見かけとか雰囲気やない、なんぼ温度下げるんやいうて、きっちり計算しよった。ヒートアイランドとかいうもんは、ちょこちょこ緑化したからいうて、どうこうできるもんやない。建物ごとに、きちんと熱収支の計算して徹底した省エネ、緑地はてんこもり確保や」
「官の建築、みんなですか？」
「官だけやない。行政指導つこぉて民もや。いっしょに住んどるんに、民も官もないやろ」
「でも、よく団結できましたよね」
「そやなぁ。いまから思うと、よう行政が音頭とったと感心するわ。転機やったんやろなぁ、建築の。

ふりかえると、道理の通らん社会になっとった。感覚とか見た目重視、感性だけの時代やった。勤勉とか謙虚いう、ニホン象徴しとったもんが崩れ去っとった。マジメがバカにされる、ワガママが横行する」
「ちょっと、コワいですね。そんなときだと、技術とか計算とかいっても、なかなか聞いてくれなかったんじゃないですか？」
「いや、逆や。そういう時代やから、頼れるもんは技術、信用できるんは計算なんや！内心、そう思っとったヤツ、多いんとちゃうやろか。

さっき、建築の責任、重い云うたやろ。建築云うと、みんな建物のことばっかり考える。でもな、そのころ出てきた『CASBEE』いう建物の環境性能評価やと、ちゃんと周囲環境まで含めた評価も建物に責任がある、云うとる」
「建築というのは『ハコモノ』だけではない、その周辺環境も含めた住民の住まう広域な環境の整備のことだ、と？」
「そう。そやから、新しく造るもんは当然やろけど、既存の物件かて、改修時に周辺の思い切った環境整備をやったんや。

建物は建物で、当時ようやっと軌道に乗り始めた『ESCO』つこぉて、建物診断を徹底させた。これ、医者の世界でいうたら、予防医学とおんなじや。LCCO2意識させて、コジェネやら帯域別高反射機能の外皮やら総動員。

もともと大阪いうとこは、経済に合理的な意識の土地柄や。世界で始めてデリバティブいう、米つこうての取り引き始めたんが江戸時代。知っとるやろ。そんときかて、おんなじや。近視眼はアカン、長い眼でみて得か損か。LCCの結果で、合理性、競わんと。肌で感じて市民も、わかっとったいうことやろな」
「なかなか熱いスジになりそうですね。そしたら、人選ですけど、役人でいきますか？」
「出すなら技術屋にせぇよっ」
「ええ、わかってますって。そろそろ、打ち合わせの時間ですから…」
「うん、ほな、また」

（えむら　かずお　大阪市立大学大学院生活科学研究科教授）

大阪における住まいの変遷

—大阪くらしの今昔館の展示を通して—

谷　直樹／新谷昭夫

大阪くらしの今昔館（住まいのミュージアム）は住まいの歴史をテーマとする日本最初の博物館で、平成13年４月に開館した。その展示は、平成元年に出版された『まちに住まう—大阪都市住宅史』（企画・大阪市）の成果をふまえ、大阪の住まいや暮らしの変遷をわかりやすく紹介する構成となっている。ここでは当館の展示の概要を通じて、大阪における住まいの変遷をみていきたい。

近世展示室「なにわ　町家の歳時記」

江戸時代の大坂の範囲は今日よりも狭くて、上町・船場・西船場・島之内・堀江・天満に限られ、これが北組・南組・天満組に分かれて大坂三郷と呼ばれていた。近世の展示室「なにわ　町家の歳時記」は、このうち船場の町を想定し、実物大で再現したものである。設定年代は天保初年（1830頃）である。表通りに軒を並べる商家やその背面に建つ裏長屋など、江戸時代の大坂の町並みが体験できる。

さて、江戸時代の大坂の居住環境は借家の多い点に特色があった。元禄２年（1689）には借家率が84％に達しており、その多くは長屋建で、裏長屋だけでなく表通りにも表長屋が建っていた。そして、借家の賃貸に関して大坂には独特のシステムが成立していた。当時の大坂では戸締りの建具以外、つまり畳や室内の建具などの内造作は借り主が用意することになっていた。これが裸貸しと呼ばれる方法である。京・大坂では建築の設計方法として畳割が広く普及していたが、その結果、建具や畳の寸法が一定となることから互換性が生まれ、規格化が進んだ。裸貸しはこうした設計方法を背景に成立したシステムで、借家が多い大坂に相応しいものであった。

当時の大坂の町家はどのような特色をもっていたのだろうか。幕末の三都の風俗を比較した『守貞謾稿』には、大坂の町家の特色が詳細に記されている。

まず町家正面の壁の位置に関して、江戸では２階が１階より３尺後退するのに対して、京・大坂では同じ位置となり、これは「大坂建」と呼ばれて江戸では禁止されていた。火災の時に１階庇の上に火消しが登って消火活動をおこなうためであったという。つぎに、２階の部屋は店の間と中の間の上に作られるのみで、その後方は「鍛屋根」となって２階はなかった。背面の座敷部分は平屋となり、２階の屋根との間に段差がつくことから、こうした屋根の形状を鍛屋根と呼んでいたのである。じっさい、船場や空堀などに残る古い町家では屋根の背面に段差がつき、その間に窓が開いている。

屋根は、桟瓦葺とこけら葺が混在する江戸、桟瓦葺が中心で本瓦葺がわずかな京に対して、大坂では本瓦葺が多く、棟より前は本瓦葺とするが背面は桟瓦葺というのもあった。鬼瓦にもっぱら鬼面を用いるのも、大坂の特色であった。このほか、正面の２階壁面は江戸では格子窓を開くのに対して、大坂ではいわゆるむしこ窓を開き、柱から軒下までを塗り込めていた。これは盗難防止と防火のためであった（『街能噂』）。

町並みの再現ではこれらの特色をふまえて設計を進めたが、もっとも苦労した点は町家の正面外観の復元であった。江戸時代の文献資料や絵画資料のほか、町家の復元にもっとも参考となる資料は現存遺構である。しかし旧大坂三郷に現存する町家で江戸時代に遡るものは、北浜の適塾（重要文化財）と道修町の北垣薬品が知られるのみで、しかも近代の軒切り（後述）によって正面部分が削り取られていて、江戸時代の表構えを残していない。そのために旧大坂三郷以外の天下茶屋・住吉・平野をはじめ富田林・奈良・池田・茨木・高槻・京都・草津といった周辺地域に残る町家の調査もおこなった。この結果、新たな知見が多く得られたが、その一つに正面の通り庇の支持方法がある。

京都の町家では通り庇を支持する腕木は人見梁と呼ばれる胴差に挿されるが、京都以外の地域では腕木は表通りに建つ柱から出され、そのために腕木の数が限られて金物や持ち送りなどで補強される。大阪でも古い写真を見ると通り庇はかなり深く、しかも軒先が低いことから、腕木は柱に挿されていたとみて間違いない。したがって復元した町家では腕木を柱から出して金物で釣り、さらに持ち送りで補強している。おそらく京都でも古くは他の地域と同様の方法だったが、後に腕木を人見梁に挿すという新しい技術が採用された結果、他の地域と異なってきたものと考えられる。

近代展示室「モダン大阪　パノラマ遊覧」

近代の展示室「モダン大阪　パノラマ遊覧」は、明治以降の大阪の住まいと暮らしをテーマとし、明治初期から戦後にかけての代表的な住宅地を紹介する６つの模型が中央に並んでいる。これに沿って大阪における住宅の近代化をみていくことにしよう。

大阪の近代化は東と西から始まったといわれる。旧大坂三郷の東部、天満川崎では、明治元年（1868）に幕府の米蔵や材木蔵の跡地を利用して造幣寮の建設が始まった。設計はお雇外国人のウォートルスで、当時を代表する本格的な洋風建築であった。大阪市ユースアートギャラリーの玄関部分と泉布観はこのときのもので、ともに重要文化財に指定されている。また、西端の川口にあった船手奉行所の番所跡には、慶応４年（1868）、外国人の居住のために居留地が設けられた。居留地は整然と６ブロックに区画されて29宅地が設けられ、そこにコロニアルスタイルの洋館が建てられた。建物はベランダやテラスをもち、壁面は漆喰塗や下見板張りなどとして、鎧戸つきのガラス窓を開いている。こうした情景を再現したのが「川口居留地」の模型で、大阪の文明開化を象徴している。

一方、旧大坂三郷の内部は狭隘な道路が近代化を進めるうえで大きな障害となっていた。それは江戸時代以来、町家が軒下空間を取り込んだりして道路幅員が狭くなっていたからである。そこで実施されたのが、「軒切り」と呼ばれる都市改造事業であった。もともとは町家正面の一部を削り取って本来の道路幅員に回復することであったが、市電の敷設工事や都市計画に基づく道路拡幅も軒切りと総称され、明治の終わりから昭和の初めにかけて実施された。これによって大阪の都市景観は一変することになる。正面が削り取られ


実物大で再現した大坂の町並み


「川口居留地」模型


「北船場」模型

写真撮影／京極　寛

た町家はその外観を大きく変え、またこれを機に建て替えられるものも多く、なかには４～５階建のビルになったものもあった。一般の町家も、中２階建から本２階建へと軒が高くなり、さらには３階建の町家が現れてきた。外観も、軒が大きな繰り形を巡らせる箱軒となり、袖壁は立派になって瓦をのせる袖うだつ形式へ発達していった。

「北船場」と「空堀通」の模型は、こうした旧大坂三郷の近代化の様子を再現したものである。「北船場」は、堺筋を中心とした道修町と平野町の昭和７年（1932）当時の情景を再現している。堺筋に面して北端には大規模な近代町家として知られる小西儀助商店が、南端には昭和５年に建てられた近代洋風建築の生駒時計店が建つほか、３階建の町家や洋風のビル建築もみられる。また平野町通の堺筋より西は軒切り後、東は軒切り前となっており、近代化の一断面を表現している。これに対して「空堀通」は、旧大坂三郷の外縁にあたる空堀の昭和13年の様子を再現したものである。ここは現在でも路地と長屋の町として知られる地域で、表長屋の脇から延びる路地の奥には裏長屋がぎっしりと並んでいる。この長屋にも近代的な要素が認められる。

旧大坂三郷の近代化が進む一方、その周辺部では新しい市街地が形成されてきた。大正14年（1925）、大阪市は周辺の町を合併して第２次市域拡張をおこない、「大大阪」と呼ばれる広域行政圏が誕生した。そして新たに編入された区域では土地区画整理事業が実施されて市街化され、それらは「大大阪新開地」と呼ばれた。新開地にはディベロッパーが競ってサラリーマン向けに長屋建の貸家を建てていったが、これらは伝統的な長屋建築の様式を受け継ぐものの、新しい技術や材料を採用し、前庭あるいは前庭と後庭を作って塀や門で囲むなど、まったく新しい形式の長屋であった点に特色がみられる。「大大阪新開地」の模型は、このように独特の発展を遂げた大阪の近代長屋を紹介するものである。

さて、第２次世界大戦後の大阪は都心部が焦土と化し、人々はそこにバラックを建てて住み、また焼け残った建物や橋の下で雨露をしのぐ状態であった。これらの人々に対して、大阪市は緊急措置として仮設住宅を建て、また旧兵舎や学校などを一時的な住宅に転用した。廃車になった木炭バスも大阪市営のバス住宅に転用された。このバス住宅は都島区友渕町（毛馬バス住宅・24戸）と旭区豊里町（城北バス住宅・26戸）に設けられ、それぞれ昭和26年及び同30年まで存続した。住宅はともに約300坪の敷地に12～３戸ずつがまとめて並べられ、中央に共同の炊事場・便所などが置かれていた。またバスの内部は約２坪半という狭いものであったことから、後には各自が無断で建て増しをおこなっていた。「城北バス住宅」の模型は、こうした戦後の応急住宅を紹介するものである。

その後、昭和20年代後半から30年代にかけて団地住宅が一般化してくるが、なかでも昭和28年度から建設が始まった大阪市営古市中団地は、戦後の計画的団地開発の先駆的モデルとして注目される。変化に富んだ美しい「街」をつくることに主眼がおかれて、曲線を用いた道路パターンや街区構成をもち、また住戸は５種類の新しい平面が採用された。住棟は階数が２階から５階までと変化をもたせ、配置もできるだけ並行を避けて動的に計画された。さらに外壁や窓まわり、扉をクリーム色とエンジ色に統一して、バルコニーの手すりやスクリーンに別の色を用いてアクセントにし、また高架水槽やジャングルジムなどの遊具にも意匠を凝らすなど、色彩計画や外構計画もおこなわれていた。「古市中団地」の模型は、戦後の新しい居住様式としての団地住宅を紹介するものである。

大阪は長い歴史のなかで、伝統的な町家や長屋をはじめ明治以降の洋館や近代長屋など、その時代に応じたさまざまな住まいを生み出してきた。しかし、戦災や近代化によってその多くが姿を消してしまった。大阪くらしの今昔館では、実物大に復元された町並みや精巧に作られた街区模型によって、失われた住まいの歴史を追体験することができる。先人の知恵と工夫を学ぶことによって、未来の大阪の住まいが創造されることを期待したい。

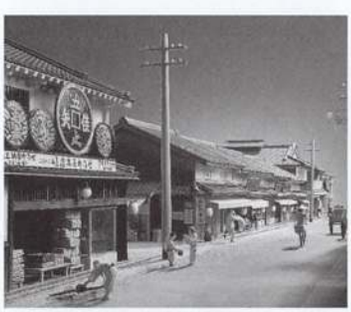
参考文献

『まちに住まう―大阪都市住宅史』平成元年　平凡社

『住まいのかたち　暮らしのならい』平成13年　平凡社

（たに　なおき　大阪くらしの今昔館館長）

（しんたに　あきお　大阪くらしの今昔館副館長）


「空堀通」模型


「大大阪新開地」模型


「城北バス住宅」模型


「古市中団地」模型

大阪市／HOPEゾーン事業

—「平野郷地区」「住吉大社周辺地区」—

大阪市のHOPEゾーン（※）事業は、市内において歴史的なまちなみや景観などの地域の特性を活かし、魅力ある住宅地の形成を図る施策の一つとして進めている事業である。すなわち、「地域性・歴史性の発展継承と居住地の魅力づくり」に向け、特色ある居住環境を形成すべきゾーンを設定し、地域住民と協力しながら、アメニティ豊かな住宅・住環境の形成と誘導を図るものである。

事業の概要

この事業は、国土交通省の「街なみ環境整備事業」の補助制度を活用し、現在、「平野郷地区」と「住吉大社周辺地区」の２地区において実施している。

平成８年度から、歴史的・文化的雰囲気を残す地域として「平野郷地区」と「住吉大社周辺地区」を選定し、事業化に向けて現況調査や整備方針の検討、地域住民の意向把握等を行ってきた。

事業の実施にあたっては、そこに住み働いておられる住民の方々が参加し、その意見を代表する地元協議会が設立され、住民と行政が連携して、あるべき地区の「修景ガイドライン」を定めて進めている。

具体的には、建物や門・塀等の改修や新築についての「まちなみガイドライン」を定め、これに沿った建物等の改修工事費の一部に補助を行うとともに、道路・公園などの公共施設の修景整備を行い、歴史的なまちなみを活かした、良好な住宅地整備を進めようとするものである。

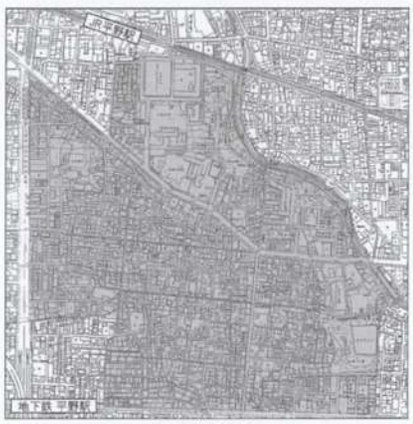
「平野郷地区」

大阪市の南東部に位置する広さ約80ha、人口約13，000人の地区である。平安時代から開けたまちで、交通の要衝として商業が発展し、戦国時代には自衛のため、まちを環濠と土居をもって囲み、町民合意でまちを運営する自治都市として、堺とともに日本の近世史にその足跡を残している。現在環濠はほとんど埋め立てられているが、環濠跡を偲ばせる道路の形状や、環濠の入口であった十三口の木戸門跡付近に残る地蔵堂など、当時の面影が今もなお残っている。旧環濠内の町割りは、大坂夏の陣で焼失後、江戸時代初期に再整備され、道路は概ね幅員４～６ｍで、直線で格子状の道路構成となっており、以後現在まで継承されている。また、区域内には建築年が江戸後期から昭和初期までの町家や寺社が全体の約３割あり、歴史的雰囲気を伝えている。

現在においても、夏祭りや住民による様々な活動が盛んであり、歴史的・文化的雰囲気が豊かなまちである。これまで親しまれて来た平野のまちなみの良い点を受け継ぎ、魅力ある住宅地の形成をめざして、住民と協力して「まちなみガイドライン」を作成した。この中で「平野らしさ」を具体的に表わすまちなみ・住まいづくりのテーマを、祭りの際に道路に面した深い軒先に吊るされるちょうちんをイメージして、

『祭りちょうちんが似合うまちなみ』

とし、これに基づいて、新築や改修に際しての考え方や補助事業の基準である「修景ガイドライン」をまとめている。



平野郷地区



祭りちょうちん



まちなみ

・「平野郷地区」の経過

平成８～11年度	整備方針策定調査
平成11年５月	平野郷HOPEゾーン協議会設立
平成12年６月	「まちなみガイドライン」策定
	まちなみ修景補助事業開始

・まちなみ修景補助事業の実績

年度	11	12	13	14
件数	１件（修景モデル事業）	３件	５件	７件

「住吉大社周辺地区」

大阪市南部の住吉大社周辺は、古くから海上と陸上の交通の要衝として栄えたまちで、旧熊野街道と旧住吉街道の交点にあたる位置にあり、古くからの町家と、社寺やまちかどの豊かな緑が、歴史的な雰囲気を今に伝えている。特に、住吉大社境内の豊かな樹林、かきつばた苑・卯の花苑の花や実、まちかどの古木や鉢植えなどが、お祭りなどの年中行事を通じて花鳥風月を楽しむ土地柄とともに、四季折々の風情を感じさせるまちなみを形成している。ここでも平野郷地区と同様に、これまで親しまれて来た住吉のまちの良い点を受け継ぎ、魅力ある住宅地の形成をめざして、住民と協力して「まちなみガイドライン」を作成した。この中で「住吉大社周辺らしさ」を具体的に表わすまちなみ・住まいづくりのテーマを

『住吉の歴史と人が育む　四季に映えるまちなみ』

とし、これに基づいて、新築や改修に際しての考え方や補助事業の基準である「まちなみガイドライン」をまとめている。特に、緑のしつらいの修景基準を追加している。



住吉大社周辺地区


住吉大社の緑


まちなみ

・「住吉大社周辺地区」の経過

平成８～11年度　整備方針策定調査
平成12年12月　住吉大社周辺HOPEゾーン協議会設立
平成13年６月　「まちなみガイドライン」策定
平成13年８月　まちなみ修景補助事業開始

・まちなみ修景補助事業の実績

年度	13	14
件数	１件	１件

HOPEゾーン事業の内容

（１）協議会活動助成

①「協議会ニュース」の発行、まちなみ勉強会やワークショップの開催、まちなみに寄与する建物への表彰活動等の協議会活動に対して、必要な助成を行っている。

②修景デザイン相談会の実施

建築デザインの専門家や学識経験者による住民向けの相談会を、随時実施している。



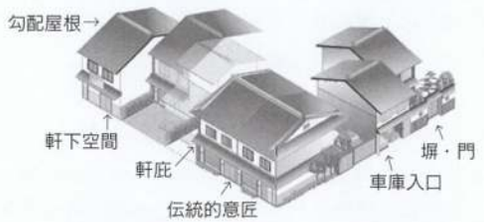

ワークショップ例（からくりおもちゃづくり）



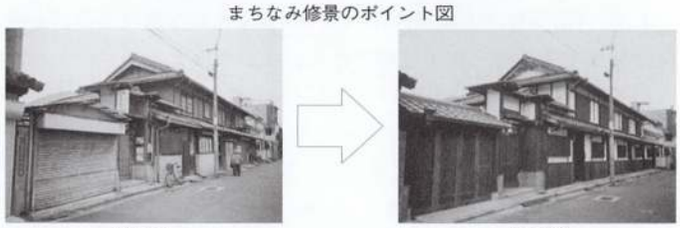
勉強会例（旧筋名勉強会）

（２）まちなみ修景補助（工事費等補助）

地区内の住宅等の修復・増改築・新築のほか、塀・門等の設置に際して、伝統的な瓦屋根や道路に面した塗り壁、深い軒庇の設置、景観に考慮した看板デザインなど、まちなみガイドラインに適合する工事に対して、１件あたり195～475万円を限度に補助を行う。

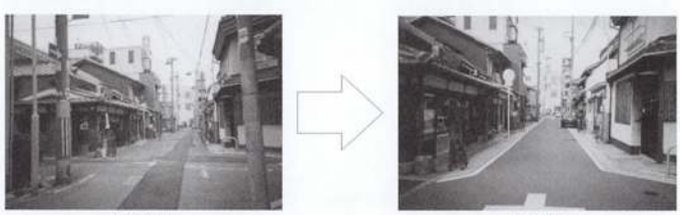


まちなみ修景のポイント図


修景前　修景後
修景事例

（３）地区内の公共施設の修景整備

地区内の道路や公園などの公共施設の一部についても、各地区のまちなみにふさわしい修景整備を、協議会をはじめとする住民の意見を聞きながら、平成13年度から実施している。


修景前　修景後
道路修景


公園修景（完成後）

※HOPEゾーンの「HOPE」は、「HOusing with Proper Environment」の略。「地域それぞれの文化的・歴史的・自然的、幅広い意味での環境を活かした住宅地づくり」という意味があり、「HOPE」という言葉本来の「希望」という意味も込めている。

（大阪市住宅局企画部）

密集住宅市街地整備について

大阪市における密集市街地の現状

大阪市では、ＪＲ大阪環状線外周部等の戦災による焼失を免れた地域を中心に、基盤などが未整備で防災面などで様々な課題を抱えた地域が存在している。

こうした地域では、老朽化した戦前長屋や木造賃貸住宅が多数存在し、防災性の向上と住環境の整備が重要な課題となっている。

基本的な取り組み

民間活力を生かした自主建替えの促進と防災骨格の形成を基本とし、全市域を対象に「民間老朽住宅建替支援事業」等を実施するとともに、**『防災性向上重点地区』や『特に優先的な取り組みが必要な密集住宅市街地（以下「優先地区」という。）』**を指定し、各種支援事業等を重点的に実施している。また、**「生野区南部地区」**など、特に課題の集積している地区では「住宅市街地整備総合支援事業」「密集住宅市街地整備促進事業」や「住宅地区改良事業」等を活用して面的整備事業を実施している。

○「防災性向上重点地区」（アクションエリア）

平成11年度に策定した「防災まちづくり計画」において、「建物倒壊危険」「延焼危険」「避難困難」の３指標に基づき、面的な災害の可能性の高い市街地約3,800haを指定。

○「特に優先的な取り組みが必要な密集住宅市街地」

防災性向上重点地区のうち、国の都市再生プロジェクト（第三次決定）における密集市街地の緊急整備方針も踏まえ、不燃領域率等を指標として、約1,300haを指定。



防災性向上重点地区等の分布

建替支援事業等の概要

○民間老朽住宅建替支援事業（全市域を対象。防災性向上重点地区は優遇）

・民間老朽住宅の建替を促進するため、建替相談やハウジングアドバイザーの派遣、計画策定費や建設費の一部補助、従前居住者に対する家賃補助などを本市独自制度として実施。
（平成４年度創設）

・老朽化した個人住宅の建替を促進するために、建設資金の一部を長期低利により融資あっせんを行う個人住宅建替資金融資制度についてもあわせて実施。

○狭あい道路拡幅促進整備事業（優先地区を対象）

・建物の建替等の際に、道路中心線からの後退部分を本市が舗装・整備等を行うことにより、道路拡幅の実効性を高めている。詳しくは、法令コーナーの頁を参照していただきたい。
（平成15年度新規）

○優良賃貸住宅建設資金融資制度（全市域を対象。防災性向上重点地区は優遇）

・土地の所有者等が賃貸住宅を建設する場合に、その建設資金に対する低利の融資あっせんを本市独自制度として実施。
（平成11年度創設）

モデル事業の概要＜生野区南部地区整備事業＞

生野区南部地区は、面積約98.5ha、人口約21,000人、世帯数約7,300戸の地域で、戦前に市街化された小規模な敷地が大半を占め、長屋等老朽木造住宅が密集した地域である。また、道路や公園などが未整備であり、防災面や住環境面で多くの課題を抱えている。

平成６年度に地元住民で結成された「生野区南部地区まちづくり協議会」と連携して、整備の基本的枠組みとなる「まちづくり基本構想」をまとめ、密集住宅市街地整備のモデル事業として、事業を実施している。

「古くからのコミュニティも生かしながら、居住環境と生活利便性の向上を図り、活気ある町に再生する」ことを目標に、国の補助事業を活用して、老朽住宅の建替促進と都市計画道路や都市計画公園等の公共施設整備を一体的に行っている。

平成11年３月末には、都市計画道路等の公共施設整備に伴い、移転される方々等のための従前居住者用賃貸住宅の１棟目が完成し、現在、３棟175戸が整備されている。

不良住宅が特に密集している区域約６haについては、防災性の向上を図り住みよい住宅地にするために、不良住宅をすべて除却し、生活道路、広場、緑地等を整備すると共に従前の居住者向けの住宅・店舗等を建設する「住宅地区改良事業」を実施している。計画の作成にあたっては、地元の関係者と学識経験者を交えた基本整備計画検討委員会を設け整備計画をまとめている。

住民と連携したまちづくり

生野区南部地区では、先に述べた建替支援事業や道路・公園などの公共施設整備の他に居住環境の向上やコミュニティの形成などを目的とする身近なオープンスペースとして「まちかど広場」の整備を行っている。地区全体で１５ヶ所を計画しており、平成１１年３月に完成した「俊徳道せせらぎ広場」を始めとして現在５ヶ所が完成している。

整備の進め方としては、近隣の住民で構成された「まちかど広場部会」を最初に設置し、広場計画の白紙段階よりワークショップ形式で意見を出し合い協議を重ねていただき、計画をまとめ上げ、広場完成後は、「まちかど広場部会」が「管理運営委員会」に移行し、住民の手による管理・運営を行っていくこととしている。

まちづくりを住民と協働で行うには、行政側と住民側との間で信頼関係を築き、住民ひとりひとりがまちづくりに参加できるようにすることが重要である。まちづくり協議会も、住民意見の反映、情報の周知を図るためのシンポジウムや見学会等の開催、まちづくりニュースの発行などの活動を行っている。

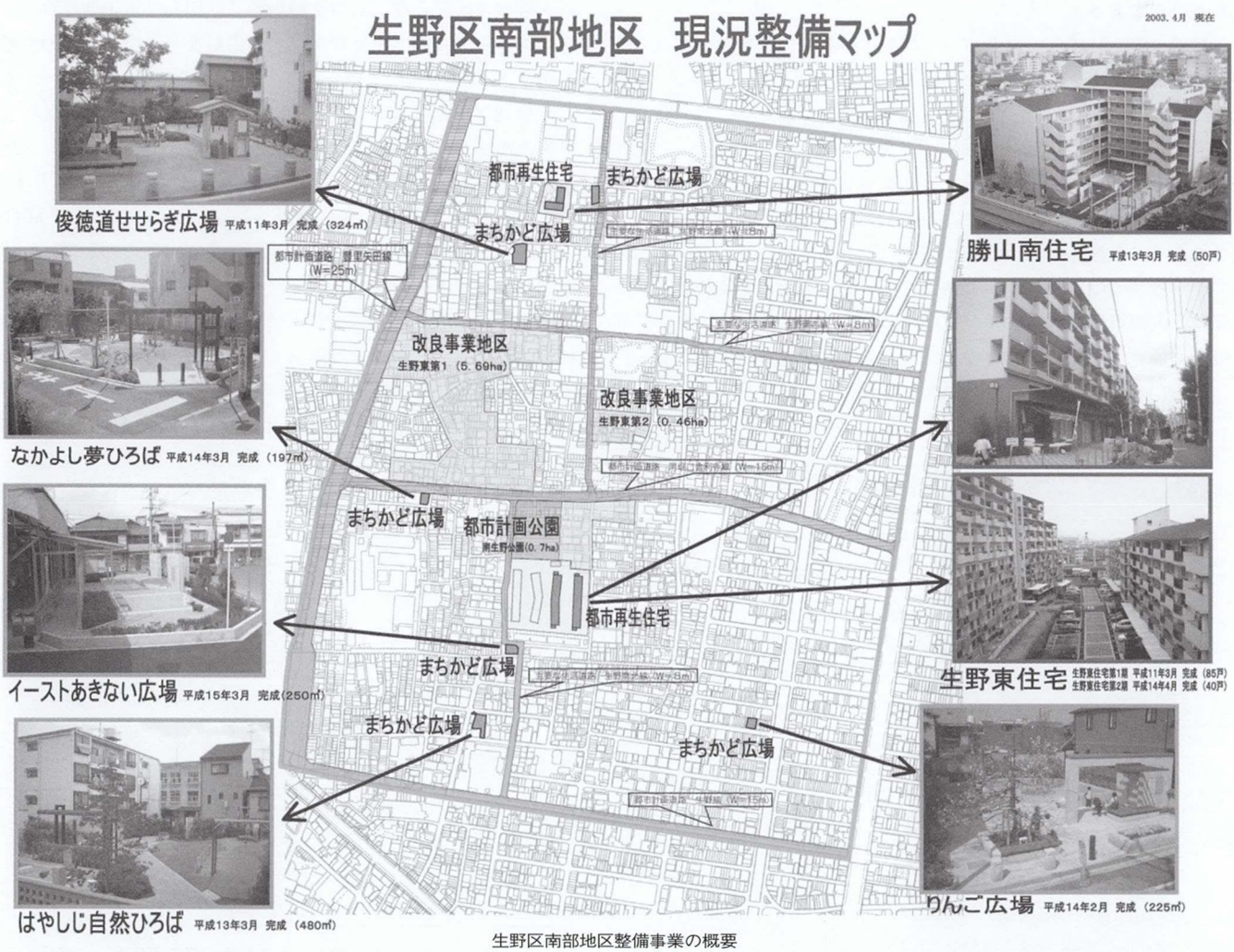
特に、「まちかど広場部会」は、ワークショップから１年もかからない短期間で住民の意見が反映された広場を整備していくことができ、成果が目の当たりに実感できるため、すばらしい住民と行政のパートナーシップによるまちづくりの場となっている。

この広場整備は、住民参加型まちづくりを模索している行政側としても大変重要な事業であり、広場整備を地区内に拡大することで、住民のまちづくり意識の向上や他事業のまちづくりの促進にもかかせないものとなっている。

おわりに

約3800haもの広範囲にひろがる密集市街地を行政だけで整備していくことは不可能であり、自主建替えの促進など民間エネルギーの活用が不可欠である。モデル事業地区で培った様々な成果を他地区に波及させ、老朽住宅の自主的な建替えの促進に今後とも取り組んでまいりたい。

（大阪市住宅局企画部）



生野区南部地区整備事業の概要

建築指導行政による良好な市街地の形成について

建築指導行政は、建築基準法に基づき建築物を建築する際、その計画が建築に関する諸法令の規定に適合するものであるかどうかの審査や検査等を行うことにより、市民の生命、健康及び財産を保護するとともに、良好な市街地環境の形成を図ろうとするものである。

平成11年度より確認・検査業務が民間の指定確認検査機関にも開放され、行政は民間指定確認検査機関と連携するとともに、総合設計制度・建ぺい率緩和等の許可・認定業務や、違反建築物の是正及び市民相談等の住みよいまちづくりに向けての誘導行政をより重点的に担うようになってきている。

大阪市では、平成12年３月には建築物の安全性を確保するための施策を総合的に実施するため「大阪市建築物安全安心実施計画」を策定し、検査済証交付率の一層の向上を目指し中間検査の実施や違反建築物に関する厳正な措置などを行うとともに、建築基準法の普及啓発を積極的に行っている。また、循環型社会の形成に寄与するため、建設リサイクル法に基づく届出事務、建築物の省エネルギー化を図るための省エネ法に基づく届出事務を行うとともに、都市再生に向けた取り組みなど、社会情勢に対応した施策の推進にも努めているところである。

ここでは、安全で住みよいまちづくりを進めるため、新たに実施している規制や制度を中心に紹介する。

大阪市における新たな日影規制

大阪市ではこれまで、府内の統一した基準で日影規制を行ってきたが、近年の産業構造の変化に伴い、準工業地域の土地利用変換が進みつつあること等を踏まえ、平成15年10月より新たな日影規制を実施している。この日影規制の実施に際しては、大阪市建築審査会に諮問し、大阪市建築審査会並びに専門調査員による検討会において、規制に伴う住宅供給や既存建築物への影響等を総合的に検証しつつ、良好な居住環境の確保を図るための日影規制について審議していただいた。平成14年12月には答申をいただき、本市では答申を踏まえ「大阪市の日影規制の基本方針」を作成するとともに、大阪市建築基準法施行条例を改正した。

新たな規制は従来の対象区域に加え、住居系地域に移行しつつある地域における良好な居住環境整備を図るため、新たに咲洲、舞洲、夢洲などの埋立区域を除く準工業地域（指定容積率200％）にも規制を適用するというもので、測定面の高さについては今回の建築基準法の改正において新たに設けられた6.5ｍとしている。（**表１**）

また、答申を踏まえ、地域の日照への影響が大きい大規模建築物についても、大規模建築物事前協議制度を活用し、第１種住居地域、第２種住居地域、準住居地域及び埋立区域を除く準工業地域の指定容積率300％の区域内の対象建築物のうち高さが20メートルを超えるものについて、敷地境界線を超えて終日日影を生じさせないように、平成15年４月より指導している。

表１　大阪市建築基準法施行条例に基づく日影規制

対象区域		規制される建物	日影測定面の高さ	規制される日影時間	
用途地域	指定			敷地境界線から5ｍを超え10ｍ以内の範囲	敷地境界線から10ｍを超える範囲
第１種中高層住居専用地域	200%	高さ10ｍを超える建物	4ｍ	4時間以上	2.5時間以上
	300%			5時間以上	3時間以上
第２種中高層住居専用地域	200%			4時間以上	2.5時間以上
	300%			5時間以上	3時間以上
第１種住居地域	200%			5時間以上	3時間以上
第２種住居地域					
準住居地域					
準工業地域（公有水面埋立法に基づく埋立区域を除く）	200%	高さ10ｍを超える建物	6.5ｍ	5時間以上	3時間以上

ただし、次の地域は除く。

1）都市計画法第8条第1項第9号の臨港地区

2）都市計画法第12条の５第3項の再開発等促進区

総合設計制度

大阪市では総合設計制度を積極的に活用し、市街地におけるオープンスペースの創出や良質な住宅の供給など市街地環境の整備改善を図ってきた。

昭和48年の制度導入以来、許可件数は710件、総合設計制度により生み出された公開空地は約98ha（大阪ドームの約29倍）、供給された住宅は約61,000戸となっている。（数値は平成15年９月末現在）

また、平成２年に「文化施設容積ボーナス制度」、平成10年に「医療・福祉施設容積ボーナス制度」、平成14年に「耐震性貯水槽設置型容積ボーナス制度」及び「屋上緑化容積ボーナス制度」を創設するなど、社会の要請に対応した制度の拡充を図ってきた。「屋上緑化容積ボーナス制度」はヒートアイランド対策の一環として、屋上緑化を行う建築物について、一般的な公開空地の整備により得られる割増容積率に加え、屋上緑化面積を１㎡当たり0.2㎡に換算して有効公開空地面積に算入することにより、容積率を割増しするものである。

さらに、「大阪市都市再生プログラム」の一環として、平成15年５月より、新たに「都心居住容積ボーナス制度（都市再生型）」を実施している。（**図１**）この制度は都市再生特別措置法で定める都

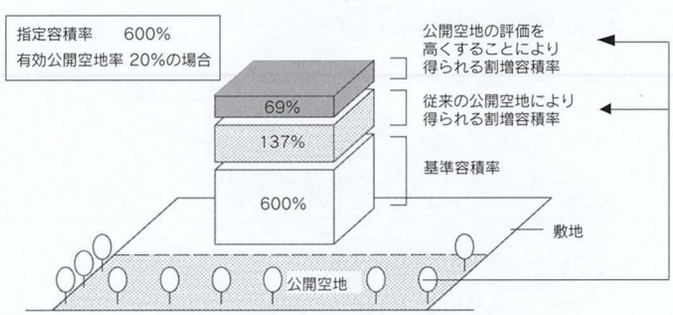


図１　都心居住容積ボーナス制度（都市再生型）の概要

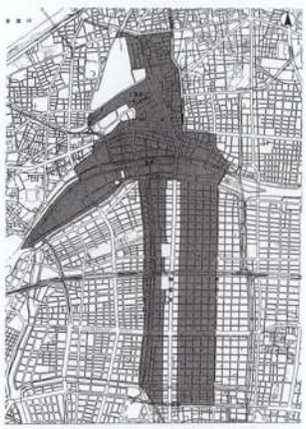


図2　都心居住容積ボーナス制度（都市再生型）適用区域図

市再生緊急整備地域「大阪駅周辺・中之島・御堂筋周辺地域」の一部の区域内（図2）で建築される共同住宅について、総合設計制度の適用条件を一部緩和するとともに、従来よりも公開空地を高く評価して容積率を割増しすることにより、都心空間の一層の有効活用を図った住宅供給を促進するものである。

狭あい道路の整備

大阪市では、密集住宅市街地における防災性及び住環境の向上を図り、安全で快適なまちづくりを推進するため、狭あい道路を建築基準法で定められた4ｍの幅にするために、建物の建替え等の際に、建築主等が敷地を後退させた部分を本市が道路舗装や後退表示板設置等を行う狭あい道路拡幅促進整備事業を平成15年10月より実施している。〈詳しくは、法令コーナーの頁を参照〉

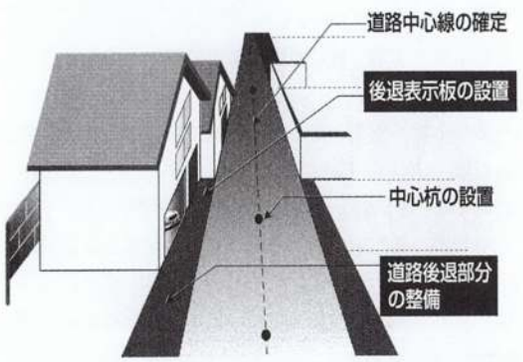


図3　狭あい道路整備イメージ図

法善寺横丁への連担建築物設計制度の適用

平成14年9月に起きた「旧中座」の火事で類焼した法善寺横丁は、石畳が敷かれた、肩が触れ合うほどの道幅の両側に店舗が立ち並ぶ、なにわ文化の魅力にあふれた、全国的にも有名な横丁であった。

横丁の道路は幅員が約2.7ｍの2項道路であり、建物を建てる際は、各々の敷地で約70ｃｍ後退する必要があるなど、従前の風情を残すことは難しい状況にあった。このため、横丁の復興を願う市民からの建築基準法の特例を求める署名や、再建に関する申し入れ等が多く寄せられた。

これらを踏まえ大阪市では、現行の建築基準法の範囲内で、まちの安全性や防火性に配慮しつつ、現状の道路幅員に近い形でまちなみを再建するため、特例的に「連担建築物設計制度」を適用することとした。また、横丁のまちなみを将来にわたり守り続けていくことも重要であることから、地元総意による「建築協定」の適用も併せて行うこととした。

法善寺横丁への連担建築物設計制度の適用に際しては、2項道路を廃止した上で、道路に面する全ての敷地を東西にある認定道路に接道する一つの敷地とした制度適用区域（図4）とするとともに、まちの防災性の向上を図るための認定基準（図5）を定めた。

「道路の廃止」「連担制度の認定」「建築協定の締結」の概要及び手続きに関して地元に説明し、関係権利者の合意を得た上で、一連の手続きを行った。平成15年1月には工事が着工され、現在は横丁北側の全ての店舗が完成し、営業を再開している状況にある。

なお、残念なことに平成15年4月に連担制度の区域内の南側で2度目となる火災が発生し、多くの店舗が被災された。これらの再建に向けても認定区域を一部変更する等一連の手続きを地元の方々と一体となって速やかに行い、現在、本格的な復興に向けて工事が進められている。

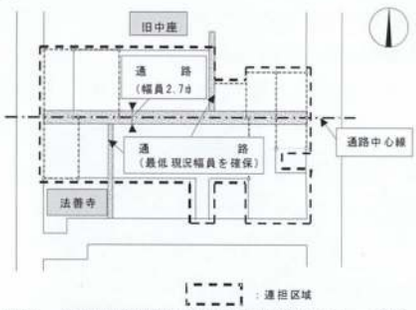


図4　連担建築物設計制度認定区域イメージ図

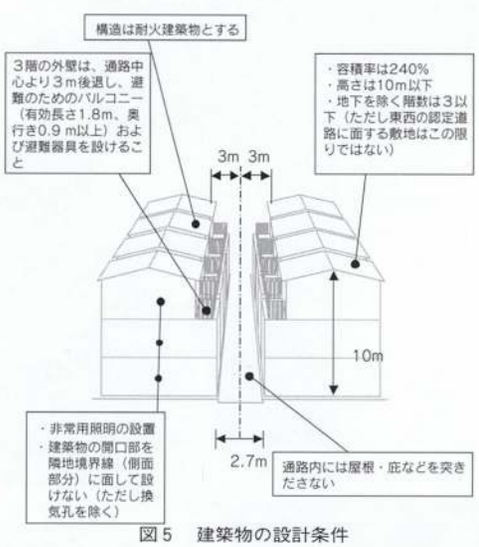


図5　建築物の設計条件

（大阪市住宅局建築指導部）

大阪市狭あい道路拡幅促進整備事業

坂中信隆
大阪市住宅局建築企画課主査

大阪市における狭あい道路整備への動き

大阪市内には、ＪＲ大阪環状線外周部を中心として老朽化した戦前長屋や木造住宅などが密集した市街地が広がっており、こうした地域では、幅員４ｍに満たない狭あい道路が多く存在している。

建築基準法では、建物の建て替え等の際に道路中心線から２ｍまで建物を後退させることが定められているものの、後退部分の整備形態まで規定されていないため、狭あい道路の解消が進んでいない状況にある。

大阪市では、平成11年に災害に強く安心して暮らせるまちづくりを進めるために「防災まちづくり計画」を作成し、その中で「狭あい道路の解消」を一つの方針として掲げ、平成15年10月「狭あい道路拡幅促進整備事業」を開始した。

狭あい道路拡幅促進整備事業の概要

狭あい道路は、災害時や緊急時の消火・避難等の支障となるばかりでなく、通風や採光といった住環境の面においても課題となっている。

「狭あい道路拡幅促進整備事業」は、これらの課題を解消するため、狭あい道路を建築基準法で定められた４ｍの幅になるように道路形態として整備し、後退表示板を設置することにより、道路拡幅の実効性を高めるとともに、市民への普及・啓発を行うものである。

以下にその概要を示す。

●整備内容　建物の建て替え等に際し、狭あい道路に対する後退部分及び角敷地における隅切り部分について、用地買収は行わず、建築主等の協力を得て、本市が道路舗装し、道路境界石・後退表示板を設置する。（**写真１**、**図１**及び本号「大阪市住宅局」特集のP53の図３を参照）



写真１
狭あい道路の
整備の実例

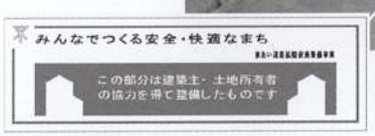


図１　後退表示板

●対象区域　防災性向上重点地区のうち、特に優先的な取り組みが必要な区域約1,300ha（**図２**）。（大阪市では、防災上の観点から施策を重点的に展開する地区を「防災性向上重点地区」と定めており、その中でも優先する必要性の高い区域を「特に優先的な取り組みが必要な区域」として位置づけている）

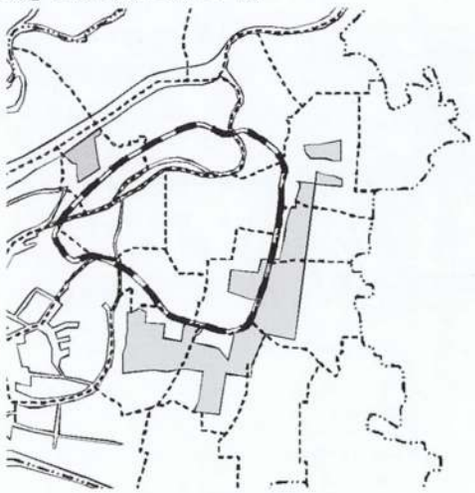


図２　事業対象区域図

●対象物件　狭あい道路に接する土地において、原則として、新築・増改築等（確認申請を必要とする行為）を行うものを対象としているが、土地所有者等の承諾が得られれば、屋外駐車場等の建物のない敷地における道路後退部分も整備する。

ただし、以下のものは事業の対象から除き、自費で拡幅整備していただくよう要請している。

- 国、地方公共団体等が行う建築行為等を伴うもの
- 都市計画法第29条に定める開発行為を伴うもの
- 他の公共事業等によって整備されるもの
- 建築基準法第42条第１項第５号に規定する位置指定道路の築造を伴うもの
- 敷地面積（分譲住宅等、建築しようとする敷地が複数連なる場合は一連の土地の面積）が500㎡を超えるもの
- この制度を適用することが適当でないと判断したもの

●事前協議　建築物等の確認申請前に道路中心線、整備方法、整備日程等について協議を行う。

●事業手法　国の補助事業である密集住宅市街地整備促進事業を活用する。（事業費のうち、本市が１／２、国が１／２を負担）

●維持管理等　整備完了後の後退用地及び隅切り用地は、その土地の権利者が維持管理する。その部分の固定資産税・都市計画税は、申請手続きを行うことにより、非課税などの適用が受けられる。

おわりに

狭あい道路の整備は、建物の建て替え等の際に、建築主等の理解・協力を得て、着実に整備していくことが必要である。そのため、制度の普及や建築物等の確認申請時における的確な協議の実施に努めていきたい。また、建築主事・指定確認検査機関・監察業務等との連携を図り、事業を着実に実施し、密集住宅市街地における防災性及び住環境の向上に努めてまいりたいと考えている。

（さかなか　のぶたか）

緒方町統合中学校の構造設計

金田興熙　白髪誠一
㈱北條建築構造研究所

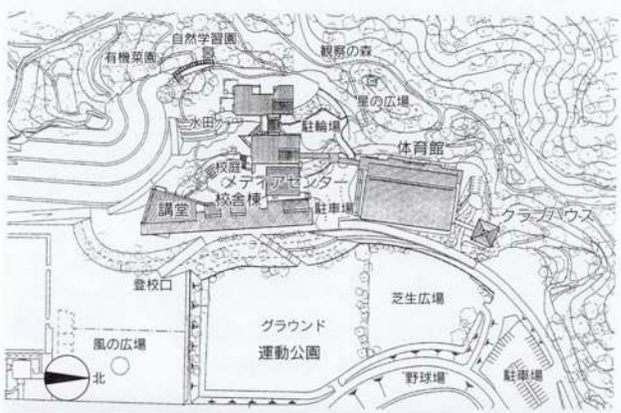
この建物は大分県の南西部に位置し、阿蘇山からおよそ40km離れた山間に建つ中学校である。この地域は江戸時代から発達した灌漑水路が町のいたるところを走り、水車、水道橋、滝が随所に見られる美しい水路の町でもある。しかし、近年の少子化、山間部の過疎化に伴う生徒数の減少により、それまでにあった2つの中学校を統合し、町の中心部に近い運動公園に隣接する小高い丘にこの新中学校を建設することになった。

運動公園の西側の丘地に平行に講堂、ピロティ、図書館が配置され、図書館の吹き抜け部分で東西方向の校舎と交差している。また、校舎北側に体育館とクラブハウスが配置（**図1**）されている。

計画に当たって構造に求められたのは、以下の項目である。

（1）地形の改変を最小限にとどめ、地形と一体となる造形とする。
（2）林業の盛んな地域であるという特色を生かし、随所に木を用い、光のあふれる空間とする。
（3）建物全体に自然な環境調整が可能になるように配慮する。

表1に建物概要を示す。



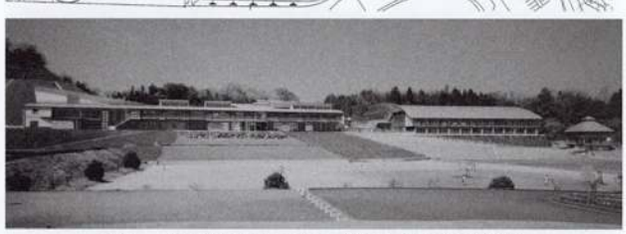


図1　配置図とグラウンドから見た建物全景

表1　建物概要

所在地	大分県大野郡緒方町
設　計	建築／重村力＋Team Zoo いるか設計集団 構造／北條建築構造研究所
施　工	松村組・恵藤建設建設工事共同企業体
建築面積	5,395.82㎡　延床面積　7,048.85㎡
階　数	地下1階、地上4層2階建

構造計画

主体構造はRC造とし、屋根は一部を除き木造とする。

校舎棟はその構造的特徴から講堂、南北、東西の3つのゾーンで構成される。講堂は四面を壁で囲まれ、全体として1階建の建物としての挙動を示す。南北ゾーンは基礎が同一階にあり、整形な建物である。東西ゾーンは**図2**に示すように斜面に沿って3層に分かれ、棚田状に建物が配置されている。

体育館棟は十分な強度と剛性を有する片持ち柱架構とラーメン架構により約30m×50mの大屋根を支持している。屋根は軽量化および屋根面内の剛性を確保するために木質構造の立体トラス架構とし、鋼製の引張材をバランスよく配置することにより、長期荷重時および風荷重時に過大な変形が生じないように配慮している。

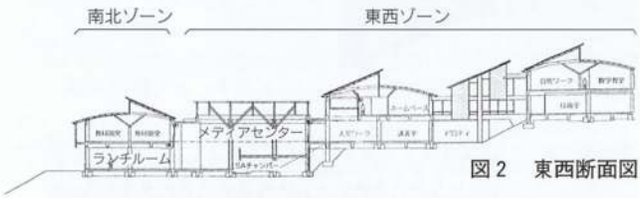


図2　東西断面図

緒方町は林業の盛んな地域ということもあり、校舎棟、体育館棟ともに、使用する部材は集成材以外は極力地場の木材を用いている。

基礎は風化砂岩、溶結凝灰石灰を支持層とし、PHC杭と直接基礎の異種基礎構造としている。また、体育館棟は建物西側からの片土圧による建物の滑動・杭のせん断力に対して十分安全であるように基礎の設計をしている。

校舎棟の設計

木造の屋根を採用することに対して、軽快で明るい空間をどうつくるかが大きな問題となった。

外周部のRC造桁梁に架け渡した木造ボールト梁のスパンは13mから18mと長大であり、梁せいを抑えるためにスパン中央に木造柱を配置している。木造の柱からは樹木の枝を連想させるような立体トラス状の斜束を露出して配置し、3本のボールト梁を1本の中柱によって支えることにより中柱の本数を減らし、空間の自由度を高め、軽快で明るい空間となっている。

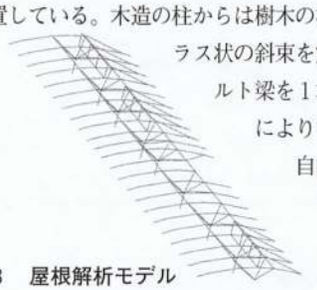


図3　屋根解析モデル

図3は屋根の解析モデルである。

使用した木材は長大ボールト梁のみ集成材、その他の斜材、柱材、小梁、垂木などには地場の無垢材を用いている（**写真1**）。斜束と柱、梁を緊結する金物は、ボールト屋根のライズ、スパン、隣接梁間距離が場所によって変わるため、すべて形状が異なり、加工業者との密接な協議によりディテールの検証を行っている。

講堂は、壁面よりランダムに跳び出した斜束を設置して屋根梁のスパンを軽減している。**写真2**は講堂の全景である。



写真1　メディアセンター



写真2　講堂全景

体育館棟の構造設計

写真3に示す体育館棟では、広さ30m×50m、高さ16mの空間を木造の屋根とそれを支持する鉄筋コンクリート造の下部構造そして



写真3　体育館棟外観



写真4　体育館棟内観

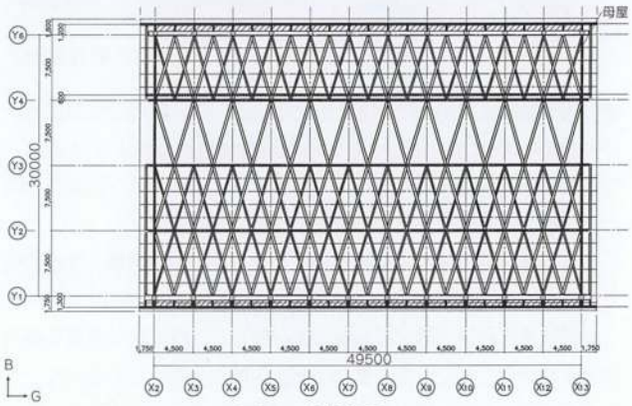


図4　屋根伏図

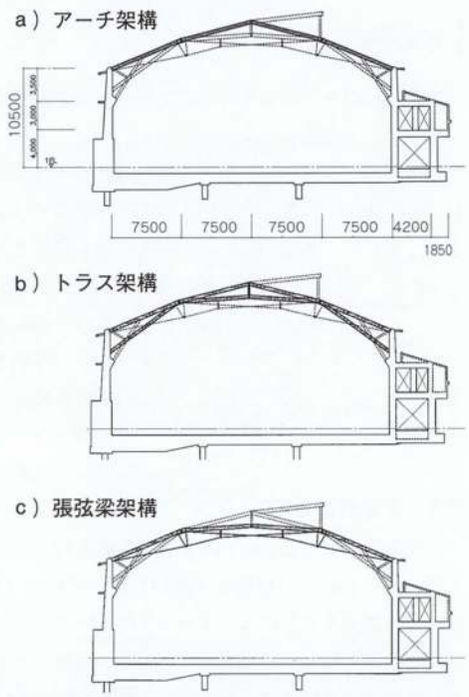


図5
屋根架構の
概念図

鉄骨造とした妻壁でいかに構成するかが課題となった。

図4に屋根伏図を示す。屋根架構は梁間方向30m、桁行方向4.5mを架構の1ユニットとし、これを桁行方向11スパンに連ねることで空間を構成している。

鉄筋コンクリート造の下部構造は、梁間方向が高さ約11mの片持ち柱架構であり、桁行方向は地中部、ギャラリー部、キャットウォーク部および軒部分に大梁を配置した4層のラーメン架構とした。ラーメン架構とすることで、**写真4**、**5**に示すように開口部が多く確保され、自然光による明るい空間とすることができている。

屋根架構は、木質構造のトラスによって構成することが設計当初に決定し、どのようなトラス架構にするかを建築設計者と議論を重ね、部材の流通や運搬方法から、大断面となるトラス架構の主材は集成材で長さ12m以下とすること、小梁・母屋・垂木等の二次部材は地場の無垢材とすることが決まった。

屋根架構は、アーチ架構、立体トラス架構および張弦梁架構の複合構造となっている（**図5**）。各部材長を12m以下とするため梁間方向30mスパンを4等分し、4個の三角形立体トラスをアーチ状に組み合わせている。さらに、タイロッドを用いて梁間方向に2対の張弦梁を重ねるように配置することで、暴風時における屋根の変形を抑制している。

屋根面には主架構の主材と小梁によりトラスを形成することで平面剛性が確保されているため、構造用合板で平面剛性を確保する場合と異なり、写真5に示すようにムクリや大きなトップライトといった意匠的な特徴が可能となっている。

妻壁には、幅15m、高さ14mの開口が設けられている。妻壁の架構は、**写真6**に示すように開口の両側と中央の3カ所に鉄骨の格子柱を配し、上部で、鉄骨トラス梁でこれを水平に繋いでいる。この鉄骨のフレームの内側に3段の耐風梁を配置し、ガラス面に加わる風荷重を鉄骨フレームに伝達している。耐風梁は、集成材とタイロッドからなる張弦梁であり、風の正圧および負圧に抵抗できるように、ガラス面を挟む両側にタイロッドを配置している。このように鉄骨架構を用いることにより、より透明感を持たせることができている。

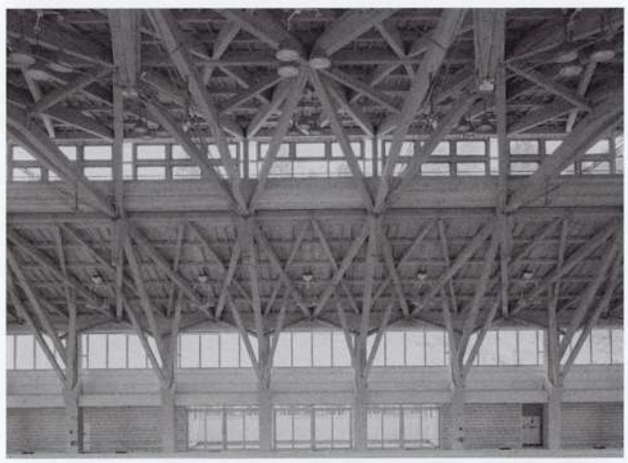


写真5　桁行内観

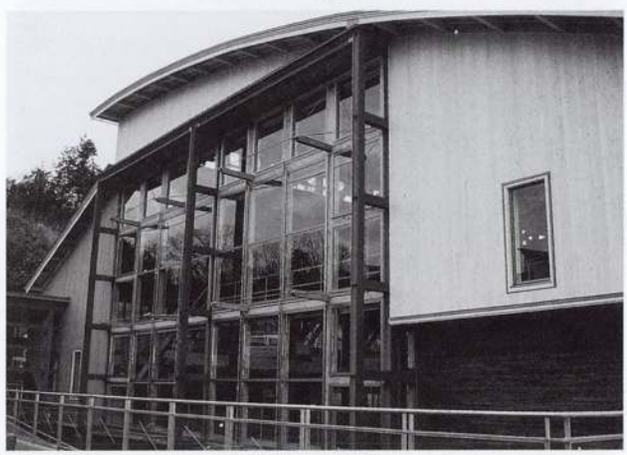


写真6　妻壁

おわりに

「建築は環境と共に末永く生きていくものでありたい。つくったときが最高なのではなく、その生命や生活が時間と共に素晴らしいものになっていくものとしてありたい」。この学校を設計した建築家の言葉である。2001年秋、町民によりなされた周囲の植樹がいま育ち始めている。美しい山間に溶け込んだこの中学校が、そこで時を過ごした子供たちと同じように成長していくのを楽しみに見つめていきたいと思う。

（かねだ　こうき／しらが　せいいち）

関西電力の蓄熱受託制度と採用事例

中原達之
関西電力㈱お客さま本部　エンジニアリンググループ（蓄熱事業チーム）

蓄熱受託制度（E×Eパック：Ecology＆Economy）は、関西電力が「蓄熱式空調システムの普及拡大による電力負荷平準化の推進」と「お客さまとの信頼感のさらなる醸成」を目的として、平成12年2月から事業をスタートさせた制度である。

制度創設に当たってのねらいは、「初期投資額の軽減（イニシャルレス）」と「竣工後の保守管理業務の軽減（ハンズフリー）」を同時に実現させ、お客さまの熱源選定時に、イニシャル・ランニング双方のコストをトータル（年経費ベース）で評価いただくための制度を創設したいというものであった。

蓄熱受託制度の内容

蓄熱受託制度を簡単に説明すると、図1のとおり、

- 設計、施工から竣工後の保守管理（運転コンサルティング）までを当社が一貫して請け負う
- その対価として、15年間（設備の耐用年数）にわたって、定額の受託料金を申し受ける

という内容である。

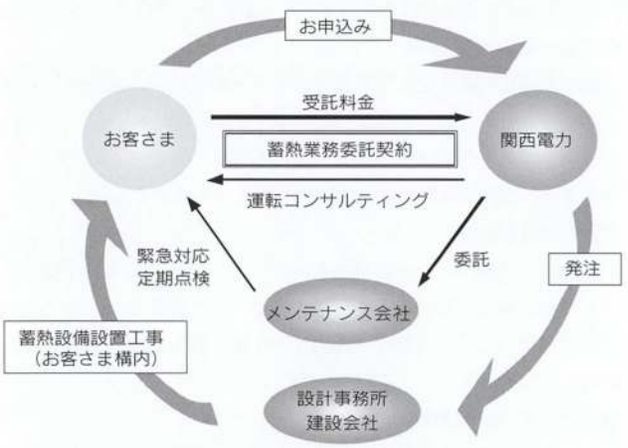


図1　蓄熱受託制度の概要

お客さまのメリットを整理すると、

- 初期投資額の削減と費用の経費化
- 契約期間中のリスク（機器故障に伴う急な出費など）の回避
- 保守管理業務の省力化とシステムの効率的運用

が挙げられる。

また、企業業績がキャッシュフローにおいて評価される昨今においては、対象設備をバランスシートから落とす（オフバランス）ことができるという面が、時勢にあった点と考えている。

なお、その適用条件や適用範囲・保守管理体制などについては、協議により決定させていただいているため、詳細は最後に記す連絡窓口までご相談いただければ幸いである。

蓄熱受託制度の採用事例―大阪駅前第2ビル―

蓄熱受託制度の採用件数は制度の導入以来、新築や改修物件で順調に増加し、平成15年12月現在では18件に達する。このうち、改修に本制度が採用された大阪駅前第2ビル（表1）の事例を紹介する。

この熱源システム（図2）により、制度採用の背景にあった初期投資額の削減とランニングコストの低減を同時に達成できると考えており、お客さまもその実現に期待している。

表1　大阪駅前第2ビルの建物概要

建物用途	事務所、店舗、駐車場
所在地	大阪市北区梅田1丁目2番2号
延床面積	103,746㎡
階数	地下4階、地上16階、塔屋3階
構造	SRC造（地下4階～地上2階）、S造（3階以上）
熱源設計	㈱安井建築設計事務所
熱源施工	㈱テクノ菱和

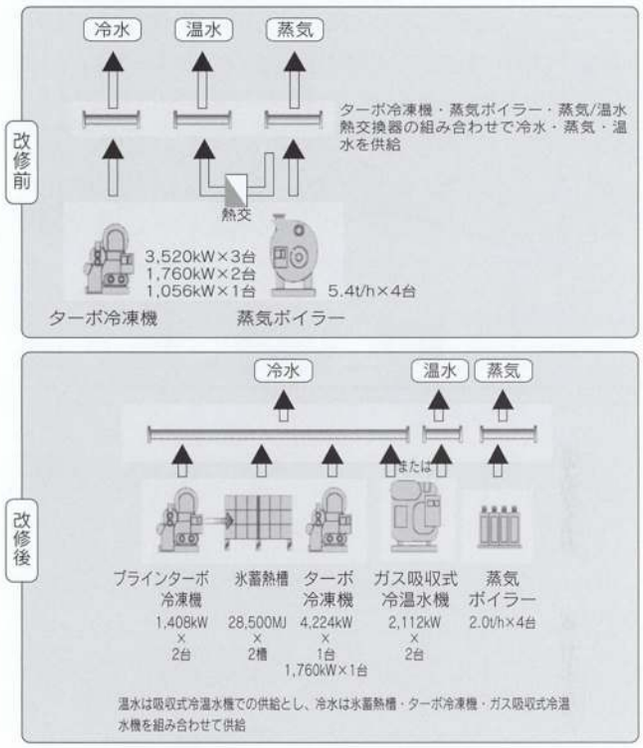


図2　新旧熱源システム概要（大阪駅前第2ビル）

●蓄熱受託制度採用の背景

- 初期投資額の削減
- 省エネルギー、省ランニングコスト
- 信頼性の向上

●改修後の熱源システムのコンセプト

- 割安な夜間電力を利用する氷蓄熱を冷房のベース運転とするため、スペースが許す最大限の容量の氷蓄熱槽を設置
- 夏期の冷房負荷ピーク時期には、ガス吸収式冷温水機を併用運転することで電力年間負荷率の向上
- 中間期は従量料金が安い高効率ターボ冷凍機を優先運転

おわりに

大阪駅前第2ビルの熱源システムは平成15年11月より運用を開始しており、われわれ蓄熱事業チームは今後15年間積極的に省エネルギーに取り組む所存である。本制度がビルの財産価値を高め、リニューアル市場の活性化に寄与できれば幸いである。

（なかはら　たつゆき）

●蓄熱受託制度連絡窓口
関西電力㈱お客さま本部
エンジニアリンググループ（蓄熱事業チーム）
TEL：06-7501-0846（ダイヤルイン）

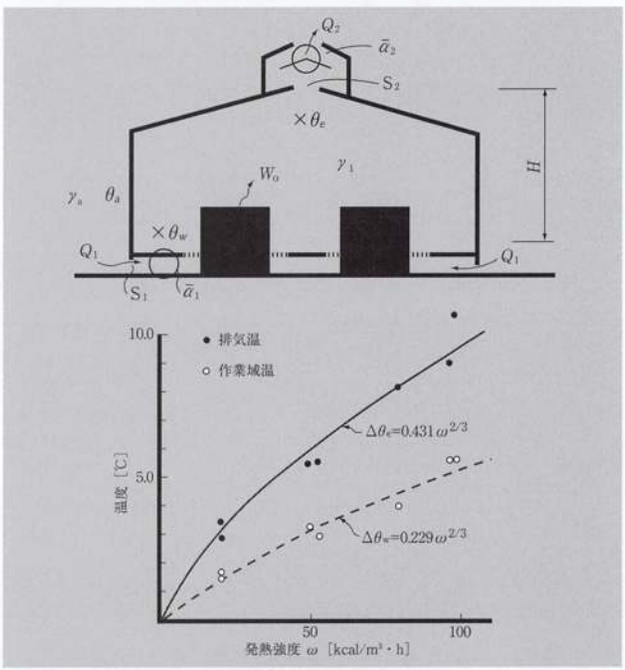
24

建築をとりまく熱・空気・光・音

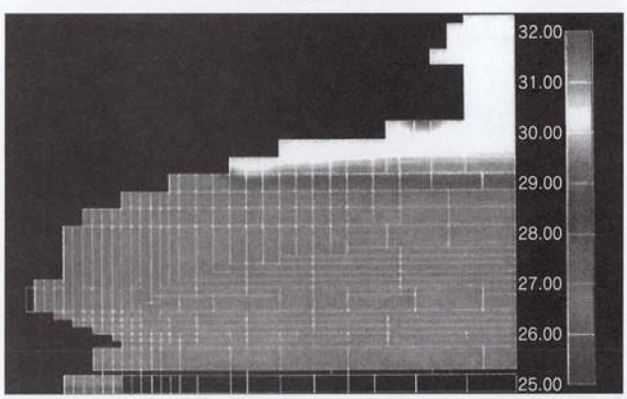
建築環境工学研究室
大阪市立大学工学研究科

建築をとりまく熱・空気・光・音環境は、建物の質を決定づける重要な要素である。意匠や構造とは異なって建物の外観にあらわれることは少ないが、21世紀の地球環境時代を迎えて、その研究の必要性はますます高まっている。

当研究室では、建築環境の質的向上をめざして、省エネルギー、自然エネルギー有効利用、快適性向上を全体テーマとしており、シミュレーション、実験室実験、フィールド調査の手法によって、熱・空気・光・音環境について幅広く総合的に研究を進めている。主要設備・備品としては、三次元超音波風速計、熱流体解析ソフト、人工気候室、騒音振動測定装置、光環境測定装置を保有している。



高温工場の換気



大空間の熱気流の数値解析

現在の主な研究テーマ

■建築物の換気

自然換気の技術を応用して、省エネルギーな建築空間の温熱環境制御を行う。高温工場やスタジアムなどの大空間建築では、室内の温度分布を考慮した居住域集中制御方式、高温多湿地帯の住宅の換気通風や、建物外被の気密性。

■室内熱・気流の数値解析

数値解析による温度・気流速度および化学物質濃度などの分布を考慮した換気・空調の最適設計の研究・開発。

■クリーンルーム

気流制御技術を用いて、高清浄クリーンルームの経済的省エネルギー的設計技術の開発。

■温熱環境快適性評価

人の行動や冷暖房機器の使用等により、人が暴露される温熱環境は常に、一定ではない。温度の異なる空間への出入り、室温の上昇・下降や周期的な変動などの温熱条件の変化等をどのように評価し、建築空間や建築設備を設計するかというのが研究テーマである。

■健康住宅の評価・設計

地球温暖化防止策としての省エネルギーのために、建物の気密化と必要換気量の低減によって、シックハウス問題が多発化している。シックハウスの形成メカニズムとその要因を明らかにし、予防・対策を考え、室内空気質に対する健康な住まいを提案する。

■昼光の有効利用

環境負荷削減の観点から昼光利用が注目を集めるようになり、データの蓄積がなされつつある。昼光日射、天空輝度分布の長期観測データを用いて、天空輝度分布のモデル化や日射の発光効率などの研究を行っている。

■室内環境設計と環境調節行動

実生活では、ヒトは与えられた刺激に対して感覚を得るだけでなく、さらにその感覚にもとづいて行動をおこす。設計目標値の設定には、こうした環境調節行動の予測が必要である。滞在温熱環境や窓開閉行動や冷房利用行動の実態調査と分析に取り組んでいる。

■交通騒音とその影響

都市生活では、騒音と居住空間の関係は大きな社会問題となっている。快適でよりよい室内の音環境をつくるためには、交通騒音の性状や影響を明らかにすることが必要である。

当研究室では交通騒音の影響について、アンケートによる社会調査と実験室実験の両面から調査・実験を重ね、騒音の影響について定量的な評価を目指す。

●研究室のひととき

・メンバー：博士前期課程6人、卒研生7人、研究生2人（韓国、中国）、ポスドク1人

・私たちの研究室は、ユーモア溢れる西岡先生をはじめとして梅宮先生、大倉先生の下、時には厳しく、でも基本的には和気あいあいとした雰囲気で、とても楽しい研究室です。（院生より）

連絡先
〒558-8585　大阪市住吉区杉本3-3-138
T/F：06-6605-2994



前列中央が西岡教授、その左右が大倉助手と梅宮助教授

●研究スタッフ

西岡利晃
・テーマ/建築物の換気（工場、住宅その他）、室内熱・気流の数値解析、クリーンルーム、交通騒音とその影響

梅宮典子
・テーマ/昼光・日射の有効利用、室内環境設計と環境調節行動、温熱生理心理

大倉良司
・テーマ/温熱環境快適性の評価、温熱生理の日変動と季節変動、健康住宅の評価と設計

保水セラミック環境材

松下電工グループ
ヴィ・リクレイム㈱
〒518-0022 三重県上野市三田字東大向410-1
TEL：0595-24-9696 FAX：0595-24-9695

保水セラミック環境材

この商品は窯業系サイディングの製造工程で発生する産業廃棄物を主原料とし、高温焼成して製造された、環境にやさしい商品である。そのため、セメントで成形した他の建材と比較して細孔径が小さく、毛細管現象による吸水力が極めて大きな材質に仕上がっているが、水は通しにくく、保水力としては通常のインターロッキングなどと比較して、非常に大きなものになっている。ヒートアイランド防止の機能を持たせた、基材、仕上げ材等に最適な商品である。

製品の特長

■多孔質（空除率70%）で吸水性（吸水率25～30%）が大変良い商品である。
①素早く吸水するので水溜まりができにくく、滑りにくい。
②内部にたくさんの気孔を持ち、保水性に優れている。
③毛細管現象により吸水された気孔内の水が蒸発する時に周囲から気化熱を奪うので、ヒートアイランド現象を防止するのに役立つ。
■強度はJIS規格を充分クリアーしている。
■有害物質の溶出はない。

製品の用途（写真１）

これらの特長を利用して下記の用途に使用できる。
（イ）公園等の遊歩道
（ロ）住宅用のアプローチ、ベランダ
（ハ）プールサイド
（ニ）ガーデニング用品

メンテ写真（写真２）

吸水性が非常に良く、水が溜まらず滑りにくいので、歩道等には最適であるが、反面、日陰ではコケ類が発生しやすく、美しく保つにはメンテが必要である。
＊水による高圧洗浄で容易に除去する事ができる。

特殊な用途の写真（写真３）

■室内ガーデニング商品
①乾燥状態が目で見えるので、水の管理が楽である。
②通気性が高いため、水の遣り過ぎによる弊害が少なくなる。
③遠赤外線により鉢内の加温効果が期待できる。
■レンガ芝
①根の成長が抑制されるため、芝の徒長も押さえられ、芝刈り回数が減少する。
②屋上等に使用すれば屋根の断熱性能が向上する。
［商品名］
ウォーターレンガ（100×200×40）
ウォータータイル小（100×200×20）
ウォータータイル大（290×290×20）
３品種で色は自然調の仕上がりである。（塗装はしていない。）
［価格］
標準価格14,000円～17,500円/m³　（岡本博明／建材委員）



写真１　玄関アプローチ



遊歩道



写真２（洗浄前）



（洗浄中）



（洗浄後）



写真３（植え付け）



（レンガ芝）

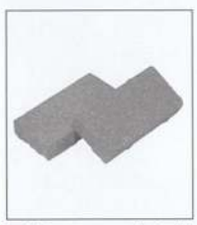


写真４（レンガ）



（タイル小）



（タイル大）

「ジャン・ヌーベル展」

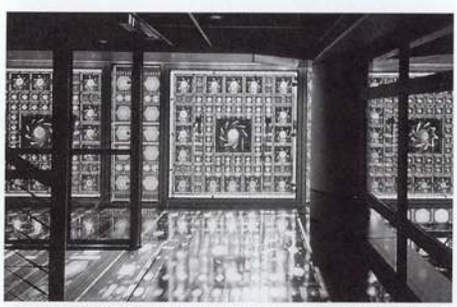
人々の視線を意識し、またその視線に対して知的かつ官能的な姿で応えるジャン・ヌーベルの建築は、全く新しい美的枠組みをもたらすものとして大きな注目を集めている。建築をゆるぎない構造、「物質」の檻から解放し、視覚のイリュージョン効果を追求し境界を消失させたヌーベルは、「建築はイメージの創出である」という。

2001年パリのポンピドーセンターで始まったヌーベルの個展は、サントリーミュアジアム［天保山］でフィナーレを飾る。

会　期　2004年2月14日（土）～4月4日（日）
10：30～19：30 月曜日休館（3／29は開館）
会　場　サントリーミュージアム［天保山］
大阪市港区海岸通1-5-10
地下鉄中央線・テクノポート線大阪港駅下車
TEL 06-6577-0001
入場料　大人1,000円、高・大生700円、小・中生500円
65歳以上700円

■「ジャン・ヌーベル展」開催記念講演会
講　師　ジャン・ヌーベル　※日本語通訳付
ゲスト　安藤忠雄（建築家）
日　時　2004年2月14日（土）14：00～16：00
会　場　リサイタルホール（大阪市北区中之島）
定　員　560人（全席自由）
料　金　2,000円

チケットは1月10日より電子チケットぴあ、ローソンチケット、サントリーミュージアム2階で販売。



フランス年間優秀建築賞を受賞した《アラブ世界研究所》
パリ（フランス）1981年～1987年

第53回アイカ現代建築セミナー

■「空間・時間・人間―時間と人間が建築をつくる―」
講　師　古谷誠章（ふるやのぶあき）（建築家）
日　時　2004年2月19日（木）18：00～19：30
会　場　広島YMCAホール（定員285名）
広島市中区八丁堀7-11
入　場　申込制（2004年1月31日まで）・入場無料
申込先　http://www.aica.co.jp/seminar/または
http://www.kenchiku.co.jp/aica/へ。氏名・年齢・勤務先住所（自宅住所）・勤務先名（学校名）・電話番号を明記し申し込み。

ふくやま美術館「日本を意匠した近代建築家たち」

広島県のふくやま美術館は開館15周年を記念して、地元福山の藩士や豪商の息子で、近代建築史に光彩を放った3人―武田五一・田辺淳吉・藤井厚二―の仕事を紹介する。

武田五一（1872～1938）――欧米の最新建築の導入に力を入れるかたわら、茶室研究や和風建築の批判的継承を試み、京都帝国大学工学部建築学科を創設し、教授を務めた。

田辺淳吉（1879～1926）――清水組に在籍し、武田とともに新感覚派を代表し、日本女子大学成瀬記念講堂や、誠之堂、晩香廬を設計した。

藤井厚二（1888～1938）――竹中工務店を経て、武田五一の招きにより京都大学で教鞭をとる。自宅・聴竹居は、科学的な住居論の実践である。

会　期　2004年1月16日（金）～3月14日（日）
9：30～17：00　月曜日休館
会　場　ふくやま美術館　TEL 084-932-2345
広島県福山市西町2-4-3
JR福山駅北口より西へ400m
観覧料　一般900円、中高生500円、小学生400円

なお会期中、記念講演会が二つ予定されている。いずれも聴講無料、先着順。

■「福山の生んだ日本を代表する三人の建築家」
講　師　藤森照信（東京大学生産技術研究所教授）
会　場　ふくやま美術館・ホール
日　時　2004年1月18日（日）14：00～15：30

■「日本近代建築史上における武田・田辺・藤井」
講　師　鈴木博之（東京大学工学部教授）
会　場　ふくやま美術館・講義室
日　時　2004年3月13日（土）14：00～15：30

「具体」回顧展～兵庫県立美術館～

「具体美術協会（略称：具体）」とは、戦後まもない昭和29年、関西の抽象美術の先駆者・吉原治良と阪神在住の美術家で結成されたグループ。その名「具体」には、「われわれの精神が自由であるという証を具体的に提示したい」という思いが込められている。1972年、吉原治良の死によりグループは解散したが、「具体」の元会員は現代美術の第一線で活躍している。兵庫県立美術館では「具体」の結成50周年を記念し、大回顧展を開く。出品作家に、今井祝雄、嶋本昭三、白髪一雄、鷲見康夫、堀尾貞治、元永定正、吉原治良らが予定されている。

会　期　2004年1月24日（土）～3月14日（日）
10：00～18：00（金・土曜日は20：00まで）
月曜日休館



リーダーの吉原治良（中央）を囲む「具体」のメンバー
1965年

会　場　兵庫県立美術館　TEL 078-262-0901
神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1
観覧料　一般1,200円、大・高生800円、
中・小生400円

第17回大阪市ハウジングデザイン賞の受賞作3点



●コムズシティ野江A・B棟（分譲）　所在地／城東区中央
事業者／ゼネラル株式会社
ゼネラル興産株式会社
設計者／株式会社菅原賢二設計スタジオ
施工者／清水建設株式会社

●ジーニス大阪（分譲・権利変換）
所在地／北区菅原町
事業者／菅原町地区市街地再開発組合
設計者／株式会社東畑建築事務所
施工者／大林・五洋・松村・長谷工特定建設工事共同企業体

●都住創大手前（コーポラティブ）
所在地／中央区大手前
事業者／都住創大手前管理組合
施工者／株式会社ヘキサ





昭和62年にスタートした本賞では、平成15年度第17回の受賞作品3点を含めて、54の民間マンションを表彰してきた。

平成15年度は、概ね過去5年以内に大阪市内に完成した民間マンションで優れたものの推薦を大阪市が呼びかけたところ、103点の推薦があった。今回は多様な居住ニーズに応える構成や、地域特性を生かした土地利用形態の実現に向けた取り組みに加えて、それを実現する優れた技術水準をもつものが選ばれている。

第35回中部建築賞表彰作品が決まる

中部地域の地域社会の発展に貢献したと認められる優秀な建築作品に対してその功績を讃え、さらに優秀な建築が生まれる基礎を築くことを目的に「中部建築賞」が創設された。今年度で35回を迎え、一般部門で64点、住宅部門で32点の応募があり、審査の結果、入賞9点、入選11点、特別賞1点が選ばれた。



[一般入賞]
福井県立図書館・福井県文書館（福井県）
設計：横総合計画事務所



[一般入賞]
室生犀星記念館（金沢市）
設計：森俊偉＋ARCO建築・計画事務所



[一般入賞]
名古屋クロイゾンスクエア（名古屋市）
設計：竹中工務店東京本店



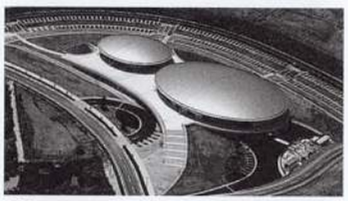
[一般入賞]
静岡ガス研修センター（静岡市）
設計：岩本弘光建築研究所



[一般入賞]
D-Square（愛知県）
設計：竹中工務店名古屋支店



[一般]
トヨタ車体株式会社開発センター技術本館（愛知県）
設計：清水建設名古屋支店



[一般]
浜北市総合体育館「グリーンアリーナ」（静岡県）
設計：日本設計名古屋支社



[一般]
千種文化小劇場「ちくさ座」（名古屋市）
設計：名古屋市住宅都市局営繕部営繕課／伊藤建築設計事務所



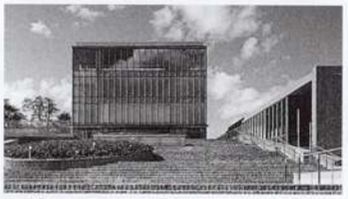
[一般]
富山市民芸術創造センター新棟及びランドスケープ（富山市）
設計：森俊偉＋ARCO建築・計画事務所



[一般]
ディサービスセンターちゃぼぼ+グループホーム弥生（岐阜県）
設計：大建設計



[一般]
静岡県立静岡がんセンター（静岡県）
設計：横河建築設計事務所



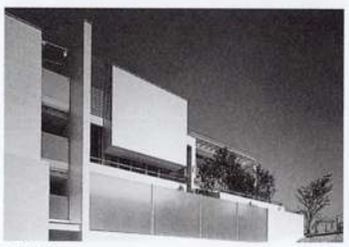
[一般]
石川県西田幾多郎記念哲学館（石川県）
設計：安藤忠雄建築研究所



[一般／特別賞]
楞嚴寺（愛知県）
設計：竹中工務店名古屋支店



[一般]
森林公園インフォメーションセンター「わくわく森林ハウス」（石川県）
設計：水野一郎＋金沢計画研究所



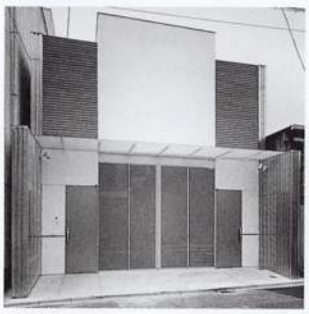
[一般]
HX（愛知県）
設計：建築設計室アーキスタジオ



[住宅入賞]
ROOFTECTURE丸岡（福井県）
設計：遠藤秀平建築研究所



[住宅]
TRUNK ～TRUE THINK～（愛知県）
設計：大山圭史＋WORK・CUBE



[住宅入賞]
N家（名古屋市）
設計：アール・アイ・エー名古屋支社



[住宅入賞]
ST邸（三重県）
設計：内川建築設計室



[住宅入賞]
長浦の家（愛知県）
設計：服部信康建築設計事務所



[住宅]
西春の家（愛知県）
設計：向井一規建築設計工房

日本建築協会

月間の動き

【平成15年11月分】

臨時総会

第1回臨時総会
11月26日（水）16：00～16：30
出席者　佐野会長ほか39名
議　事　（1）運営資金の件
　　（2）事務所移転検討の件
　　（3）理事補選の件

役員会

第9回正副会長会議
11月18日（水）15：30～17：30
出席者　佐野会長ほか10名
議　事　協会財政運営について
第10回正副会長会議
11月26日（水）17：00～17：30
出席者　佐野会長ほか10名
議　事　協会財政運営について

評議員会

第1回臨時評議員会
11月5日（水）15：00～15：45
出席者　佐野会長，議長ほか17名
議　事　（1）理事補選候補者の件
　　（2）日本建築協会の財政再建施策の件

編集委員会

第8回広告企画小委員会
11月12日（水）17：00～18：00
出席者　渡邉副委員長ほか4名
議　事　（1）平成15年12月号、平成16年1月号特集経過報告
　　（2）平成16年2月号「都市緑化」特集について
　　（3）表紙3面対向頁の企画について
　　（4）表紙4面の広告について
　　（5）収支状況報告
第8回法令分科会
11月5日（水）14：00～16：30
出席者　鶴田幹事ほか5名
議　事　（1）編集委員会の報告
　　（2）「法令コーナー」の企画
　　（3）来年の法令特集
第2回計画分科会―計画系―
11月5日（水）18：30～21：00
出席者　鈴木幹事ほか4名
議　事　（1）誌面刷新の報告
　　（2）来年4月号計画特集の企画
第6回計画分科会―建築計画系―
11月10日（月）18：30～22：00
出席者　野田幹事ほか5名
議　事　（1）「建築と社会」誌特集頁の縮小
　　（2）2004年9月号特集のテーマ案について
　　（3）委員構成の見直し
　　（4）今後の予定
第1回計画分科会―インテリア・住宅系―
11月19日（水）18：30～20：30
出席者　高野幹事ほか3名
議　事　（1）次期幹事について
　　（2）都市基盤整備公団の後任委員
　　（3）特集号
第5回施工材料分科会
11月20日（木）17：00～18：30
出席者　平野幹事ほか5名
議　事　5月号特集について
第3回計画分科会―計画系―
11月25日（水）18：30～21：00
出席者　鈴木幹事ほか4名
議　事　来年4月号計画特集の具体化
第8回作品作風小委員会
11月27日（木）19：00～20：30
出席者　倉渕副委員長ほか5名
議　事　（1）作品の選定
　　（2）作品の掲載状況並びに掲載予定の報告
　　（3）「gallery」掲載報告・予定
　　（4）前回の編集委員会の報告

事業委員会

第5回事業委員会
11月18日（火）18：00～19：30
出席者　川村委員長ほか4名
議　事　各小委員会からの報告と検討
第5回若い会員の集い小委員会
11月5日（木）19：00～20：30
出席者　樋上委員ほか4名
議　事　（1）前回事業委員会の報告
　　（2）今後の検討、経過報告
第5回情報小委員会
11月12日（水）18：00～19：10
出席者　瀬戸川幹事ほか4名
議　事　（1）前回事業委員会の報告
　　（2）企画の実施報告ならびに経過報告、今後の検討
第5回見学会小委員会
11月13日（木）18：00～19：10
出席者　松浦副委員長ほか3名
議　事　（1）前回事業委員会の報告
　　（2）見学会の実施報告、企画経過報告、今後の検討

見学会

旧村山龍平邸と香雪美術館見学会
11月11日（火）14：00～16：30
参加者　25名
講　師　坂本勝比古/神戸芸術工科大学名誉教授

教育委員会

工高生デザインコンクール　表彰式
11月15日（土）14：00～16：00
出席者　塘審査委員長、杉原審査委員
　　片倉，和田正副委員長ほか教育委員2名
　　入選者13名（共同制作含む）ほか引率者9名

出版委員会

第7回出版委員会
11月20日（木）18：00～19：00
出席者　上原委員長ほか9名
議　事　（1）〈プロのノウハウ〉と特装本の経過報告
　　（2）今後のテーマと執筆者選定
第9回建築教育小委員会（仮称）
11月6日（木）17：30～19：35
出席者　安達主査ほか6名
議　事（1）「建築設計教育の変化」について
　　（2）今後の作業予定
第17回「建築施工図の作図方法とチェックポイント」出版小委員会（仮称）
11月13日（木）18：00～19：30
出席者　田中主査ほか5名
議　事　「建築施工図の作図方法とチェックポイントに関して」事例報告

建築工事実務講習会

施工計画/受講者26名
11月21日（金）9：00～17：00
講　師　仮設・地下工事　有光利治氏（鹿島建設）
　　上部工事・工程　池田孝夫氏（大成建設）
仮設見積・積算/受講者12名
11月27日（木）9：00～17：00
講　師　仮設見積　阪井　聡氏（大林組）
　　積算業務　高熊　満氏（竹中工務店）
会　場　大阪府建築健保会館

近代建築を学ぶ会

「近代建築を学ぶ会（仮称）」第4回準備委員会
11月17日（月）18：30～20：50
出席者　佐野会長ほか7名
議　事　「近代建築を学ぶ会（仮称）」の企画について

建築クラブ

第375回建築クラブ朝食会
11月11日（火）8：30～10：00
演　題　『ノーベル賞サラリーマン田中耕一君誕生の背景』
講　師　真壁　英樹氏（元　島津製作所）
場　所　大阪全日空ホテル
参加者　20名

入会者(敬称略)

〔個人会員〕

中村　隆（双建設計事務所）
山本　清彦（戸田建設）
西村　清志（平田建築事務所）

◀会員の訃報
平田　定男氏　　平成15年11月5日　ご逝去

第49回 工高生デザインコンクール

設計課題／学校に建つメディアセンター

応募校数●22校　応募作品数●85点
締切日●平成15年９月30日　審査会●平成15年10月18日　表彰式●平成15年11月15日

審査総評

審査委員長　塘　伸夫

「学校に建つメディアセンター」という課題に対し、従来の図書館との違いをどのように位置付け表現してくるのだろうか？　敷地（場所）をどこに設定し、周辺との繋がりをどのように捉えてくるのだろうか？　今日的テーマである環境・自然とのかかわりや、リニューアル・コンバージョン等々、これらに対する若い工高生たちの解答を期待しつつ、審査は進められました。結果的には、一つのテーマをしっかりと定め、はっきりとした解答を示せた作品が審査員の目にとまり、最後まで残りました。

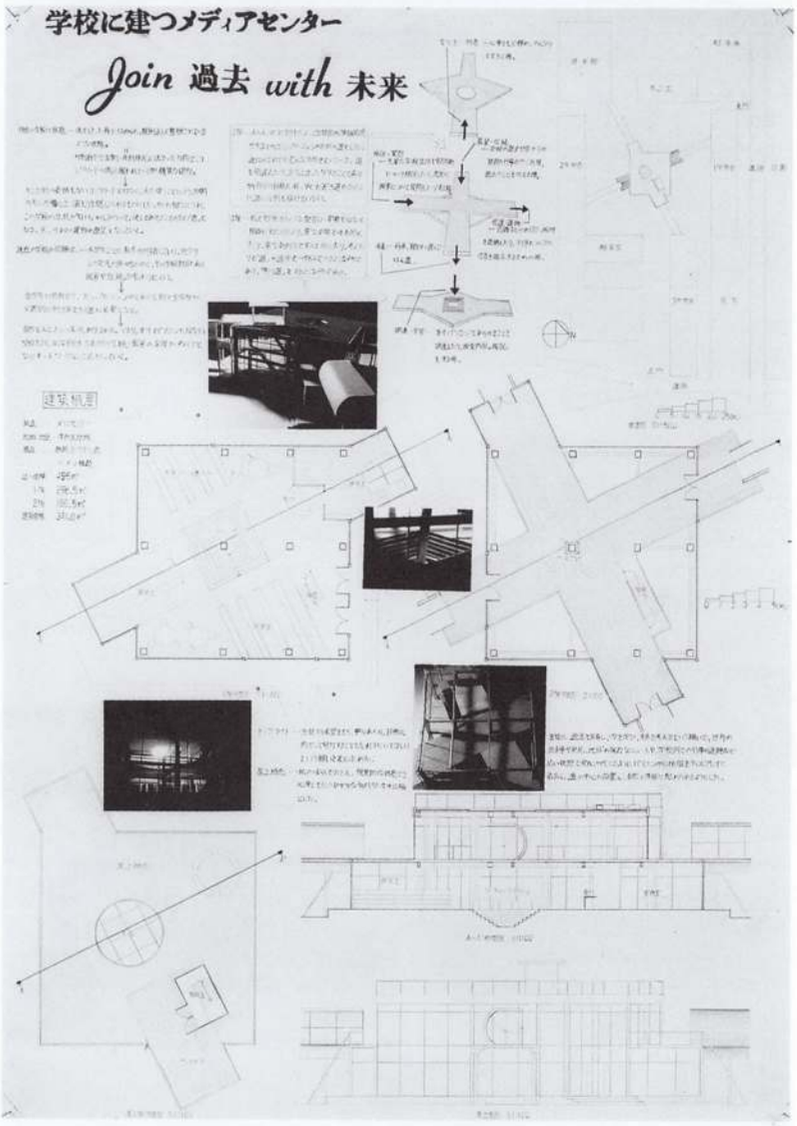
最優秀賞の**坊内**案は、既設校舎に囲まれた空地に２階レベルで結ばれた２本のデッキ通路（道）を設け、その交差点に木造フレームで構成された透明感のあるメディアセンターを配置している。多くの生徒が行き交うこの場で情報交換を行い、交流を深めることが意図され、コンセプトと形態を見事に一致させた明快な作品として多くの審査員の賛同を得た。

優秀賞の**三枝**案は、シンプルで明快なプランと造形力が評価された。コア部分を情報発信の電光掲示板とし、四周連続するＶ型の柱で屋根を支え、透明感溢れる空間となっている。特に模型での表現力は群を抜いている。

優秀賞の**森田**案は、緑豊かな森の中に１枚の大屋根を架け、その下のピロティー空間に異なる形の機能空間を挿入し、全体として伸びやかな形態にまとめあげた力量が評価された。周辺の自然の緑との繋がりを活かした半屋外空間は魅力的ではあるが、何かもう一工夫の仕掛けが望まれるところだ。

入選案の**有藤**案は植物を建物内に取りこみ気持ちの良い爽やかな空間が演出されているが、メディアセンターとしての表現がやや希薄である。**大澤**案は近々廃止となる造船科の記念館として位置付け、アプローチ部の池にモニュメントの舟を浮かべ、記憶の継承を意図した作品である。配置計画も秀逸である。Ａ１用紙１枚にバランス良くまとめられた図面の表現力は高い評価を得た。**森川・伊藤**案は古い民家を移築したリノベーション計画である。周辺建物との調和等、賛否両論あったが、プランニングやドローイングがしっかりしている点が評価された。**一木**案は既存校舎の４・５階に増築し、２層吹き抜けのスペースに「隠れ家」と称するユニット化された装置を組み入れ、楽しい読書空間を提供するというアイデアが新鮮であった。人の動きが感じ取れる空間構成が評価された。**牧野・巻本・中野**案は既設棟端部のわずかな空地に３階建を増築し、既設棟の改修を含めた新たなメディアセンターを計画したものである。周辺地域住民の利用も考慮され、非常に良くまとまった、すぐにでも建ちそうな現実的な案である。やや発想が固いという指摘もあったが、最後まで優秀作選定に残った案である。**信澤**案は単体ではなく情報の街として計画され、キャンパス内の人が集まり、楽しめそうなスペースという点で評価された。建物の形態はやや安易で変化に欠ける。**山田**案は開かれた学校を設計主旨として展開されているが、形に十分表現しきれていないのが惜しまれる。丁寧に描かれたドローイング力は抜群で、プレゼンテーション力の高さが評価された。

選外作品にも、次世代を担う若々しい気概に満ちた内容ある作品が多く見られた。応募者の皆さまのますますの頑張りを期待します。



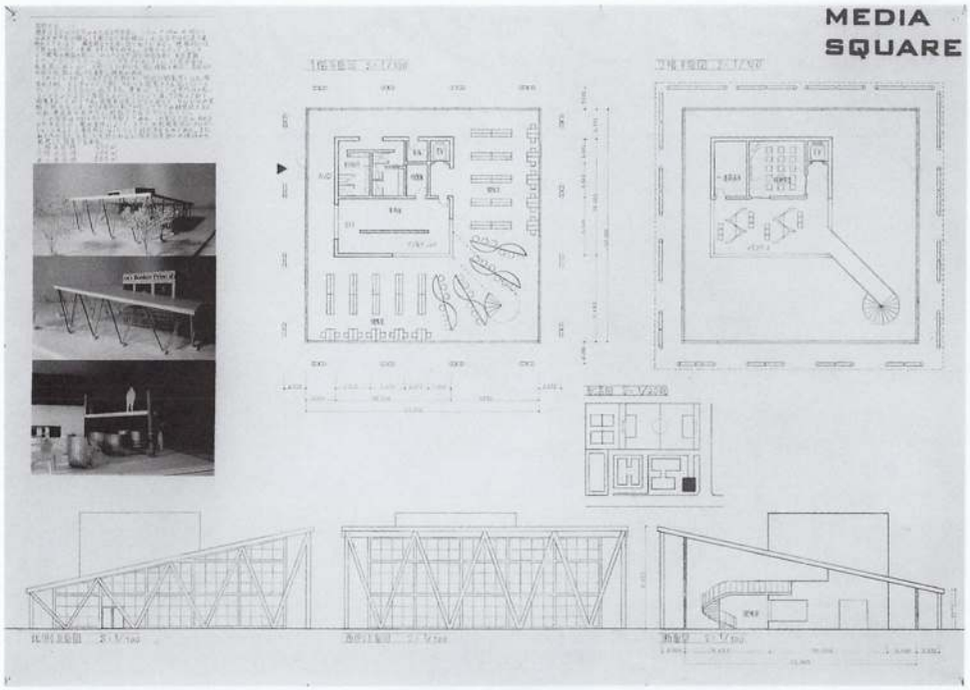
入選　最優秀賞　**坊内文彦**（大阪市立工芸高等学校３年）

作品の中にある学校は僕の中学校なんです。３年間通い続けた学校ですから、色々なことをすぐに思いつきました。そして「つながる」という点に注目して、そのためには何が必要であるか何度も何度も本や雑誌で調べました。最終的に校舎を結ぶ大きく長い道を設けました。誰もがこの道を使って会話し、和み、楽しめるような場になるようにとの願いをこめました。

やっと自分が行ってきたことが報われたと思いました。今まで先生に色々なことを指導していただいたおかげで、自分はこの賞をいただけたんだと思いました。

●審査員（50音順・敬称略）

塘　伸夫／㈱東畑建築事務所設計統括部長
井上　久実／井上久実設計室主宰
遠藤　秀平／㈱遠藤秀平建築研究所所長
川原村勝幸／㈱安井建築設計事務所設計部副部長
阪田　弘一／京都工芸繊維大学工芸学部助教授
指田孝太郎／㈱日建設計設計室設計室長
末包　伸吾／神戸大学工学部建設学科助教授
杉原　繁／大阪府都市建築部公共建築室課長補佐
竹原　義二／大阪市立大学生活科学部教授
野村　秀治／清水建設㈱関西事業本部設計二部部長
橋寺　知子／関西大学工学部建築学科専任講師
林　浩二／㈱大林組本店建築設計部部長
前川　治彦／前川治彦建築研究所
松田　善弘／㈱昭和設計執行役員
宮城　浄一／㈱竹中工務店大阪本店設計部副部長



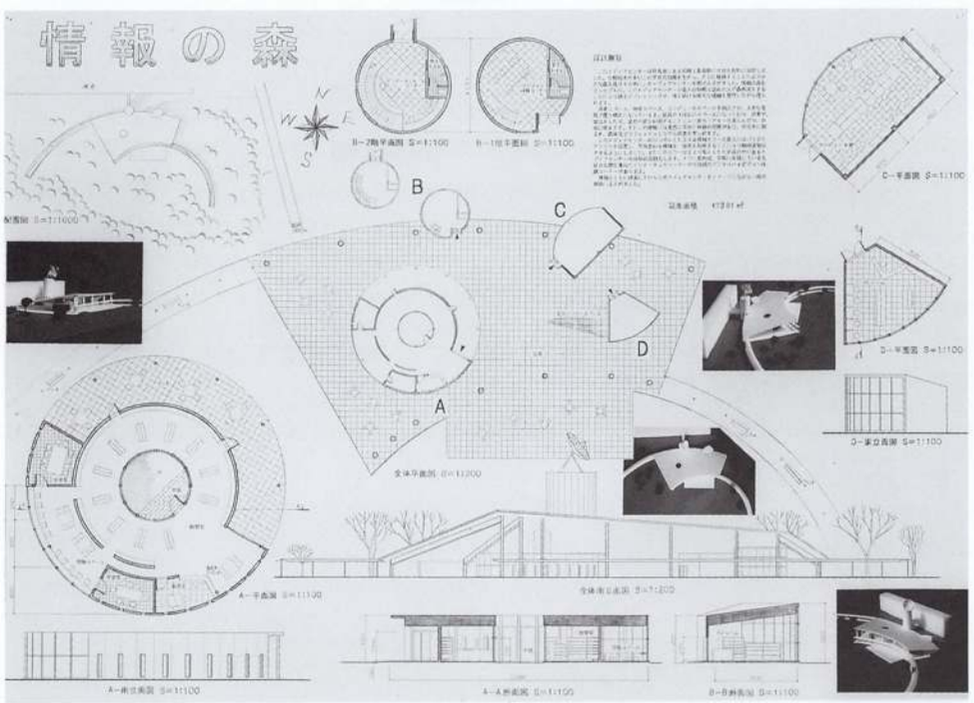
入選　優秀賞　**三枝雄希**

（東京工業大学工学部附属工業高等学校３年）

キャンパスの緑に囲まれた、自然光の多く入るガラスばりで学生たちの入りやすいメディアセンターが自分の高校にもほしいと思いました。シンプルなデザインのインテリアが好きなので取り入れました。自分のデザインしたメディアセンターが、いつかどこかの学校に建ったらいいなぁと願っています。

初めは信じられませんでしたが、通知をいただいたとき実感がわき、脈拍数が30ぐらいあがったと思われるほどうれしかったです。

今回このコンクールで優秀賞をとれたことによって、自信がついて良かったです。見守って下さった先生方に感謝しています。



入選　優秀賞　**森田達也**

（群馬県立前橋工業高等学校３年）

この作品は、成長し続ける情報とともに成長していくメディアセンターをイメージし、森の中に設計しました。用途別に建物を分け、大きな屋根を付けた広場の中に建物を散らばせました。広場の曲線をいかし、広場を中心に回廊を東西に延ばした形にしました。

受験のため夏休みあけからのスタートで、締め切りに間に合うか心配でした。締切日ギリギリまで手を尽くした自分の作品が入選と知り、しかも優秀賞に選ばれ、驚きとうれしさでいっぱいです。高校生活の最後に良い想い出ができたと思います。

ご指導して下さった先生方に感謝いたします。

■課題の趣旨

現在の図書館は、コンピュータを利用した電子目録検索システム（OPAC）の導入だけでなく、他の図書館や大学・研究機関などとの連携（ネットワーク）を図ることが可能となり、その機能の広がりを見せています。最近では、その機能をさらに進化させたメディアセンターがつくられています。

メディアセンターとは、従来の図書の活用を中心とした機能に加えて、インターネットの利用やビデオ・ＣＤ・ＤＶＤなどの新しいメディアを自由に活用し、情報を収集、蓄積、編集、送・受信できるネットワーク環境を備えた新しいタイプの施設といえます。

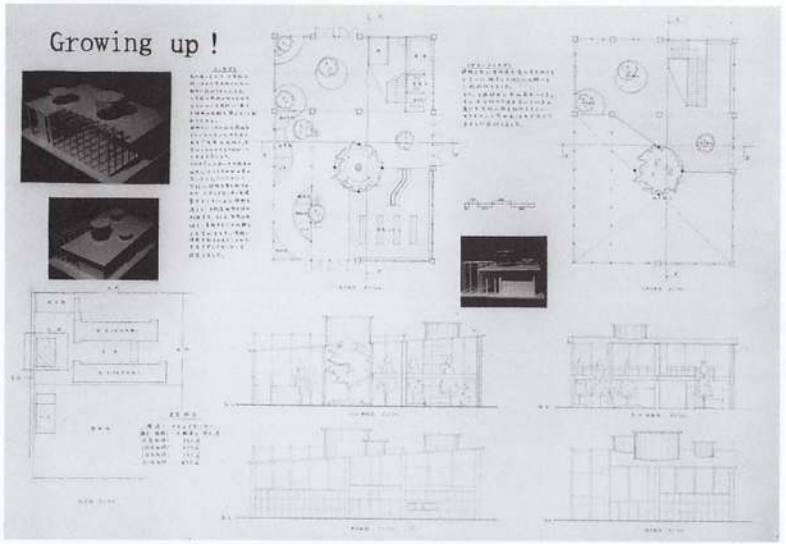
本課題は学校の敷地内に建つものとし、さまざまなメディアを利用した多様な学習活動が可能となる魅力ある空間の提案を求めるものです。

■設計条件

1．敷地：敷地の大きさ形状ともに自由。
2．規模：500㎡以下（増築の場合は既存部分を含む）
3．所要スペース：提案趣旨にそって必要なスペースを適宜設ける。なお、現在利用している図書館や校舎の建て替え・増築も可とする。

■所要図面

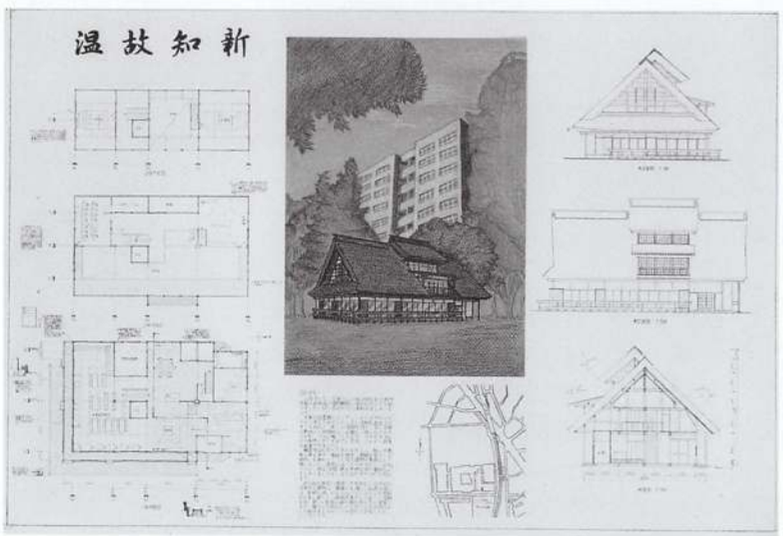
1．配置図：縮尺自由
2．平面図：縮尺１：100
3．立面図：縮尺１：100（１面以上）
4．断面図：縮尺１：100（１面以上）
5．透視図：設計意図が最も反映するところ（アイソメも可）。着彩仕上げ。模型写真に替えてもよい。
6．設計説明：設計趣旨（立地、周囲の状況などについての説明を含む）および建築概要（敷地面積、建築物の構造・階数および床面積など）を示す。
設計意図を表すサブタイトルをつけるのが望ましい。
7．その他：平面図、断面図には、室名・寸法を記入する。その他必要と思われる図面を加えてもよい。



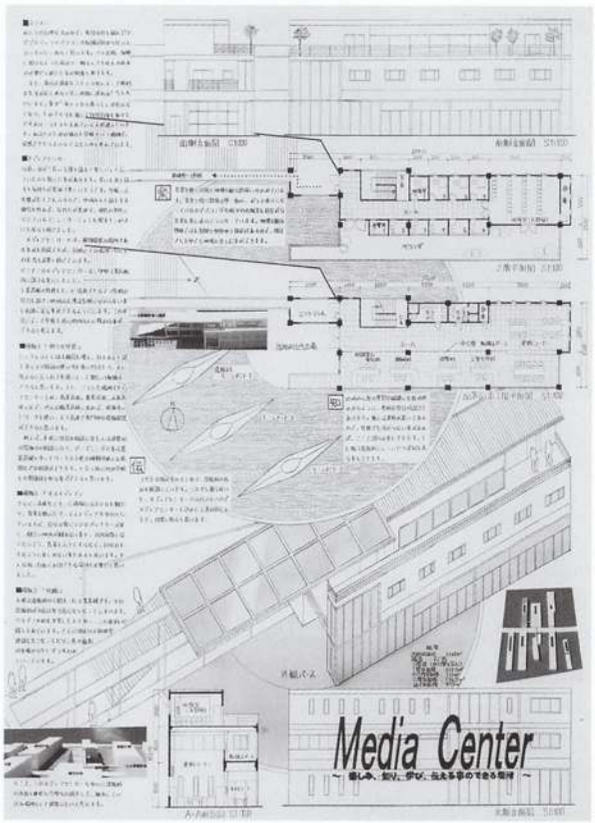
入選　**有藤祐介**（大阪市立工芸高等学校３年）

私は、メディアセンターとは一人ひとりの生徒が忘れることのない「生命の大切さ」を学べるものであってほしいと思いました。そこで考えたものが“植物”です。植物を導入することにより、より良い環境で情報を取り入れ、命の尊さ、大切さを学び、感じることのできる空間にしました。

作品が評価されて非常に嬉しかったです。前回も入選させていただき、「次こそは最優秀をとるぞ」と意気込んでいたため少し残念な気持ちもありましたが、これをバネにして今後の設計に役立てていきたいと思います。指導して下さった先生方、優しく見守って下さった友人や両親に心から感謝しています。



入選　**森川百合**　建築科２年
　　伊藤敏明　建築科３年
（神奈川県立神奈川工業高等学校）



入選　**大澤梨那**（三重県立伊勢工業高等学校２年）

今年度、私の学校の造船科が長い歴史に終わりをつげようとしています。伊勢工業は造船科を元にして出来た学校なので、多くの人が寂しく思っています。そこで情報交換の場であるメディアセンターで、これからも造船科の歴史などを伝えていくことが出来たらと思い、池の上にモニュメントを浮かべて表しました。

１ヵ月で、あれだけの図面をかけたことが自分の中で驚きでした。だんだん形になってくるにつれ、楽しさや喜びが大きくなっていくのが、手に取るように分かりました。

はじめて挑戦するコンペで入選し、すごく嬉しいです。ありがとうございました。

一番好きな木造建築にこだわってみました。もともと民家だったものをリノベーションすることで、生徒たちに故郷に帰ったようなリラックスした雰囲気の中で本に親しみ、新しい情報を得、創造的に取り組める空間をつくり出したい、と思い設計しました。

入選したという連絡を受けたときは絶対夢だと思いました。でも跳び上がるほど嬉しかったです。この作品はたくさんの人の協力で完成しました。指導をして下さった建設科の先生や司書の先生、先輩方に本当に感謝しています。また支えてくれた家族や友達にも感謝の気持ちでいっぱいです。

●審査記録

９月30日　応募作品受理

10月７日　予備審査―応募作品について応募規定違反の有無を調べ、その検討を行った。（教育委員会・工高生教育小委員会）

10月17日　事前審査―審査会欠席の審査委員１名による審査

10月18日　審査会――審査委員14名（審査時間　13：50～17：40）

●審査経過

審査を開始するにあたり、本年度の応募校、応募数の報告と、大きな違反がなかった旨の予備審査の結果の報告があった。

続いて審査委員長より、審査方針の確認があり、審査に入った。

■１次審査（審査委員14名、事前審査１名）

全応募作品について、審査委員１名が10作品を選んで投票し、当日欠席の審査委員の事前審査の投票を加え、集計をした。

得　票	12	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
作品数	2	2	1	1	1	2	4	3	5	7	10	47

得票１および２の17作品について議論したが、審査通過となる作品がなく、得票３以上の21作品を１次審査通過とした。

（審査時間　13：45～15：30）

■２次審査（審査委員14名）

まず、21作品について議論を行った。１次審査の投票で10票と12票を取得した４作品はシードとし、審査委員１名が５作品を選んで投票した。

得　票	14	12	10	9	7	6	3	2	1	0
作品数	1	1	1	1	1	1	2	1	4	4

シードおよび得票１以上の作品について議論を行い、10作品の入選を決定した。　（審査時間　15：30～16：30）

■３次審査（審査委員14名）

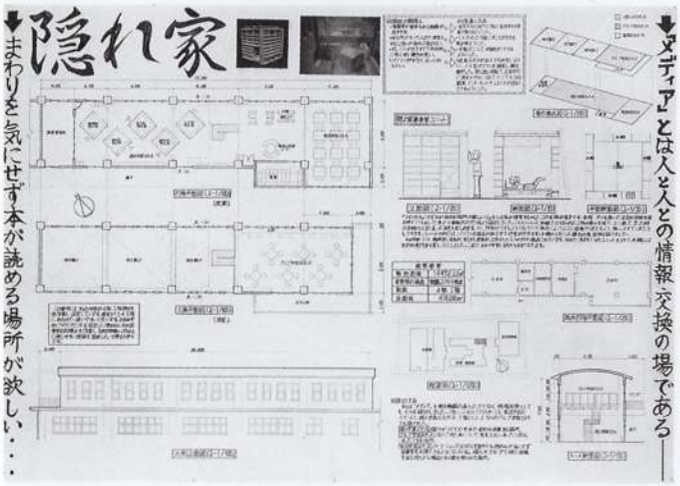
入選作品10作品を対象に議論を行い、審査委員１名が３作品を選んで投票した。　（審査時間　16：40～17：20）

得　票	10	8	7	3	2	0
作品数	1	1	2	2	2	2

■４次審査（審査委員14名）

上位４作品を対象に議論を行い、投票により最優秀１作品、優秀２作品を決定し、審査会を終了した。

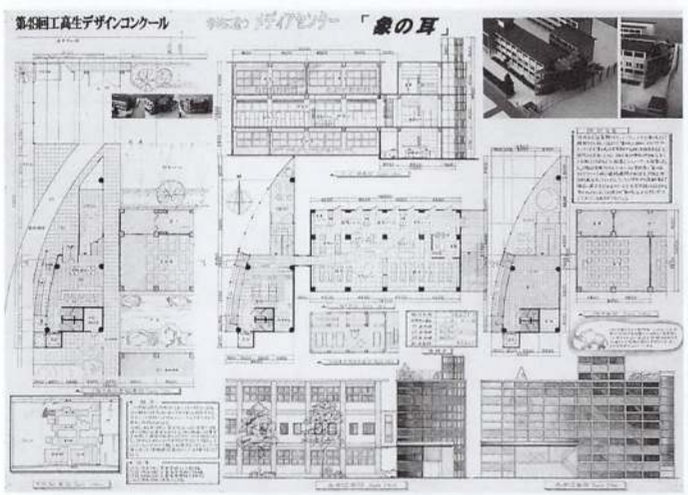
（審査時間　17：20～17：45）



入選 **一木　愛**（山梨県立甲府工業高等学校３年）

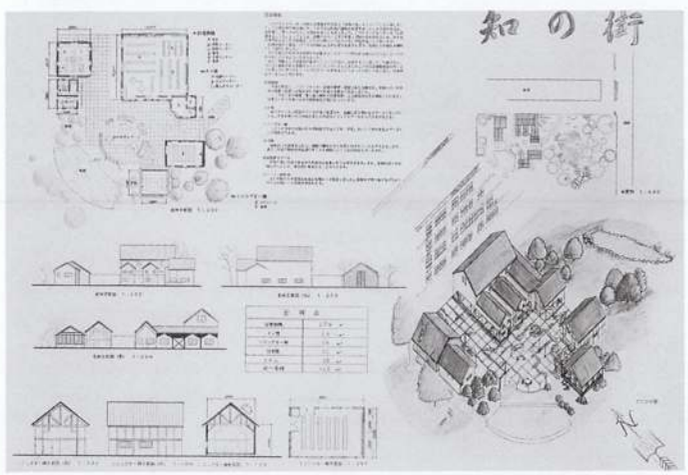
私が自分の学校にメディアセンターを設定した理由は、今の図書室の問題点を改善し、自分の学校に今以上に使いやすい施設を提供したいと考えたからです。図書室をよく利用する私は『まわりを気にせず本が読める場所』が欲しいと思ったので〈隠れ家〉を作りました。ここでは少しの間だけ２畳の自分の世界をもつことができるのです。

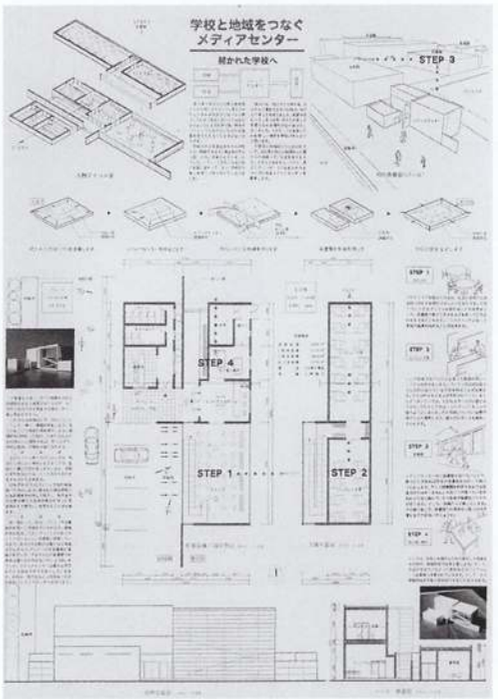
入選の知らせを聞いてビックリしたと同時に、大変嬉しかったです。部活と両立させながら、夏休みから頑張ってきた甲斐がありました。指導して下さった先生方、家族や友達に心から感謝しています。ありがとうございました。



パソコン・携帯などの仮想現実の中で、私たちは人のぬくもりを忘れてしまっているのではないでしょうか。情報交換とはぬくもりのある交流の中から生まれてくるものだと思います。高齢化時代を迎えて、世代をこえた人々の拠点を大切にした情報交換のできる「メディアセンター」を設計しました。

私たちの作品が入選したと聞き、驚きと喜びがありました。提出期限まで１カ月というせっぱつまった状況の中、毎日７時ごろまで残り頑張ってきました。「象の耳」という一見しただけではわからない奥深い作品です。





入選 **山田真太郎**

（三重県立四日市工業高等学校２年）

僕は大工になりたいと思っていたので、建築科へ入学することを決めました。いつでも物を作ったり出来る場面があればいいと思ったのが、このメディアセンターでした。メディアセンターを通して地域と学校が深く関係しあえるようになってほしいと思い、設計しました。

初めてのコンペへの挑戦だったので、入選するとは思ってもいませんでした。クラブとの両立で時間がなかったけれど、最後までやり遂げて満足しています。そして結果を聞いたときにはとても嬉しく思いました。今回のコンペで反省する点を多く見つけることが出来たので、今後につながるように頑張っていきたいと思っています。協力して下さった方々に感謝しています。

入選

牧野真典　建築科３年
巻本　徹　建築科３年
中野匡人　建築科３年
（静岡県立静岡工業高等学校）

入選 **信澤彩穂**（群馬県立前橋工業高等学校２年）

私の作品は、昭和の街並みをモチーフにしています。狭い土地にひしめくように建つ商店街を表現し、どこか懐かしい、ゆったりできるスペースづくりを目指しました。コンクリートに短い軒と瓦屋根は、私のイメージする古い本屋そのままです。通路に配したパーゴラにはツタを絡ませ、やわらかい光が入るようにし、学校の施設としては異色の畳のスペースにも「和める」場所の提供を目的としました。

短い期間で仕上げたあらの多い作品だったので、先生に呼ばれて入選を伝えられたときは全く実感が持てませんでしたが、今は嬉しいです。

先生方、毎日遅くまでご指導下さり、本当にありがとうございました。

●応募学校
・北海道
旭川工業高等学校
・宮城県立
仙台工業高等学校
・群馬県立
高崎工業高等学校
・群馬県立
前橋工業高等学校
・国立
東京工業大学工学部
附属工業高等学校
・東京都立
田無工業高等学校
・神奈川県立
神奈川工業高等学校
・山梨県立
甲府工業高等学校
・静岡県立
静岡工業高等学校
・愛知県立
一宮工業高等学校
・私立
名古屋工業高等学校
・岐阜県立
中津川工業高等学校
・三重県立
伊勢工業高等学校
・三重県立
四日市工業高等学校
・滋賀県立
八幡工業高等学校
・大阪府立
今宮工業高等学校
・大阪市立
布施工業高等学校
・大阪市立
工芸高等学校
・大阪府立
都島工業高等学校
・京都市立
伏見工業高等学校
・兵庫県立
兵庫工業高等学校
・宮崎県立
都城工業高等学校

入選者の感想文は誌面の関係上、委員会にて要約の上、掲載しました。
文責・神野　茂／教育委員会

写真撮影
スタジオ　コムズ

新年のご挨拶

平成16年元旦

浅海伸之

浅海電気株式会社 代表取締役社長

〒530-0047 大阪市北区西天満3丁目7番4号　電話06（6362）8711

市川宏

名誉会長

株式会社　東畑建築事務所 取締役会長

〒541-0044　大阪市中央区伏見町4—4—10　電話06（6202）0391

植野知雄

株式会社　寿建築積算事務所　代表取締役

〒542-0083　大阪市中央区東心斎橋1丁目16-29　つるのすビル
電話06（6244）1561代

佐々木徹

西日本建設業保証株式会社　取締役社長

〒550-0012 大阪市西区立売堀2丁目1番2号　電話06（6543）2553

佐野正一

名誉会長

株式会社 安井建築設計事務所 代表取締役相談役

〒540-0034 大阪市中央区島町2丁目4番7号 電話06（6943）1371代
〒662-0064 自宅・西宮市雲井町4の9　電話0798（72）1569

城口庸平

株式会社 大阪城口研究所　代表取締役会長

〒530-0017　大阪市北区角田町2番15号　電話06（6372）7151代

徳岡昌克

株式会社　徳岡昌克建築設計事務所
MASAKATSU TOKUOKA ARCHITECTS
代表取締役会長

〒530-0047　大阪市北区西天満6丁目3番11-205号　電話06（6499）0701
〒532-0033　自宅・大阪市淀川区新高6丁目6番18号　電話06（6391）8182

内藤正克

株式会社　内藤建築設計事務所　相談役会長

〒675-1379 兵庫県小野市上本町240 小野ビル　電話0794（62）4757代
〒675-1362 自宅・兵庫県小野市久保木町1063　電話0794（62）4668

原田明治

財団法人　大阪住宅センター　理事長

〒542-0081 大阪市中央区南船場4丁目4番3号
御堂筋アーバンライフビル4F
電話06（6253）0071
FAX06（6253）0145

真塚達夫

株式会社　東畑建築事務所　取締役社長

〒541-0044 大阪市中央区伏見町 4 — 4 — 10
電話06（6202）0391

松原満佐子

有限会社　柳々堂　代表取締役

〒550-0003 大阪市西区京町堀1-12-3　電話06（6443）0167～8
FAX 06（6443）1826

中村光男

日建設計　取締役社長

〒541-8528 大阪市中央区高麗橋4丁目6番2号　電話06（6203）2361

薬袋公明

名誉顧問

日建設計　名誉会長

〒541-8528 大阪市中央区高麗橋4丁目6番2号 電話06（6203）2361

村石全

株式会社クトクコーポレーション
ミユキ建設株式会社　代表取締役社長

〒556-0021 大阪市浪速区幸町2丁目5番3号　電話06（6568）3671
〒596-0011 工場・岸和田市木材町9番地の3 電話0724（37）2524
〒649-7167 工場・和歌山県伊都郡かつらぎ町移430番地
電話0736（22）7880

森田司郎

財団法人　日本建築総合試験所　理事長

〒565-0873　吹田市藤白台5丁目8番1号　電話06（6872）0391
http://www.gbrc.or.jp

山本貴士

朝陽電気株式会社　代表取締役

〒530-0005 大阪市北区中之島3丁目2番4号　電話06（6385）1361代表
朝日ビルディング内
〒565-0873　自宅・吹田市藤白台4丁目23番8号
電話06（6871）0851

和中勝

株式会社　和中商店　取締役相談役

〒531-0072　大阪市北区豊崎5丁目8番11号
電話06（6371）0731～5
〒150-0031 東京都渋谷区桜丘町11-5　電話03（3464）9723
〒453-0804 名古屋市中村区黄金通3丁目34番地 電話052（481）7338
〒662-0836 自宅・西宮市大畑町10-22　電話0798（67）0386

新年のご挨拶

平成16年元旦

設計事務所有志

株式会社 伊藤建築設計事務所

代表取締役会長　織　田　愈　史
代表取締役社長　森　口　雅　文

本社・名古屋事務所　〒460-0002 名古屋市中区丸の内一丁目15番15号（桜通ビル）電話〈052〉222-8611
東京事務所　〒101-0021 東京都千代田区外神田三丁目5番12号（聖公会神田ビル）電話〈03〉5294-6211

URABESEKKEI
株式会社 浦辺設計

URBAN DESIGN & ARCHITECTURE FOR BEAUTIFUL ENVIRONMENT

代表取締役　松　村　慶　三

大阪市北区梅田1丁目12番39号・新阪急ビル　〒530-0001　電話 06 (6341) 1680
岡山事務所　岡山市問屋町26－103　〒700-0977　電話 086 (245) 0090

株式会社 瀬戸本淳建築研究室 ISO9001

代表取締役　瀬　戸　本　淳

神戸事務所　〒650－0024 神戸市中央区海岸通1丁目1－1神戸郵船ビル　TEL078－333－0138
東京事務所　〒151－0071 東京都渋谷区本町3-39-3新宿ビジネスタワー　TEL03－5302－0138

株式会社 大建設計

代表取締役社長　隅　谷　康　彦
代表取締役専務 大阪事務所長　島　幸　一　郎

大阪市西区京町堀1-13-20　電話06(6449)6800(代表)
東京・名古屋・福岡・札幌・仙台・京都・広島・北九州

株式会社 東畑建築事務所

取締役会長　市　川　　宏
取締役社長　真　塚　達　夫

本社・大阪事務所　〒541-0044　大阪市中央区伏見町4-4-10　Tel (06) 6202-0391
http://www.tohata.co.jp
大阪・東京・名古屋・九州

日建設計

取締役社長　中　村　光　男

東　　京　102-8117　東京都千代田区飯田橋2丁目18番3号　電話（03）5226-3030
大　　阪　541-8528　大阪市中央区高麗橋4丁目6－2　電話（06）6203-2361
名 古 屋　460-0008　名古屋市中区栄4丁目15－32　電話（052）261-6131

コストコンサルタント　建築積算・概算・VE　建築積算システム開発

NISSEKI SURVEY

株式会社 日積サーベイ

代表取締役　生　島　宣　幸

本　　社　〒540-0012 大阪市中央区谷町3丁目1番9号 MG大手前ビル
TEL 06-6944-2755　FAX 06-6944-2390
東京支所　〒106-0041 東京都港区麻布台1-4-3 エグゼクティブタワー麻布台401号
TEL 03-5575-5045　FAX 03-5575-5046
http://www.nisseki-survey.co.jp

安井建築設計事務所

代表取締役社長　佐　野　吉　彦

本　社　〒540－0034　大阪市中央区島町2－4－7　TEL（06）6943－1371（代表）
支　社　大阪・東京・名古屋・広島・福岡　　http://www.yasui-archi.co.jp/

新年のご挨拶

平成16年元旦

建設業有志

人・都市・自然のシンフォニー

Asanuma

株式会社 浅沼組

取締役社長　浅　沼　健　一

本社・大阪本店　大阪市天王寺区東高津町12番6号　電話06(6768)5222
東京本店　東京都新宿区荒木町5番地　電話03(5269)3111
名古屋支店　名古屋市中村区名駅南三丁目3番44号　電話052(571)5571
支　　店　北海道・東北・横浜・神戸・広島・九州

OBAYASHI

株式会社 大林組

取締役会長　大　林　剛　郎
取締役社長　向　笠　愼　二

東京本社　東京都港区港南2－15－2　電　話　03(5769)1111
本　　店　大阪市中央区北浜東4－33　電　話　06(6946)4400
支　　店　札幌・東北・横浜・北陸・名古屋・神戸・広島・四国・九州

株式会社 奥村組

取締役社長 奥村太加典

本　社 〒545-8555 大阪市阿倍野区松崎町二丁目2番2号 電話 大阪(06)6621-1101(代表)
東京本社 〒108-8381 東京都港区芝五丁目6番1号 電話 東京(03)3454-8111(代表)

100年をつくる会社

鹿島
KAJIMA CORPORATION

代表取締役社長 梅田貞夫
専務取締役関西支店長 井保武寿

本　社 東京都港区元赤坂 1－2－7 電話 03(3404)3311(大代)
関西支店 大阪市西区阿波座 1－3－15 電話 06(6536)3311(大代)

人がつくる、人の場所。

SHIMIZU CORPORATION
清水建設

取締役社長 野村哲也
専務執行役員関西事業本部長 増島修二

本　社 東京都港区芝浦 1－2－3 電話 03(5441)1111
関西事業本部 大阪市中央区本町 3－5－7 電話 06(6263)2800

大地への愛　人間への愛

銭高組

社長 銭高一善

本　店 大阪市西区西本町2丁目2番11号
なにわ筋ツインズ ウエスト
大阪 (06) 6531－6431
本　社 東京都千代田区一番町31番地
東京 (03) 3265－4611
支社・支店 大阪・東京・北海道・東北・北関東・千葉
横浜・北陸・名古屋・神戸・広島・四国・九州
URL http:// www. zenitaka. co. jp/

TAISEI
大成建設株式会社

社長 葉山莞児
常務関西支店長 氏原完典

本　社 東京都新宿区西新宿1丁目25番1号 新宿センタービル TEL03(3348)1111大代表
関西支店 大阪市中央区南船場1丁目14番10号 TEL06(6265)4504
ホームページ http : // www. taisei. co. jp/

株式会社 竹中工務店

取締役社長 竹中統一

〒541-0053 大阪市中央区本町4丁目1－13 電話 大阪 (6252) 1201番(代表)

戸田建設株式会社

代表取締役社長　加　藤　久　郎
常務取締役大阪支店長　浜　辺　鶴　志

本　　社　〒104-8388　東京都中央区京橋1丁目7番1号　TEL 東京03(3535)1354
大阪支店　〒550-0005　大阪市西区西本町1丁目13番47号　TEL 大阪06(6531)6095
支　　店　東京・千葉・関東・横浜・北陸・名古屋・札幌・東北・広島・四国・九州

不動建設株式会社

取締役社長　福　田　　誠

大阪本社　大阪市中央区平野町4丁目2番16号　　電話０６（６２０１）９２０３番
東京本社　東京都台東区台東1丁目2番1号　　電話０３（３８３７）６００９番
支　　店　北海道・東北・千葉・横浜・北関東・名古屋・神戸・広島・四国・南四国・九州・北九州

Matsumura

株式会社松村組

取締役社長　得　田　芳　宏

本社・大阪本店　大阪市北区東天満1丁目10番20号　電話 大代表 大阪(6353)1131
東京本店　東京都千代田区内幸町1丁目1番2号　電話 大代表 東京(3502)1211
支　　店　名古屋・札幌・東北・広島・九州・神戸・京都・横浜
URL:http://www.matsumura-gumi.co.jp/

保存と開発に
取り組む

総合建設業

yasui moku

株式会社安井杢工務店

代表取締役社長　安　井　　洋

本　　社　〒617-0006 京都府向日市上植野町御塔道42　TEL.(075)933-0012㈹　FAX.(075)933-4931
東京事務所　〒106-0047 東京都港区南麻布5-5-20 麻布コーポラス103　TEL.(03)5798-4307　FAX.(03)3443-2703
http://www.yasuimoku.co.jp/　E-mail:moku0744@lilac.ocn.ne.jp

新年のご挨拶

平成16年元旦

団体・報道・建材・設備工事有志

財団法人 大阪建築防災センター

理事長　白　石　靜　二

〒540-0012　大阪市中央区谷町3－1－17（トレンザビル3階）　電話　06(6943)7253

建築確認検査機構

（本所）〒540-0012　大阪市中央区谷町3－1－17（トレンザビル2階）　電話　06(4794)8270
URL　http://www.okbc.or.jp
（支所）豊中・枚方・岸和田・八尾・和泉（分室）

社団法人 日本建築協会京都支部

支部長　望月秀祐

〒604-0944 京都市中京区押小路通柳馬場東入 京都建設会館別館 電話075(211)2857·2877

社団法人 日本建築協会中国支部

支部長　古林敏郎

〒730-0042 広島市中区国泰寺町1丁目8－4日興ビル内 TEL 082(244)2111

社団法人 日本建築協会東海支部

支部長　松本壮一郎

〒460-0008 名古屋市中区栄4丁目3－26(昭和ビル5階) 電話 052(261)1451

社団法人 日本建築協会和歌山支部

支部長　東野信義

〒640-8045 和歌山市ト半町38番地 建築士会館内 電話 073(423)2562

社団法人 日本建築材料協会

会長　柴田藤祐

〒550-0003 大阪市西区京町堀1丁目3番13号辰巳ビル9階 電話06(6443)0345 FAX06(6443)0348
http://www.kenzai.or.jp/

～モノづくりの学校～ 建築 インテリア 大工 設備 環境 土木 ロボット 機械 CAD

学校法人福田学園 OCT大阪工業技術専門学校

Since 1895

〒530-0043 大阪市北区天満1－9－27
（地下鉄谷町線・京阪「天満橋」徒歩7分、JR東西線「大阪天満宮」「大阪城北詰」徒歩10分）

URL http : //www. oct. ac. jp E－mail info@oct. ac. jp 0120-0910-19

〈併設校〉 OCR 大阪リハビリテーション専門学校 （理学療法士 作業療法士 言語聴覚士）
URL http : //www. ocr. ac. jp E－mail info@ocr. ac. jp TEL : 06－6354－0091

1955年創業

建設業界でもっとも信頼　読まれている日刊情報紙

株式会社 **建設日報社**

社主　重村　一

本　社　〒550-0006 大阪市西区江之子島1－7－3　TEL 06(6444)2405－9
別　館　〒550-0006 大阪市西区江之子島1－6－2　TEL 06(6444)6431－4

TOF（フッ素樹脂積層被覆鋼板）、COM（耐酸被覆鋼板）製造及び責任施工

金属製屋根、外装、換気装置工事業

OSHIMA OHYO

代表取締役社長　貞利政和

本社／大阪本店　大阪市旭区太子橋1－15－22　TEL 06－6954－6521
支店、営業所　東京・名古屋・新居浜・四日市・岡山・広島・宇部
工　場　新居浜・寝屋川

大島応用化学工業株式会社

TAJIMA　**株式会社 タジマ**

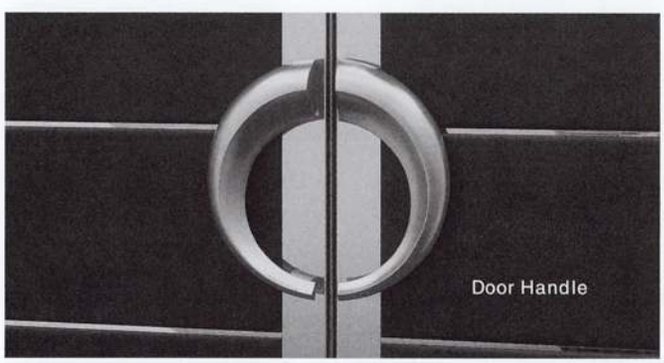
代表取締役社長　田島常雄

東京営業本部　〒101-8577 東京都千代田区岩本町3－11－13　電話(03)5821-7731　FAX(03)3862-5908
大阪営業所　〒550-0003 大阪市西区京町堀 1－10－5　電話(06)6441-5951　FAX(06)6444-2596

YAMAMOTO YOGYO　**山本窯業化工株式会社**

代表取締役社長　山本泰通

本　社　〒564-0051 大阪府吹田市豊津町41-20　TEL(06)6338-8601　FAX(06)6338-8606
大阪支店　〒564-0051 大阪府吹田市豊津町 8 - 7　TEL(06)6338-8701　FAX(06)6384-0557
支店・営業所　東京・名古屋・静岡・広島・福岡・仙台／福崎工場



UNION　環境を考え製品を創る　株式会社ユニオン

iso 9001　iso 14001　www.artunion.co.jp

代表取締役 社長　立野 純三

本社	大阪市西区南堀江2-13-22	〒550-0015
大阪支店	大阪市西区南堀江2-13-22	〒550-0015 tel 06-6532-3731 fax 06-6533-2293
東京支店	東京都江東区白河2-9-5	〒135-0021 tel 03-3630-2811 fax 03-3630-2816
名古屋営業所・ショールーム	名古屋市中川区舟戸町3-20	〒454-0805 tel 052-363-5221 fax 052-363-5255
アトリエユニオン／東京	東京都中央区日本橋室町4-5-1	〒103-0022 tel 03-3517-1818 fax 03-3517-1819
アトリエユニオン／大阪	大阪市西区南堀江2-13-22	〒550-0015 tel 06-6532-8920 fax 06-6533-0224

特集：大阪市住宅局－魅力ある大都市居住の実現に向けて－

協賛

株式会社新日本設備計画　大阪市中央区備後町3-1-6　TEL06-6233-8801

株式会社総合設備コンサルタント大阪事務所　大阪市西区西本町2-1-30　TEL06-6532-1271

株式会社東畑建築事務所　大阪市中央区伏見町4-4-10　TEL06-6202-0391

株式会社安井建築設計事務所　大阪市中央区島町2-4-7　TEL06-6943-1371

株式会社大林組　大阪市中央区北浜東4-33　TEL06-6946-4578

株式会社奥村組　大阪市阿倍野区松崎町2-2-2　TEL06-6621-1101

鹿島建設株式会社関西支店　大阪市西区阿波座1-3-15　TEL06-6536-3311

清水建設株式会社関西事業本部　大阪市中央区本町3-5-7　TEL06-6263-2800

大成建設株式会社関西支店　大阪市中央区南船場1-14-10　TEL06-6265-4534

株式会社竹中工務店　大阪市中央区本町4-1-13　TEL06-6252-1201

大鉄工業株式会社　大阪市淀川区宮原4-4-44　TEL06-6394-1281

前田建設工業株式会社関西支店　大阪市西区江戸堀1-3-15　TEL06-6446-9511

株式会社朝日工業社大阪支社　大阪市淀川区加島1-58-59　TEL06-6302-2273

株式会社三晃空調大阪本店　大阪市北区西天満3-13-20　TEL06-6363-1371

ダイダン株式会社　大阪市西区江戸堀1-9-25　TEL06-6441-8231

株式会社中電工大阪支店　大阪市北区南森町2-2-9　TEL06-6362-8651

丸紅設備株式会社大阪支店　大阪市中央区安土町1-7-13トヤマビル　TEL06-6261-2351

株式会社エービーシー商会　大阪市中央区大手前1-7-31OMMビル8F　TEL06-6944-4900

オリエンタル建設株式会社　大阪市北区芝田2-6-23　TEL06-6372-0104

大阪ガス株式会社エネルギー事業部　大阪市西区千代崎3-南2-37　TEL06-6586-3262

カヤバ工業株式会社大阪支店　大阪府吹田市江坂町1-23-20TEK第2ビル3F　TEL06-6387-3221

関西電力株式会社法人営業部　大阪市北区堂島浜1-4-4アクア堂島東館17階　TEL06-7501-0212

関西ペイント販売株式会社　大阪府吹田市豊津町13-45　TEL06-6337-8056

元旦ビューティ工業株式会社　大阪市中央区高麗橋2-6-10　TEL06-6223-1841

株式会社キョーワナスタ　大阪府豊中市箕輪3-7-20　TEL06-6858-5671

株式会社コトブキ大阪支店　大阪市西区江戸堀1-25-7 江戸堀ヤタニビル　TEL06-6443-8833　http://www.kotobuki.co.jp

小松ウォール工業株式会社大阪市場開発部　大阪市中央区西心斎橋1-1-13　TEL06-6241-8416

三精輸送機株式会社　大阪府吹田市江坂町1-13-18　TEL06-6385-5624

三和シヤッター工業株式会社関西営業推進部　大阪市淀川区宮原4-4-50真和ビル8F　TEL06-6396-6871

新明和エンジニアリング株式会社パーキング事業本部　大阪市福島区福島3-3-9　TEL06-4795-1751

大洋基礎株式会社大阪支店　大阪市中央区本町4-4-10本町美濃部住生ビル　TEL06-6245-7521

太陽工業株式会社　大阪市淀川区木川東4-8-4　TEL06-6306-3078

竹林塗装工業株式会社　大阪市淀川区新北野1-12-2　TEL06-6301-9281

テクノ・ナミケン株式会社　大阪市西区新町1-4-26　TEL06-6533-3855

トキワ産業株式会社大阪営業所　大阪市西成区南開1-2-17　TEL06-6567-3001

ナブコドア株式会社　大阪市西区西本町1-12-22　TEL06-6532-5841

ニッタ株式会社産業資材事業部　大阪市浪速区桜川4-4-26　TEL06-6563-1251

株式会社ピーエス三菱　大阪市北区天満橋1-8-30 OAPタワー　TEL06-6881-1170

フドウ建研株式会社PC事業本部　大阪市中央区瓦町3-3-7瓦町KTビル　TEL06-6201-0131

ブリヂストン建築用品西部株式会社　大阪市西区新町2-4-2　TEL06-6534-1863

文化シヤッター株式会社　大阪市中央区安土町1-7-20トヤマビル中央館8階　TEL06-6264-0618

美和ロック株式会社大阪支店　大阪市城東区東中浜5-7-35　TEL06-6962-5551

山崎産業株式会社営業本部　大阪市中央区南船場3-12-9心斎橋プラザビル東館7F　TEL06-6245-3531

株式会社ユニオン　大阪市西区南堀江2-13-22　TEL06-6532-3188

株式会社淀川製鋼所　大阪市中央区南本町4-1-1　TEL06-6245-1256

ワイエム工業株式会社　大阪市平野区加美西1-9-7　TEL06-6795-5353

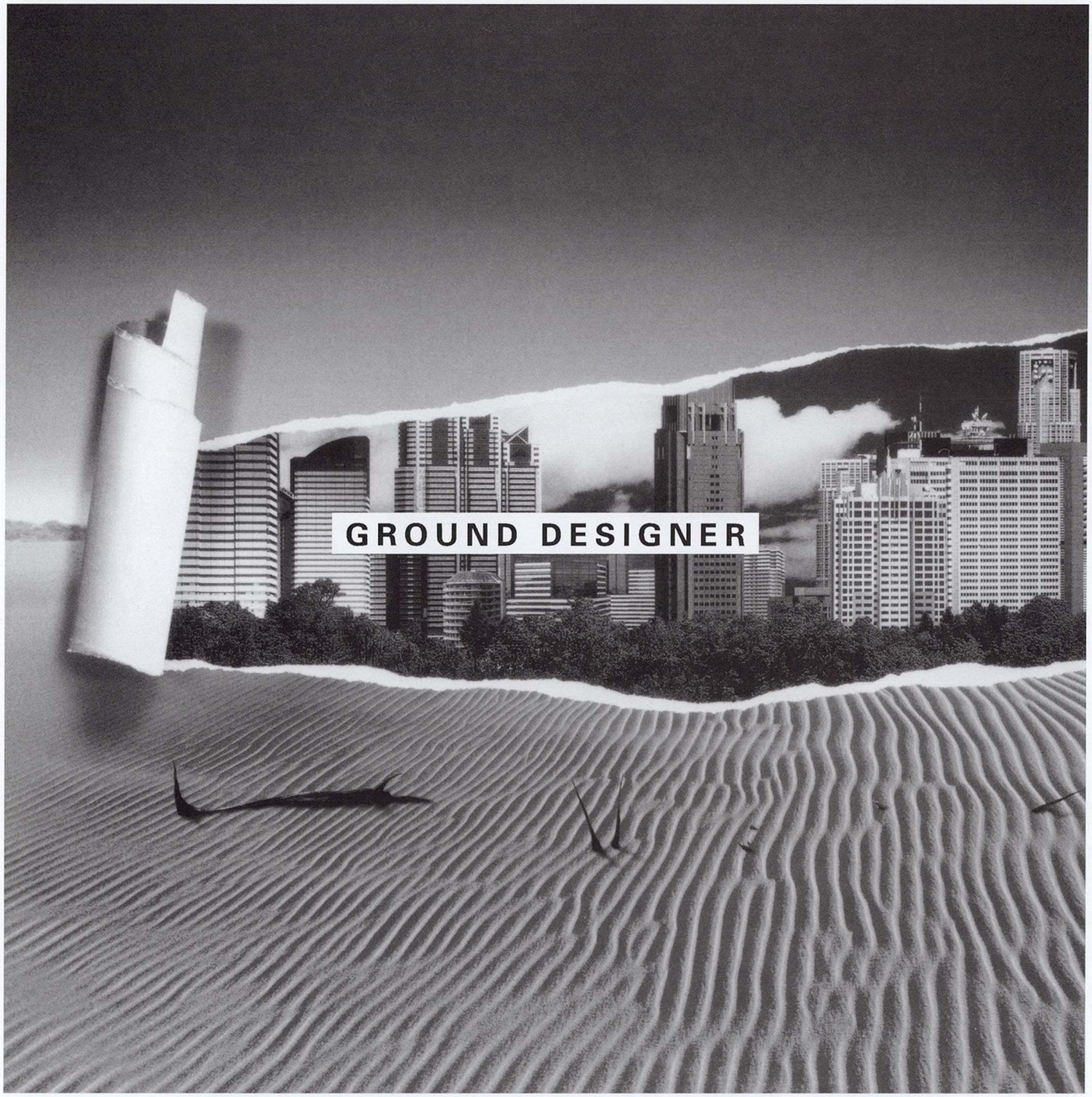
あしたのものがたり

出会いは、
人をゆたかに変えてくれます。
ひとりひとりの夢は、
語られ、共有されて
あしたのたしかなかたちに
なっていきます。
たてものは、人と未来が
出会う場所なのです。



OBAYASHI

大林組
http://www.obayashi.co.jp/



人と自然そして建設が共にある未来へ。グランドデザイナー、カジマ。

鹿島
KAJIMA CORPORATION

本社：東京都港区元赤坂1-2-7〒107-8388　http://www.kajima.co.jp/

200th
新たなるチャレンジへ

SHMZ

マクロにとらえる。

清浄（せいじょう）
空虚（くうきょ）
六徳（りっとく）
刹那（せつな）
弾指（だんし）
瞬息（しゅんそく）
須臾（しゅゆ）
逡巡（しゅんじゅん）
模糊（もこ）
漠（ばく）
渺（びょう）
埃（あい）
塵（じん）
沙（しゃ）
繊（せん）
微（び）
忽（こつ）
糸（し）
毛（もう）
厘（りん）
分（ぶ）



（いち）一
（じゅう）十
（ひゃく）百
（せん）千
（まん）万
（おく）億
（ちょう）兆
（けい）京
（がい）垓
（じょ）秭
（じょう）穣
（こう）溝
（かん）澗
（せい）正
（さい）載
（ごく）極
（ごうがしゃ）恒河沙
（あそうぎ）阿僧祇
（なゆた）那由他
（ふかしぎ）不可思議
（むりょうたいすう）無量大数

ミクロにこだわる。

たとえば地球上の小さな生命をじっと見守るミクロの視点で。たとえば壮大な宇宙をイメージするマクロな発想で。清水建設はいつもそんなふうに自由な着眼点を大切にしながら、豊かな明日を考えています。

人がつくる、人の場所。
SHIMIZU CORPORATION
清水建設
http://www.shimz.co.jp/

大成建設

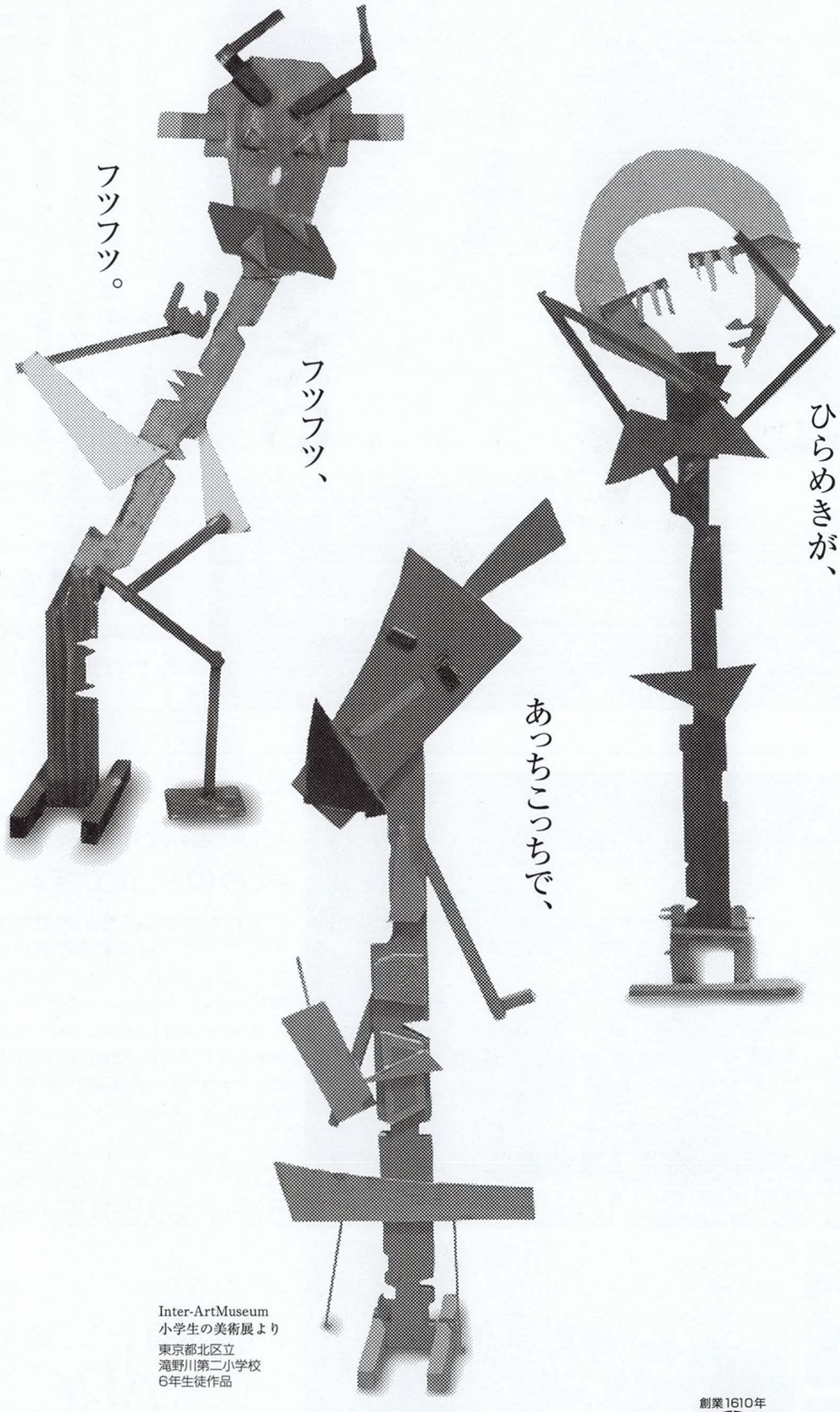
私たちのいちばんの技術は、
お客様の思いを読み取る技術です。

ひとつの建物、ひとつの施設が生まれるまでには、
数えきれぬほど多くの技術が投入されます。
個々の技術はもちろんですが、何よりも大成建設が胸をはって誇りたいのが
お客様の思いを読み取る技術です。
私たちはご利用いただく方の率直な声から引き出された
真のニーズをしっかりと把握し、すべてのプロセスに反映させながら、
大きな満足を創造します。



TAKENAKA
CORPORATION

「?」や「!」を大切にする会社。



Inter-ArtMuseum
小学生の美術展より
東京都北区立
滝野川第二小学校
6年生徒作品

創業1610年
竹中工務店

お問い合わせは ―――― 本社／広報へ
〒541-0053 大阪市中央区本町4丁目1-13 Tel.06(6263)5605
〒104-8182 東京都中央区銀座8丁目21-1 Tel.03(3542)7451

www.takenaka.co.jp



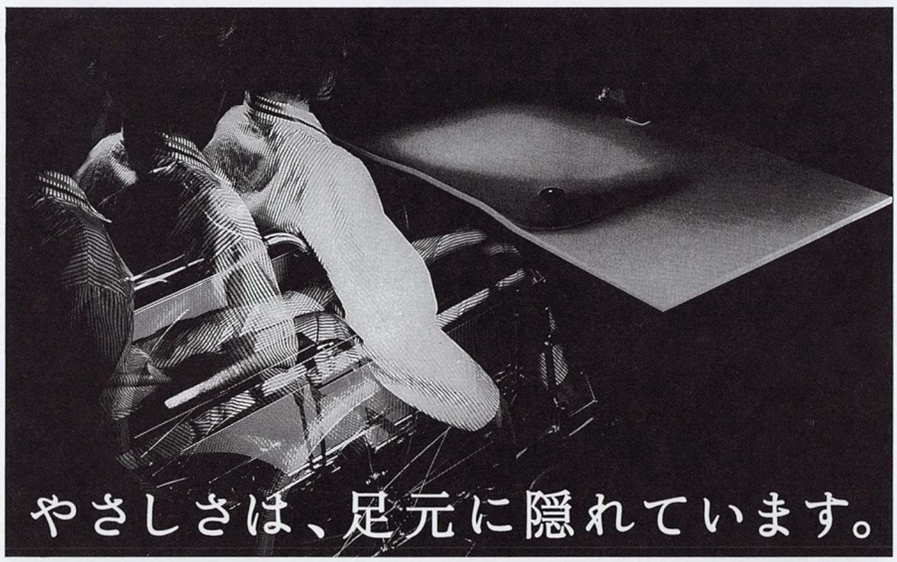
共に在りたい。

例えば、地球温暖化の抑制に役立つ省エネルギー関連技術、水資源の保護や再利用をはかる技術、環境汚染を抑制する技術…。私たち奥村組はコンストラクターとしての立場から、人と地球の豊かな関係を願い、さまざまな技術開発に成果をあげてきました。これからもハード技術とソフト技術を高い次元で融合させながら、地球に生きるすべてのものの共存に貢献していきたいと考えています。

好きです、大地。たいせつに築きます、未来を…

奥村組
OKUMURA CORPORATION

本　社：大阪市阿倍野区松崎町2-2-2 TEL.06(6621)1101
東京本社：東京都港区芝5-6-1 TEL.03(3454)8111



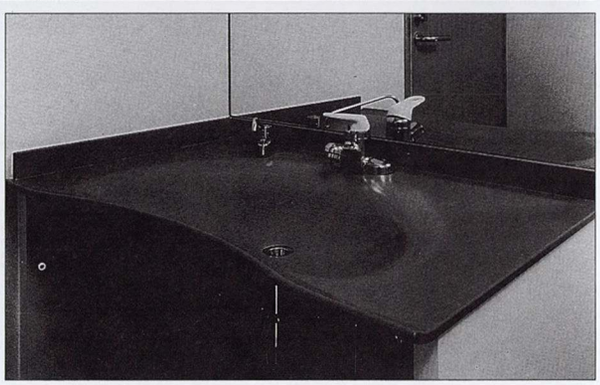
やさしさは、足元に隠れています。



深絞り丸型(RHS-F)



浅絞り丸型(RHS-A)



車イスでも
底が邪魔にならない
浅めの設計です。

それは、すぐれた加工性をもつ建築素材、デュポンコーリアン®の一体成形型洗面カウンターだからです。美しい曲面フォルムや、ボウルの取り付け費用が不要という特長も、一体成形ならでは。もちろん、病院や高齢者施設での使用を前提に開発されています。さらに、継ぎ目が目立たない清潔な方法でのカウンター連結も自由自在。人にやさしく、安全で、清潔な洗面ブースを実現します。

デュポン コーリアン®製 一体成形型洗面カウンター
ラピード ホスピタリティーカウンター

いちばん身近な、環境づくり。

ABC shokai

大阪営業所
〒540-6591大阪市中央区大手町1-7-31 OMMビル8F
TEL 06-6944-4900
<総合建材ホームページでもご覧いただけます。>
http://www.abc-t.co.jp

ALESCO

F★★★★
ホルムアルデヒド登録認定商品

業界初

新開発ホルムアルデヒド放散抑制技術により

待望のF☆☆☆☆SOPができました

■トルエン・キシレン排除
■無 鉛
■再生PETを原料として使用
■上塗り・下塗りの2役こなします
(優れた耐候性+JIS K 5625以上の防さび力)

新開発機能複合型合成樹脂調合ペイント JIS K 5516 2種上塗り用

パワーホルス(F4)

関西ペイント販売株式会社
建設塗料本部
TEL.(03)5711-8901
FAX.(03)5711-8931

●関西ペイントホームページアドレス http://www.kansai.co.jp/

間仕切りの総合メーカー
小松ウォール

GWALL®
ジーウォール
New Office Partition

限られたオフィスを効率的により有効に仕切り、優雅で開放感あふれる空間を演出します。
GWALLは、パネルとガラスの組合せにより、個性的でしかもワークスタイルに合わせたオフィス空間を提供します。

開放感あふれる明るい新感覚のオフィス空間を創造

小松ウォール工業株式会社

本　　社／石川県小松市工業団地1丁目72番地　☎(0761)21-3131(代)
東京市場開発部／東京都千代田区一番町13-3　☎(03)3263-2771(代)
大阪市場開発部／大阪府大阪市中央区西心斎橋1-1-13　☎(06)6241-8416(代)
URL http://www.komatsuwall.co.jp/

Engineering and Service



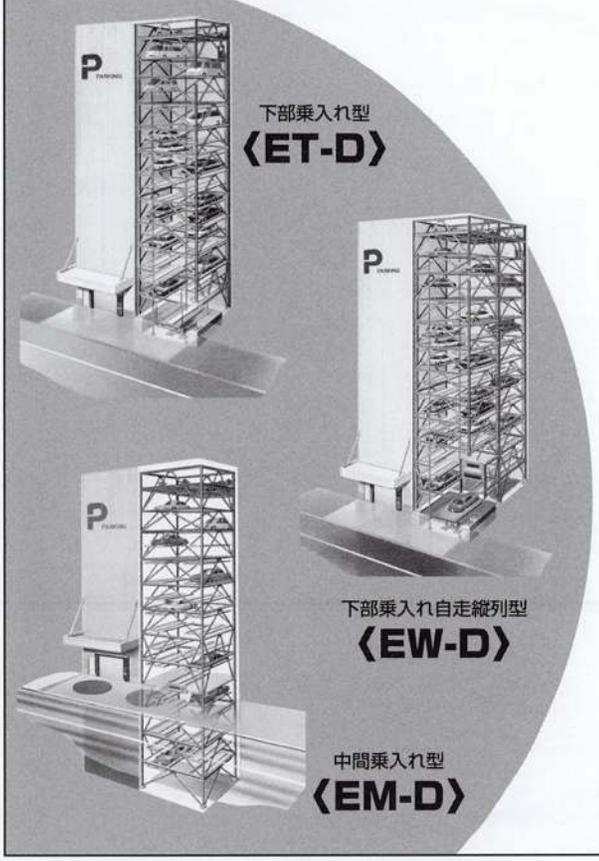
人類はグローバル・パワーで
環境破壊を懸命に
くい止めようと努力している
星を汚した現代人……
次代人にきれいな星を渡したい。

空気調和・衛生設備・設計施工
株式会社 三晃空調

本　社
大阪本店　大阪市北区西天満3-13-20　電話（06）6363-1371
東京本店　東京都新宿区西新宿2-6-1　電話（03）3344-7911
支　店　仙台・横浜・名古屋・京都・神戸・広島・福岡

新明和駐車設備

ShinMaywa



トップクラスのコンパクト設計。
フレキシブルに3車種を収容。



さらに進化を続けるエレパーク。

- 駐車設備の平面・高さ寸法をさらに縮小、業界トップクラスのコンパクト化を実現。
- 乗用車、ミドルルーフ車、ハイルーフ車など3車種をフレキシブルにミックス収容。
- パレットが地震の揺れでも落下することのない保持機構（特許出願中）を他社に先駆けて採用。
- 出水対策として、ピット内の旋回機構を冠水させない機構（特許出願中／オプション）を新開発。
- 365日・24時間のアフターサービス、異常をいち早く発見する管理支援システム（MAIN）もご用意。

新明和エンジニアリング株式会社　パーキング事業本部
パーキング営業部　〒110-8620 東京都台東区東上野5丁目16-5（新明和上野ビル）TEL:03-3842-6101　FAX:03-3842-6102
関西第一営業所　〒553-0003 大阪市福島区福島3丁目3-9　TEL:06-4795-1751　FAX:06-4795-1780



あなたの、
いちばん心地良い場所はどこですか。
きっと、多くの方が、
大自然の中をイメージされることでしょう。
私たちは、そんな快適さを
あらゆる建物の内に
創造していきたいと考えています。
もっとナチュラルに、
いつもあなたのそばに、ダイダンです。

Always With You.

―光と空気と水を生かす―
ダイダン

「窓」を開く時

ふと我に返るような時、人は窓辺にたたずみます。
建物の、内と外との接点である「窓」は、
人が心を開く場所かもしれません。
私達テクノ・ナミケン株式会社は、窓を作り続けて80余年。
これからも心をこめた仕事を続けたいと思います。
オリジナル・オーダーサッシのテクノ・ナミケンです。

テクノ・ナミケン株式会社

〒550-0013 大阪市西区新町1丁目4-26栄泉四ツ橋中央ビル
TEL.06-6533-3855㈹ FAX.06-6533-3852
http://www.t-namiken.co.jp

TECHNO
NAMIKEN

ORIGINAL & ORDER SASH of TECHNO NAMIKEN

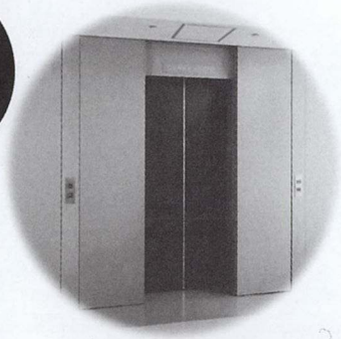
三和シャッター

三和の遮煙防火設備がエレベータ前防火区画の遮煙対策に威力を発揮します。

近年、多くのビル火災で煙により尊い命が失われていることから、いざというときに重要なのが遮煙防火設備。
ドアコン遮煙引き戸をはじめ三和の遮煙防火設備には、さまざまなラインアップが揃っています。
ご用途に合わせお選びください。



防煙シャッター＋袖扉（遮煙開き戸）
効率的にまとめて区画するのに最適です。
認定 CAS-0002



ドアコン遮煙引き戸
高い遮煙性能を持ち、意匠性にすぐれています。エレベータの直前で区画するのに最適です。
認定 CAS-0005



ポストレス防煙シャッター（袖扉納まり）
柱を必要としないのでスッキリとした空間を造ることが可能です。
認定 CAS-0002



遮煙開き戸（戸袋付遮煙防火ドア）
コストパフォーマンスが高く、バリエーションも豊富です。
認定 CAS-0002



サンシリカスクリーン（ウォークスルータイプ）
意匠性にすぐれた空間を提供します。
認定申請中

―― 告示1111号失効に伴うエレベータ前防火区画の遮煙対策に ――

三和の遮煙防火設備

国土交通大臣認定取得
CAS-0002　CAS-0004
CAS-0003　CAS-0005
CAS-0003は耐熱ガラス入り遮煙防火ドア
CAS-0004は木質系遮煙防火ドア

三和シヤッター工業株式会社
本社営業推進部　東京都新宿区西新宿2-1-1 三井ビル52Ｆ　Tel.03-3346-3011
関西営業推進部　大阪府大阪市淀川区宮原4-4-50 真和ビル8Ｆ　Tel.06-6396-6871

文化シヤッター

夢を動かす技術がある。

美しいデザインと軽快な開閉が魅力のオーバースライディングドア 住宅用に進化して、すっきりと新登場です。

快適なガレージライフを演出する5つのスピリッツ

STYLISH 美しい
フラット面で構成されたアルミパネルは、これまでにない美しく、上品なフェイス・デザイン。

SPEEDY 速い！
巻取り式電動シャッターと比べると約3倍の速さ、さらに接触音・振動を低減。

SMALL SPACE 小さな納まり！
ヘッドルーム・サイドルームとも業界No.1の小さな納まりを実現。

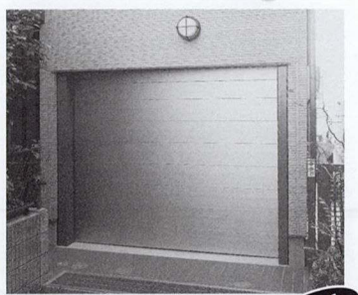


SAFETY 安全・安心！
指はさみ防止と2重の障害物感知装置を装備した安全・安心設計。

SIMPLE 使いやすくシンプル！
軽くて薄いカードリモコン（セレカード）なら、車から降りることなく手元で操作が可能。



〈セレカード〉



住宅用オーバースライディングドア NEW

フラットピット

文化シヤッター株式会社　関西営業推進部
〒541-0052 大阪市中央区安土町1-7-20 8F TEL.06（6264）0618
URL http: //www.bunka-s.co.jp　E-mail kandeve@mail.bunka-s.co.jp

地球にも 既存ビルにも やさしい 屋上緑化。

CONDOR

マット1枚当たり875g



乾燥時のエコグリーンマットは1枚当たり875g。1m²で3.5kgと超軽量です。軽くて持ち運びやすくエレベーターでの搬入も容易。施工性に優れ経済的です。



土のない場所でも手軽に緑化。エコグリーンマットなら施工が簡単！

既存ビルの屋上やベランダを緑化するには、ビルの許容積載荷重や運搬の問題などをクリアしなければなりません。「エコグリーンマット」を使うと手軽に緑化が実現します。保水性や排水性、通気性に優れ土を用いての植栽と比べ重さ約10分の1以下、厚さも約5分の1。薄層軽量サイズだから作業が容易に行え、1か月後には緑に覆われた屋上が誕生します。

屋上緑化用植物栽培マット

エコグリーンマット

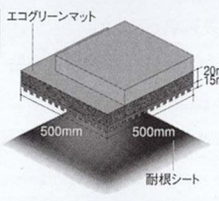


		基本システム（エコグリーンマット単体）	人工土壌併用システム（エコグリーンマット+ビバソイル）
植栽基盤性能	①乾燥重量	3.5kg/m²	15.2kg/m²
	②湿潤重量	13.0kg/m²	38.5kg/m²
	③厚み	35mm	60mm
	④最大含水量	16.5ℓ/m²	35.0ℓ/m²
	⑤湿潤時保水量	9.5ℓ/m²	21.0ℓ/m²
	⑥張り芝重量	約15.0kg/m²	約15.0kg/m²
使用条件	⑦ポット苗植栽	×	○
	⑧埋設型灌水の設置	×	○
	⑨人や車椅子の乗り入れ	○	○
	⑩スポーツターフとしての利用	○（公式以外）	○（公式以外）

※植栽基盤重量としては、②湿潤重量を参考としてください。
※屋上緑化荷重としては、②＋⑥で算出ください。

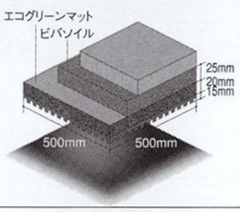
■ 基本システム ■

エコグリーンマットに直接張り芝や播種を行います。張り芝を行った時のm²当たり重量は約28.0kg、播種の場合約13.0kgと最も軽量化が図ることができます。



■人工土壌併用システム■

基盤の保水性や保肥性を向上させると同時に、人工土壌が散水後のマット表面の濡れた状態を緩和します。灌水用ホースを埋設することが可能となります。



環境用品メーカー
ヤマザキ **山崎産業株式会社**
営業本部　大阪市中央区南船場3丁目12番9号（心斎橋プラザビル東館7階）
〒542-0081 TEL（06）6245-3531
http://www.yamazaki-sangyo.co.jp

商品に関するお問い合わせは
カスタマーサービスセンター
（9:00～17:00　但し、土・日・祝日を除く）
フリーダイヤル 0120-530743
FAX 06-4704-0743
パンフレットのご請求はフリーダイヤルで

ISO14001認証登録
登録範囲：製品の企画・設計・開発及び販売　登録証番号：JQA-EM2494
JQA ENVIRONMENTAL SYSTEM　UKAS ENVIRONMENTAL MANAGEMENT 091-C　Accredited by RvA　JAB EMS Accreditation RE006　IQNet

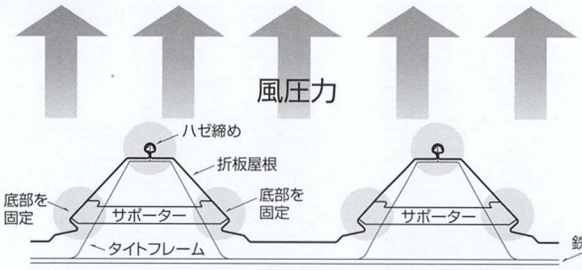
ヨドコウ

台風に負けない折板屋根
ヨドルーフ145 エミュー

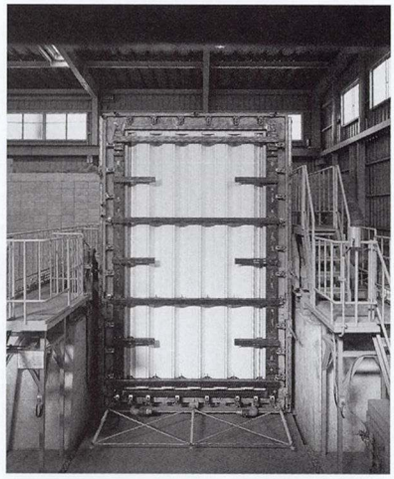


台風に負けない強度

屋根の形状は**底部での固定**を可能にする新方式「下かん合タイプ」を採用。動風圧強度試験機による検証を繰返し、台風に負けない安定した強度を実現しました。風の強い海岸地域や高層建築でも安心して使用できる新世代の折板屋根です。



一般的なハゼ折板は上部1ヶ所の吊子で屋根を支えます。ヨドコウの「エミュー」はサポーターで下部を固定3ヶ所の支点で台風・積雪に負けない強度を確保します。

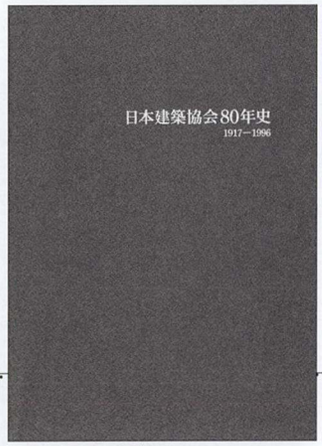


動風圧試験装置

スチール！& アイデア！
淀川製鋼
本　　社　大阪市中央区南本町4丁目1番1号　〒541-0054 ☎(06)6245-1256
東京支社　東京都中央区新富1丁目3番7号　〒104-0041 ☎(03)3551-7941
http://www.yodoko.co.jp

「日本建築協会80年史1917-1996」

増刷頒布中　頒価　3,000円



1999年７月に発刊した「日本建築協会80年史1917-1996」は、各方面から好評をいただいておりますが、このたび、皆様の強いご要望により、増刷・頒布することにいたしました。大正６年３月30日に関西建築協会として誕生した日本建築協会の80年の歴史を、様々な事業や委員会活動を通じて、また、本会設立者の片岡安、武田五一以降現在までの会員たちの社会活動を通して知ることができる記念誌として、A4判・240頁にまとめています。

とくに、協会草創期の大正・昭和初期の片岡安ら協会のメンバーと当時の大阪市長・関　一との交流を物語る一文は、大阪の都市計画史、あるいは関西の建築人物誌ともなっています。本会の歴史を知るだけでなく、建築を通して、それぞれの時代の雰囲気を身近に感じることができる大変貴重な資料となるものです。

購入ご希望のかたは、下記要領でお申し込み下さい。

＊

申 込 先　社団法人　日本建築協会
〒530-0001　大阪市北区梅田1-1-3-2100
TEL 06-6348-0635　FAX 06-6348-0634

頒　　価　１部3,000円（税・送料込み）

※増刷部数には限りがございますので、お早めにお申し込み下さい。

「日本建築協会80年史」

A4判・240頁・並製本

●日本建築協会の沿革／委員会活動／「建築と社会」の変遷／大正時代から現在までの本会主催の博覧会・展覧会・講演会／よろず相談住宅展／青年建築家・青年技術者顕彰／工高生デザインコンクール入選者etc.

●日本建築協会創立者と会を支えた38人のプロフィール（片岡　安・設楽貞雄・武田五一・池田　實・波江悌夫・竹腰健造・尾崎久助・東畑謙三・塚本猛次・福田朝生・佐野正一・葛野壯一郎・横濱　勉・松本禹象・宗　兵蔵・園部文雄・日高　胖・野村一郎・古宇田　實・松室重光・松井貴太郎・安井武雄・中澤誠一郎・坂　靜雄・今林彦太郎・井上新二・松本儀八・池田宮彦・錢高輝之・中西六郎・大林芳郎・鴻池藤一・伊東五郎・竹中錬一・鷲尾健三・松村雄吉・横尾義貫・足立　孝）

●座談会「戦中から戦後初期の協会活動」―尾亀清四郎・大林芳郎・小西　岬・佐野正一・横尾義貫・三品哲夫の6氏による終戦前後の協会活動の証言―

＊

■執筆ワーキンググループ

坂本勝比古／安達英俊／石田潤一郎／植松清志／梅宮弘光／桐浴邦夫／酒井一光／橋寺知子／山形政昭／吉田高子／和田康由

■80年史編纂委員会

長谷部朔郎／安達英俊／近藤達夫／谷淳之介／十倉　毅／原見昌志／和田康由／吉田悦二



「日本建築協会の遺産と功績」（坂本勝比古）より



「草創期の人々」より片岡安の項

空調・衛生・クリーンルーム設備
（設計・施工）

朝日工業社

本社・本店　東京都港区浜松町1-25-7　電話03(3432)5711
大阪支社　大阪市淀川区加島1-58-59　電話06(6302)2270
支　　店　北海道/東北/北関東/横浜/名古屋/中国/九州

より快適な水環境をめざして
給排水衛生設備，冷暖房設備，消火設備の設計，施工

株式会社 西原衛生工業所 大阪本店

大阪本店　〒531-0071　大阪市北区中津六丁目8番4号
TEL 06-6458-3628(代表)
本　　社　〒108-0023　東京都港区芝浦三丁目6番18号
TEL 03-3452-7441(代)
支　　店　札幌・東北・新潟・東関東・横浜・名古屋・九州

電気・空調・衛生・防災・産業廃水設備
設　計　施　工

ダイダン株式会社

本店・大阪本社　〒550-0002　大阪市西区江戸堀1丁目9番25号　電話(06)6441-8231
東京本社　〒102-0071　東京都千代田区富士見2丁目15番10号　電話(03)3261-8231
支　　社　名古屋・福岡
支　　店　札幌・仙台・新潟・大宮・千葉・横浜・金沢・京都・神戸・天理・岡山・広島・高松・熊本
営業所　帯広・函館・青森・秋田・盛岡・前橋・長野・静岡・豊田・津・富山・福井・徳山・松山・高知・北九州・鹿児島・那覇
出張所　旭川・福島・川崎・松江・徳島・下関・長崎・大分・宮崎
海外支店　シンガポール・ホンコン
技術研究所　〒354-0044　埼玉県入間郡三芳町大字北永井390番地　電話(0492)58-1511

CHOYO
人がいる多彩なフィールドで、
新しい限界に挑戦しています。

電気設備設計施工
朝陽電気株式会社
代表取締役　山本貴士

本　　社　〒530-0005　大阪市北区中之島三丁目2-4(朝日ビル)
TEL 06(6385)1361(代)　FAX 06(6385)1050

空気調和設備
給排水設備
電気設備
産業設備
水処理施設
環境施設

三機工業株式会社
取締役社長　宅　清光
常務取締役関西支店長　本木　満

関西支店　大阪市淀川区宮原3-4-30　ニッセイ新大阪ビル　電話 06(6350)8100
本　　社　東京都千代田区有楽町1－4－1　電話 03(3502)6103
支　　店　北海道・東北・関東・千葉・横浜・北陸・名古屋・京都・神戸・四国・中国・九州

電気設備工事設計施工
東光電気工事株式会社
関　西　支　社
常務取締役支社長　髙橋幸久

大阪市中央区高麗橋4丁目3番7号　電話大阪(6202)0325～9番
本　　社　東京都千代田区西神田1丁目4番5号
支　　社　北海道・東北・丸ノ内・新宿・神奈川・東関東・北関東・中部・九州

空気調和・衛生設備・設計施工

株式会社 三晃空調

本　　社　大阪市北区西天満3丁目13番20号　電話06-6363-1671
東京本店　東京都新宿区西新宿　新宿住友ビル　電話03-3344-7911
大阪本店　大阪市北区西天満3丁目13番20号　電話06-6363-1371
支　　店　仙台・横浜・名古屋・京都・神戸・広島・福岡

電気設備設計施工

株式会社 三興社
代表取締役社長　上田正雄

本　社　大阪市北区堂島浜1—4—19（日土地堂島ビル）
電　話　06（6442）3671（代）
支　店　東京都中央区日本橋茅場町2丁目17番3号
電　話　03（3666）1478（代）
営業所　堺・泉州・泉南・滋賀

空調衛生・冷凍冷蔵・地盤凍結
よりよき環境へ技術で挑む

株式会社精研

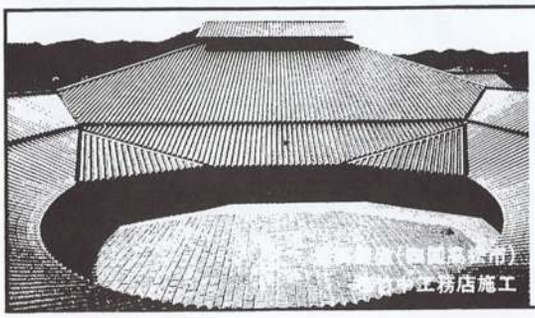
本　　社　大阪市中央区瓦屋町2丁目11番16号(オートセンタービル1・2階)
〒542-0066　電話　大阪（06）6768－5031代表
メンテナンス　電話　大阪（06）6768－1651代表
東京支社　東京都文京区小石川1丁目12番14号(日本生命小石川ビル7階)
〒112-0002　電話（03）5689－2351代表

OKUJU
スペース クリエイター
建築に革命をもたらした技術がある
「大規模天井無足場工法」
内外装創作パネル・システム天井・間仕切
株式会社 オクジュー
本社
大阪市北区西天満5丁目3番7号 〒530-0047
TEL(06)6312-4131 FAX(06)6312-7998
東京・九州・横浜・南九州・名古屋・上海

●情報処理●企画・制作●編集●画像処理●印刷・製本
人と技術をクリエイティヴで結びます
日本データネット株式会社
本社 〒530-0043 大阪市北区天満1-1-10 TEL.06-6352-7502 FAX.06-6355-2714
制作部 〒530-0043 大阪市北区天満1-9-19 TEL.06-6352-0943 FAX.06-6355-5533
印刷工場 〒530-0043 大阪市北区天満2-5-15 TEL./FAX.06-6352-1551

＊奉仕感謝の店
タイル及び規格石一式施工
株式会社 川岸窯業商店
本社 大阪市西区西本町1の13の33
TEL.06—6532—0641(代表)
FAX.06—6535—5181
天理営業所 天理市丹波市新町49

Digital Pri-Press
AOBA PRINTING CO.,LTD.
代表取締役社長 依藤孝行
青葉印刷株式会社
〒534-0027 大阪市都島区中野町2丁目10番11号
Phone.06-6351-5428 Fax.06-6351-5299


〒556-0024
ナニワ瓦株式会社
大阪市浪速区塩草一丁目二番三号
☎ 六五六一—七四五四
ファックス 六五六一—七四一六
あらゆる屋根工事の相談は、

デンカCSAファミリー製品
●デンカCSA（膨張性混和材） コンクリートのひびわれ防止に
●デンカタスコン（グラウト用無収縮材） 鉄骨ベース、逆打部の充填モルタルに
●デンカキューテックス（止水・補修用急硬セメント） コンクリート躯体の漏水補修に
●デンカES（土質安定用急硬材） 地盤補強用薬注入
●デンカΣ1000（製品用超高度混和材） コンクリートパイルの早期出荷とハイモメント製造用に
電気化学工業株式会社
近畿地区販売店
浜宗産業株式会社
TEL 本社・京都・網野（07727）2−2220
舞鶴（0773）76−0133
金森藤平商事株式会社
TEL 大阪（06）6332−6861
TEL 東京（03）3272−8501
小浦産業株式会社
TEL 大阪（06）6443−6181
光洋物産株式会社
TEL 大阪（06）6252−6000
東郷化成株式会社
TEL 滋賀・守山（0775）83−2381
TEL 大阪（06）6877−1581

関西電力

エコノミー・エコロジーのベストバランス。
経費削減、環境想いのエコ・アイス。



安い夜の電気で
上手に節約。
エコノミー！

CO2やNOxを
抑えてクリーン。
エコロジー！

ビル・工場・病院・学校などさまざまな業種・規模の建物に快適空調「エコ・アイス」

エコノミー&エコロジー エコ・アイス 氷蓄熱式空調システム

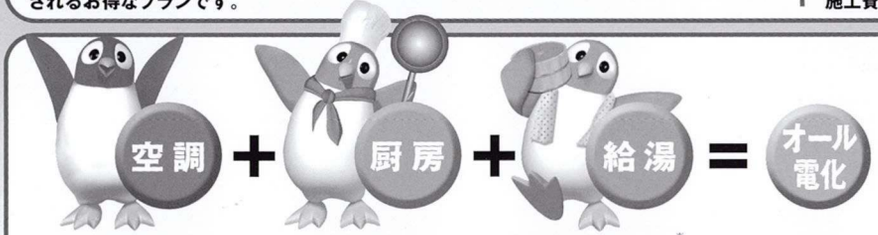
50㎡～200㎡のお店や事務所に業務用エアコン「エコ・アイスmini」

5馬力 6馬力 7馬力
小型氷蓄熱式パッケージエアコン エコ・アイス mini

- 経済性 夜の安い電気（昼間の1/3）で氷やお湯をつくって昼間の冷暖房に利用するので、省コストを実現！
- 省エネ性 電気式ヒートポンプを使用しているため、エネルギーの利用効率が高い！
- 環境性 CO2、NOxの排出量が少ない夜の電気を使うので、環境にやさしい！
- 将来性 イニシャルコスト増分は数年で回収。長く使えば使うほど、ますますおトク！
- 高性能 電気式ヒートポンプは時間帯による空調負荷の変動に対しても安定した能力を発揮！

エコ・アイスパック割引（業務用空調システム契約）**で更にお得！**
「エコ・アイス」と同時に設置される電気空調システムの電力量料金が1kWhあたり4円割引されるお得なプランです。

リニューアルにも対応！！
既設の電気・ガス冷媒配管をそのまま使えるので、工事も簡単!!
施工費と工期を大幅に削減できます！



空調も、厨房も、給湯も、オール電化でさらにおトク！「業務用総合電化契約※」にご加入できます。
「エコ・アイス」をはじめ 空調・厨房・給湯設備をすべて電気でまかなっていただくと、トータルの電気料金が5%割引されるお得なプランです。
※「業務用蓄熱調整契約」と「業務用電化厨房契約」へのご加入が必要です。

◎お問い合わせは関西電力まで
0120
ハイエコアイス
818514
（平日9:00～17:30）
http://www.kepco.co.jp/ecoice



新技術で、地球との共生をめざします。大阪ガス

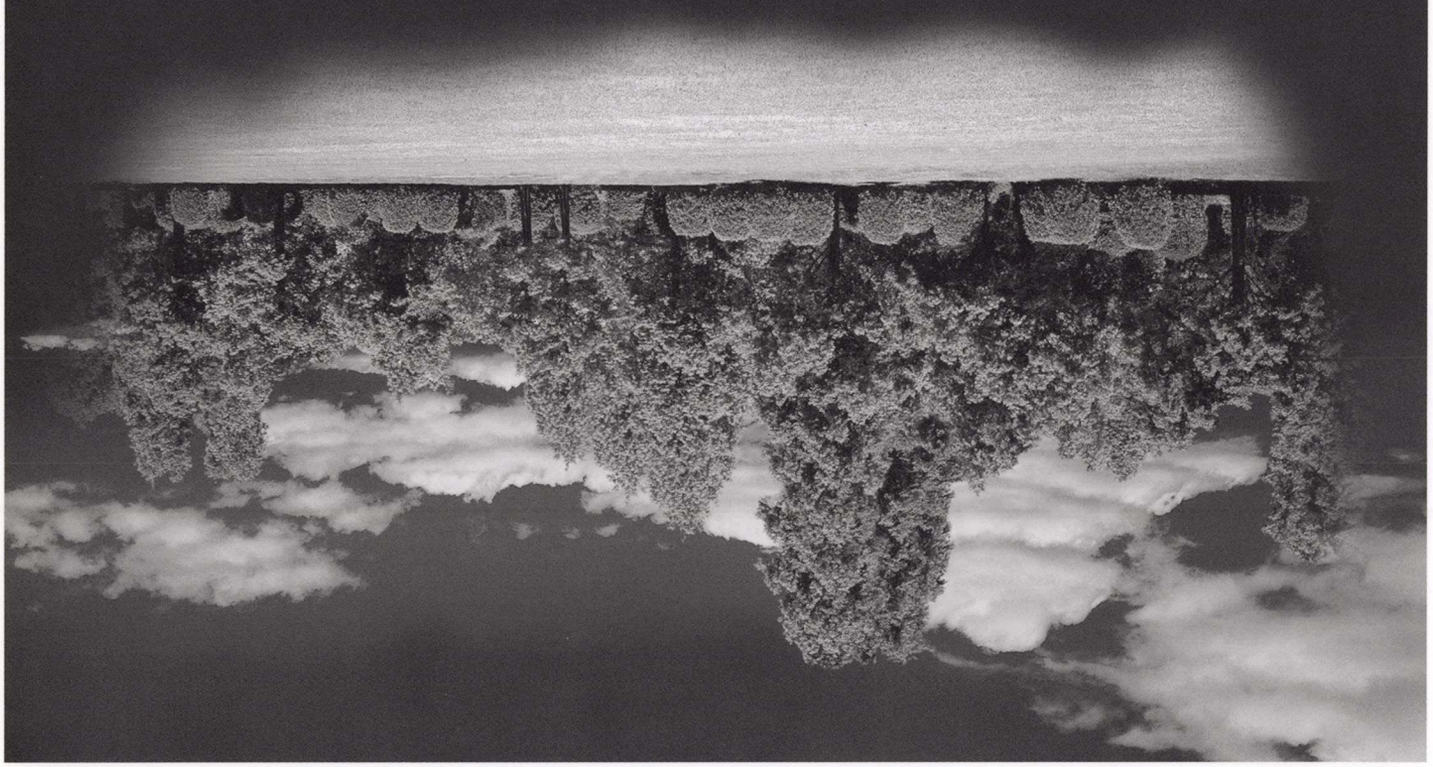
天然ガスは、SOxを排出せず、CO_2・NOxの排出も化石燃料中もっとも少ないエネルギーです。
そのクリーンエネルギーの利点をさらにいかして、地球温暖化をはじめとするエネルギー・環境問題に取り組んでいくこと…
大阪ガスは、エネルギーのベストミックス（太陽光や風力などの自然エネルギーとの共存）という考え方を視野に入れ、
地球との共生をめざした新技術の開発に取り組んでいます。

ガス・コージェネレーション
天然ガスで発電し、その際の排熱を空調や給湯に活用するシステム。
エネルギー効率は実に70〜80%。省エネルギー、CO_2削減に貢献します。

ガス空調
省エネルギー・環境保全・経済性にすぐれたガス空調は、大型ビルから
小さなオフィスまで数多く活躍しています。

燃料電池
天然ガスの主成分メタンから得られる水素と空気中の酸素によって電気を
得る環境負荷の低いシステム。家庭用小型タイプの開発が進んでいます。

都市環境技術
「スーパーごみ発電」、ダイオキシンを99%以上分解する「リバーニング
システム」など、ごみ環境問題と省エネルギーに役立ちます。



建築と社会 01 2004 vol.85 no.982
社団法人 日本建築協会 〒530-0001 大阪市北区梅田1-1-3-2100 電話:06-6348-0635 FAX:06-6348-0634 http://www.aaj.or.jp
毎月1回1日発行 昭和24年3月19日第3種郵便物認可 ISSN 0912-8182
定価1,200円(税込) 正会員の購読料は会費に含めて徴収
雑誌 03379-1